

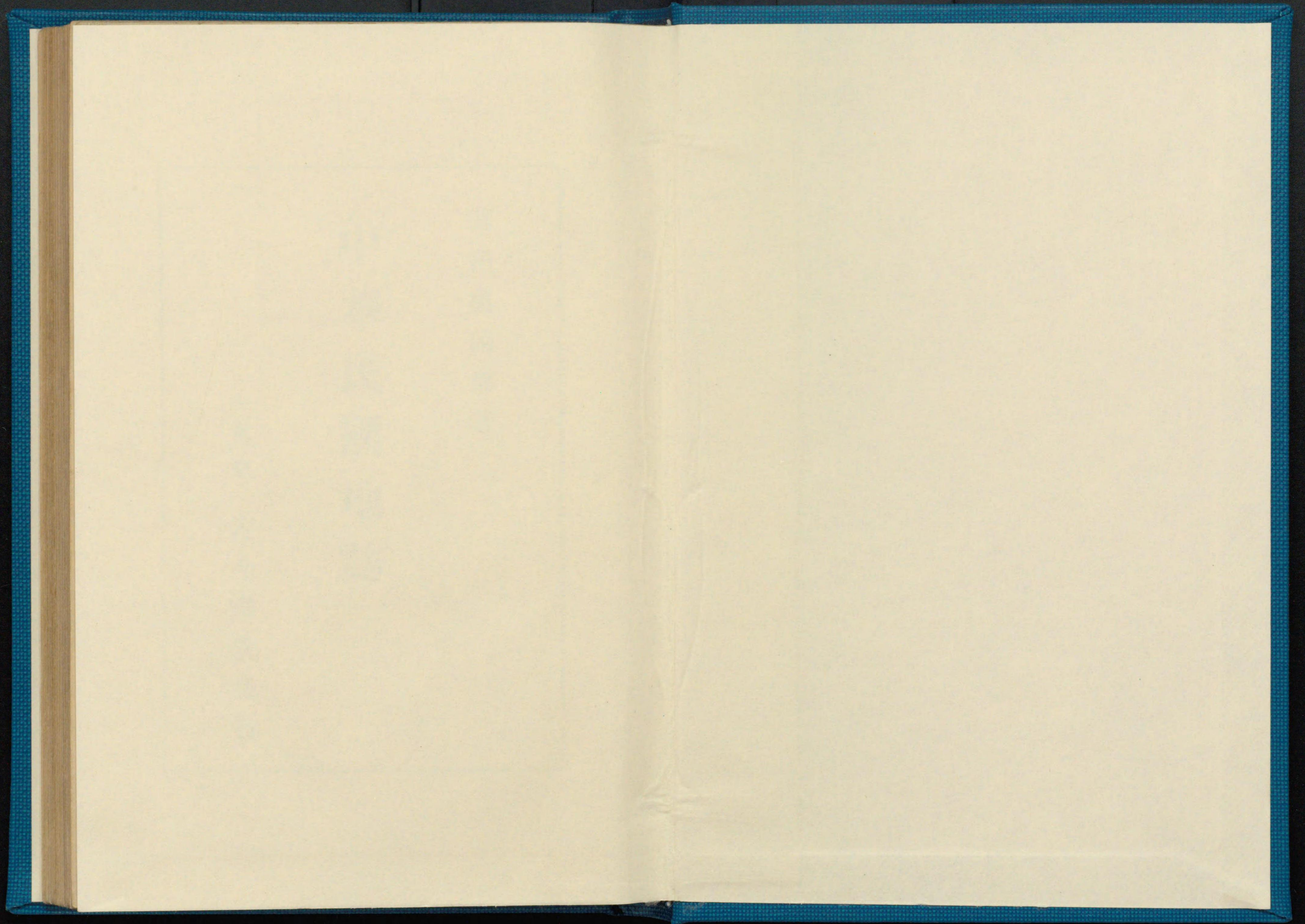
578-68



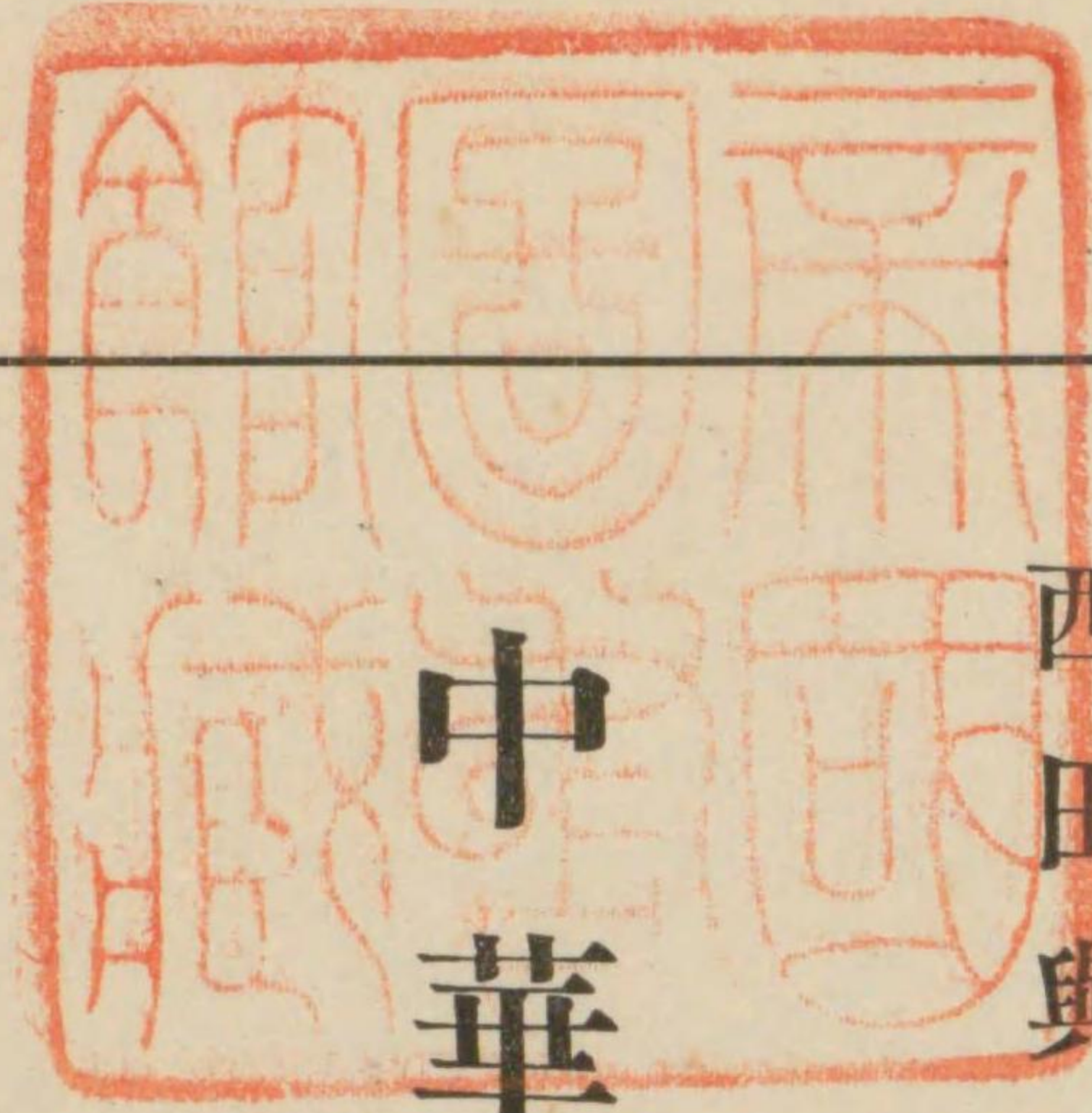
1200501520554

578

68



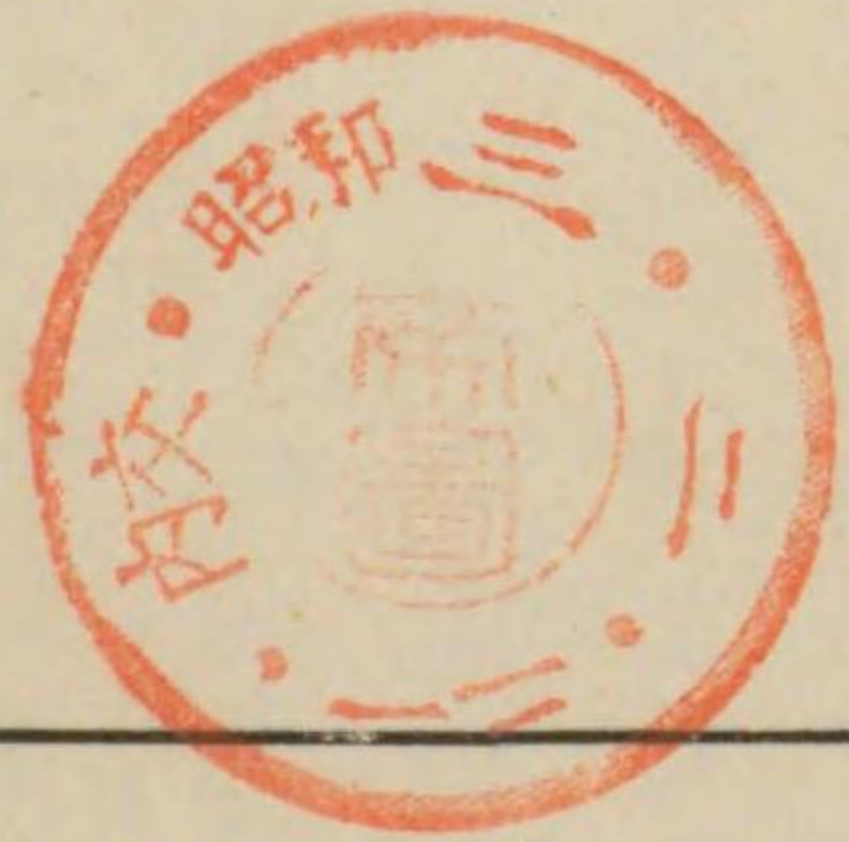
工 45-40



西田與四郎著

中華民國地誌

東京 古今書院發行



緒言

中華民國は我が隣國である。この地理的事實は嚴として永劫に存在する。日常生活に於て隣家の狀況が、良きにつけ悪しきにつけ直ちに我が家に影響するごとく、民國の政治・經濟・文化上萬般の動きは大小となく我が國に影響するのである。これは過去・現在・未來を通じて眞實であるが、殊に現代の如き交通機關の發達顯著なる時代に於て痛切に之を感ずる。而も今後は更にこの關係は愈々密接を加へるであらう。

従つて我が國は民國と常に善隣の關係を保ちつつ、相提携して國際場裡に活躍せねばならぬ。かくすることによつて彼我國民

の幸福は得られ、世界の平和に貢献することも出来るのである。
日支親善は實に兩國共存共榮の賢明なる道である。

日支親善の第一歩は相互の諒解である。諒解を得んとすれば、
先づ相互の國情を知らねばならぬ。然るに兩國民共によく相互
を知つて居るとは思へない。我が國民の民國に關する智識は頗
る貧弱なるものである。私は常に之を遺憾とし、機會あるごとに
民國の國情を正しく國民の間に知らしめんことを務めて居る。
本書を編むに至つたのも實にこの微衷に外ならぬのである。

本書は昨秋文部省の命を受けて試みた、短時間の成人講座の筆
記に少しく筆を加へたもので、極めて平易な講話に過ぎないから、
もとより専門諸家に示すべきものではない。しかし民國の自然
狀況と、その環境に育くまるゝ民國國民の人文狀況の梗概は一と

ほり説いたつもりである。もし本書が一般國民殊に青年及其指
導者に顧られ、本書によつて我が國民の支那智識養成の上に若干
寄與するところあらば、本書編述の目的は達せられたのである。

昭和三年二月

著 者 識

目次

國土の位置と面積……………一

地形……………五

概説……………五

各説……………六

 西藏―七、青海―一〇、新疆―一〇、蒙古―一四、滿洲―一七、支那本部―一八

 海岸―三九

氣候……………四二

概説……………四二

 大陸性氣候―四二、熱帶性氣候―四八、溫帶性氣候―五一

各説……………五一

 支那本部の氣候―五二、滿洲の氣候―五二、青海・西藏の氣候―五四、蒙古の氣

目次

一

候—五五、新疆の氣候—五六

人種……………五

苗族—六〇、漢族—六一、西藏族—六七、滿洲族—六九、蒙古族—七〇

回族—七五

人口……………七六

支那本部—七六、滿洲—八三、蒙古・青海・西藏—八三

都市……………八六

滿洲の都市……………八七

大連—八七、奉天—九二、長春—九五、ハルビン—九八

支那本部の都市……………一〇〇

北支那の都市—一〇〇、北京—一〇一、天津—一〇九、青島—一一二

中部支那の都市—一一九、上海—一二二、南京—一三二、漢口・武昌・漢陽—一三四

南支那の都市—一三六、廣東—一三七

産業……………一四一

農業—一四一、林業—一四五、水産業—一四六、鑛業—一四六、工業—一五四、

貿易—一五五

交通……………一五九

道路—一五九、鐵道—一五九、南北系統の鐵道—一六一、東西系統の鐵道—一六六

滿洲の鐵道—一七一、其他の陸上交通機關—一七三、水運—一七四、河運—一七四

海運—一七四

政治……………一七五

政權の推移—一七五、政治組織—一八三

諸外國との關係……………一八五

日本との關係……………一九二

山東問題—一九四、滿蒙問題—一九九、其他の諸問題—二〇二

日支親善……………二〇六

〔附 録〕

支那の都市……………

二一〇

緒 言……………

二一〇

大都市の分布……………

二一五

都市の形態及構造……………

二三一

第一種の都市—二三一、第二種の都市—二四八、第三種の都市—二六二

〔終〕

圖 版 目 次

第一圖	地體構造……………	六
第二圖	獅狩模範錦……………	別圖〔二三
第三圖	包頭附近の黄河と茶館……………	別圖〔三〇
第四圖	黄河の鐵橋……………	二三
第五圖	三峽の一部……………	三一
第六圖	漢口附近の揚子江……………	三四
第七圖	大 筏……………	三七
第八圖	函館と奉天との氣温比較……………	四三
第九圖	函館と奉天との降水量比較……………	四四
第一〇圖	日射と地表の輻射……………	四五
第一一圖	支那本部と日本との氣温比較……………	四六
第一二圖	支那本部と日本との降水量比較……………	四七
第一三圖	北中南支那の氣温比較……………	五〇
第一四圖	北中南支那の降水量比較……………	五〇
第一五圖	南北滿洲の氣温比較……………	五三
第一六圖	南北滿洲の降水量比較……………	五三

圖 版 目 次

第一七圖	漢族の生活 其の一……………	六二
第一八圖	漢族の生活 其の二……………	六三
第一九圖	喇 嘛……………	六八
第二〇圖	蒙古人の生活……………	七二
第二一圖	人口密度圖……………	七七
第二二圖	大連市街地圖……………	七八
第二三圖	大連埠頭……………	九〇
第二四圖	大連の大廣場……………	別圖〔九一
第二五圖	奉天市街地圖……………	九三
第二六圖	長春市街地圖……………	九六
第二七圖	ハルビン市街地圖……………	九八
第二八圖	哈爾濱市街……………	九九
第二九圖	北京市街地圖……………	一〇二
第三〇圖	北京市街……………	一〇五
第三一圖	天津市街地圖……………	一一〇
第三二圖	天津の日本租界……………	一一一

第三三圖	青島市街地圖	一一三
第三四圖	上海市街地圖	一一三
第三五圖	上海のバンド	別圖(一一三)
第三六圖	南京市街地圖	一一三
第三七圖	武漢三鎮地圖	一一五
第三八圖	廣東市街地圖	一一八
第三九圖	農家	一四二
第四〇圖	石灰窑の製鐵所	一四七
第四一圖	大冶鐵山	一四八

〔附 錄〕

第五〇圖	北京城内八旗分駐圖	二三八
第五一圖	北京の城門及び大街	二四一
第五二圖	北支那の民家平面圖	二四五

〔以 上〕

第四二圖	撫順炭坑	一五三
第四三圖	貿易發達表	一五六
第四四圖	外國貿易表	一五七
第四五圖	長城の關門	一六〇
第四六圖	鄭州站	一六三
第四七圖	京綏線の一部	一六六
第四八圖	驕車	一六七
第四九圖	護照	別圖(一七四)

第五三圖	上海縣城外街巷圖	二六四
第五四圖	上海縣城内街巷圖	二六五

中華民國地誌

西田與四郎著



國土の位置と面積

中華民國(支那 China)は極東に於ける面積上の大國である。東西約一千里、南北約九百里にひろがり、アジア大陸の四分の一を占有し、三十餘國相對峙するヨーロッパ大陸と等しき大版圖を擁してゐる。實に我が國土に十六倍する七十二萬方里の面積を有するのである。

凡そ世界に於て、面積上の大國を見ると、イギリスが第一で、面積二百十一萬

方里、實に世界陸地の約五分の一を有するので、イギリス國民は『太陽その國土に没するなし』と壯語するのである。次はロシア(面積百四十六萬方里)・フランス(面積九十七萬方里)で、支那は之に次いで實に世界第四の大國である。後に述べらるやうに支那は又人口に於てもイギリス帝國について世界第二であつて、人口上の大國である。しかし面積・人口上の大國必ずしも國勢に於ては大國即ち一等國ではない。これ果して何に原因するのであるか。讀者は本書を讀破することによつて自ら諒解するところがあるであらう。

支那の國土は其の約四分の三が陸境で直ちに列強に包圍せられて居る。即ち北方にはロシア、東方には日本、西南方にはイギリス・フランスの領土が支那の國土と接壤してゐる。

嘗てドイツの鐵血宰相ビスマルクがプロシヤ議會で軍備擴張の必要を極説したとき、隣國ポーランド分割の例證をあげ、列國對峙の間に於て、その國の軍備固からざるときは隣國の逼迫を蒙り、之に反するときは隣國に向つて自國の國土を擴張し得ることを説いたやうに、實際國土相接する支那の場合に於ても、清國の末路、支那の國勢の微弱に乗じて、隣接諸國はそれごとく、その接する地域に特殊關係地域所謂勢力圏なるものをつくつたのである。チベットとイギリスの關係、雲南・廣東・廣西諸省とフランスとの關係、新疆・外蒙古・北滿洲とロシアとの關係、南滿洲と日本との關係即ち之である。これ世界の趨勢の然らしむるところで又止むを得なかつたことであるが、近年列國何れも反省して、支那の爲にはかりつゝあることは支那國民も之を諒とし、徒らに非常手段によらざる正當なる方法によつて、次第に失はれたる利權を回收することを賢明なる方法と考へる。

我が國が幕末多端の際結んだ安政條約の如き法權・稅權の不對等なる不合理な條約も、弱勢であつた當時の日本としては實に止むを得なかつたことであつた。しかし日本人が歐米先進國民を模範とし、自力によつて次第にこの條約を對等の

ものに變ぜしめたのである。私は支那の人達にこの日本近世史をよく研究して貰ひたいのである。さうすることによつて必ずや自己の進むべき正しき道を發見することと信ずる。私は支那も日本の如き道程を踏んで、日本の如く國勢の強大なる國家として國際場裡に活躍されんことを切望する次第である。日本國民も善隣國のかくならんがために、自己の過去を顧みつゝ之に同情して充分に援助を與ふべきであると思ふ。

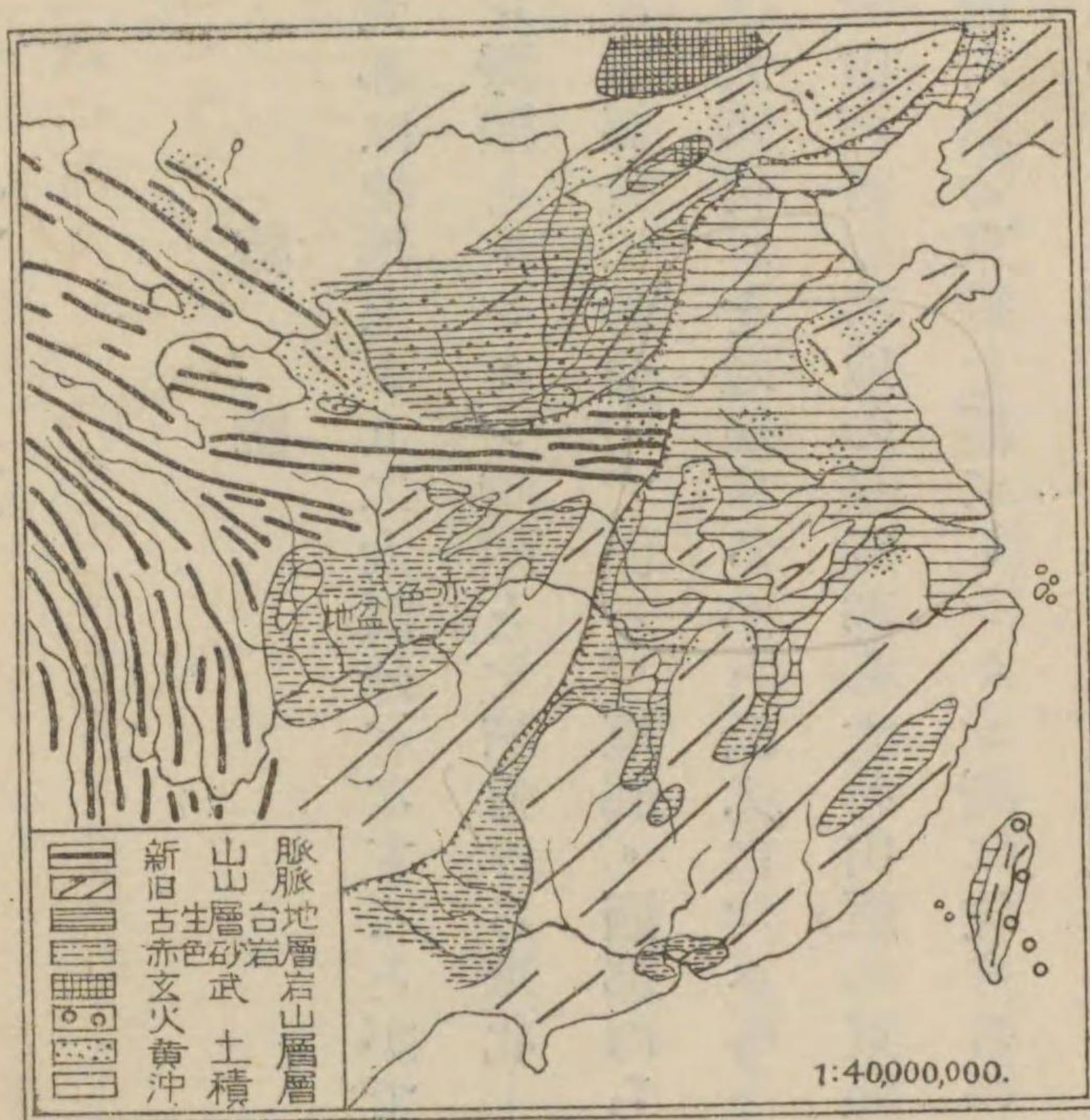
地形

概説

支那は地形上より二大區分をなすことができる。即ちオホロシア海のシャンタル灣頭とトンキン灣頭とを結付ける東北—西南の一線を以て、地形上二つの不
等なる部分に分つのである。東部・西部即ち是れである。此の東北—西南の分界線は大體何れを通過するかと云ふに、スタノポイ山脈の東縁から大興安嶺の東縁、山西省の臺地の東縁即ち大行山脈の東縁より漢口附近の湖廣平野の西縁即ち楚西山地の東縁を経てトンキン灣に達するのである。

此の線より西部に屬する地は西藏・青海・新疆省・蒙古の大部分・支那本部の西半部の地域であつて、土地概して高く大山脈と大高原の錯綜する所である。氣

候は大陸的である爲に沙漠状の土地が少なくない。随つて人口非常に少なく、經濟状態進まず、人文上重要な所は極めて少ないのである。



第一圖 地體構造 (ヘットナー氏に依る)

東部は内蒙古の一部・滿洲・支那本部の東半部を含む地域で、こゝは前者と反對に、平野非常に多く、氣候良好で、随つて人口多く、産業發達し、人文上甚だ重要な所である。

各説

次に各部分に互つて説明しよう。便宜上行政區劃に基いて述べる。

西藏

西藏は南方ヒマラヤ山系と北方崑崙山系との間にある一大高原である。

ヒマラヤ山系は又大雪山系とも云ふ。(サンスクリット語でヒマラヤとは雪の住所と云ふ意味である)。これは南方に張出して一大弧状を描いて居る褶曲山系であつて、長さ約六百里(丁度日本の北海道の端より九州の端まで位の長さ)、幅は五十里乃至九十里ある(日本の本州の幅の廣い所でも六十里に過ぎない、北海道の釧路市と留萌間^{ルモイ}で約七十里位ある)。それで丁度北海道位の幅員を以て北海道の端より九州に至る位の長さを有してゐる一つづきの山脈と云ふことになる。随つて面積は日本全體と略ぼ同様である。平均の高さは五六千メートル、世界最高の山系である。この山系の雪線は約五千メートルであるから、その高所には常に雪を戴き氷河を懸けて居る。(日本では現在氷河は見られない)。世界の最高峯エベレス

トはこの山系中にあつて高さ八八四〇メートルに達する。こゝは人跡未到の地である。曾て英國人が此の山を征服せんと試み、カルカッタからシキムを経て西藏に入り西藏側から、一九二四年六月に八五五五メートルまで酸素吸入器を携へて登り得たが、夫れより先へは進むことは出来なかつたのである。ヒマラヤ山系は大體三條の山脈より成つてゐる。即ち中央の列と其の南側と北側とに低い前山がある。其の中央の高い所は西藏と印度の界にあつて南は印度に北は西藏に屬する。此の山系の南北兩側は非常に其の景觀を異にして居る。南側は雨量が多いために山脈が刻まれて谷多く、且つ森林に蔽はれ、麓には人口多く經濟力に富んだ印度大平野が發達してゐる。之に反し北側は雨量少い爲に溪谷少く樹木茂らず、西藏の如き未開の高原地に接するのである。即ちヒマラヤ山系の支那側は價值の少い山地である。

崑崙山系 調査不充分で正確を缺くが、ほゞ東西に走る最高六千メートルに達

する高峻なる一大褶曲山系で、こゝにも氷河が發達してゐる。

この崑崙山系とヒマラヤ山系との間にある西藏高原上には南部にトランスヒマラヤ山脈がほゞヒマラヤ山系と並行して、ブラマプトラ河の上流を隔てゝ走つて居る。これは近年瑞典の探検家スベンヘデン Sven Hedin 氏の發見せるものである。又インダス河の上流を隔てて北方にカラコルム山脈がバミル高原から又是等の山脈に並行して高原中に入つてゐる。高原の内部は不明の所が多いが、低い所でも三千メートル以上に及んで居る。西藏の首府ラッサは三六三〇メートルの高さの所に位するから、富士山頂(三七七八米)よりは稍低い位の高さにあることになる。ラッサの北方にあるテングリ湖は湖面の海拔四六〇〇米の鹹湖である。これは海に注がない所謂内陸湖で我が國では見られない。西藏には此の外にかゝる鹹湖が多く存在してゐる。この高原よりは多くの大河が發源してゐる。即ちインド半島に注ぐインダス・ブラマプトラ兩大河の外に、印度支那半島に注ぐメコ

ン河・サルウィン河などがある。

青海

青海は大體北方阿爾金山脈及祁連山脈（一名南山山脈）と、南方崑崙山系との間に存在する高原である。支那の二大動脈をなす黄河・揚子江の源はこゝより發してゐる。此の二河が支那に對し如何に重要であるかは後に説明する。此の高原の低所に青海と云ふ鹹湖がある。その湖面は三〇四〇米であるから、この青海の高原も三千メートル以上の土地である。

新疆

此の省の中央には東西に天山山系が横たはつて居つて、其の南北に低地が存在する。

天山山系は最高六千メートルに達する一大山系で、その成因はヒマラヤ・コンロン等と異り一群の地壘山脈である。地壘山脈と云ふのは古い地質時代の褶曲山脈が一旦侵蝕されて低平となつたものが、新しい地質時代に至つて垂直運動をなして隆起したもので、その兩側の低地は落込んで居る部分である。

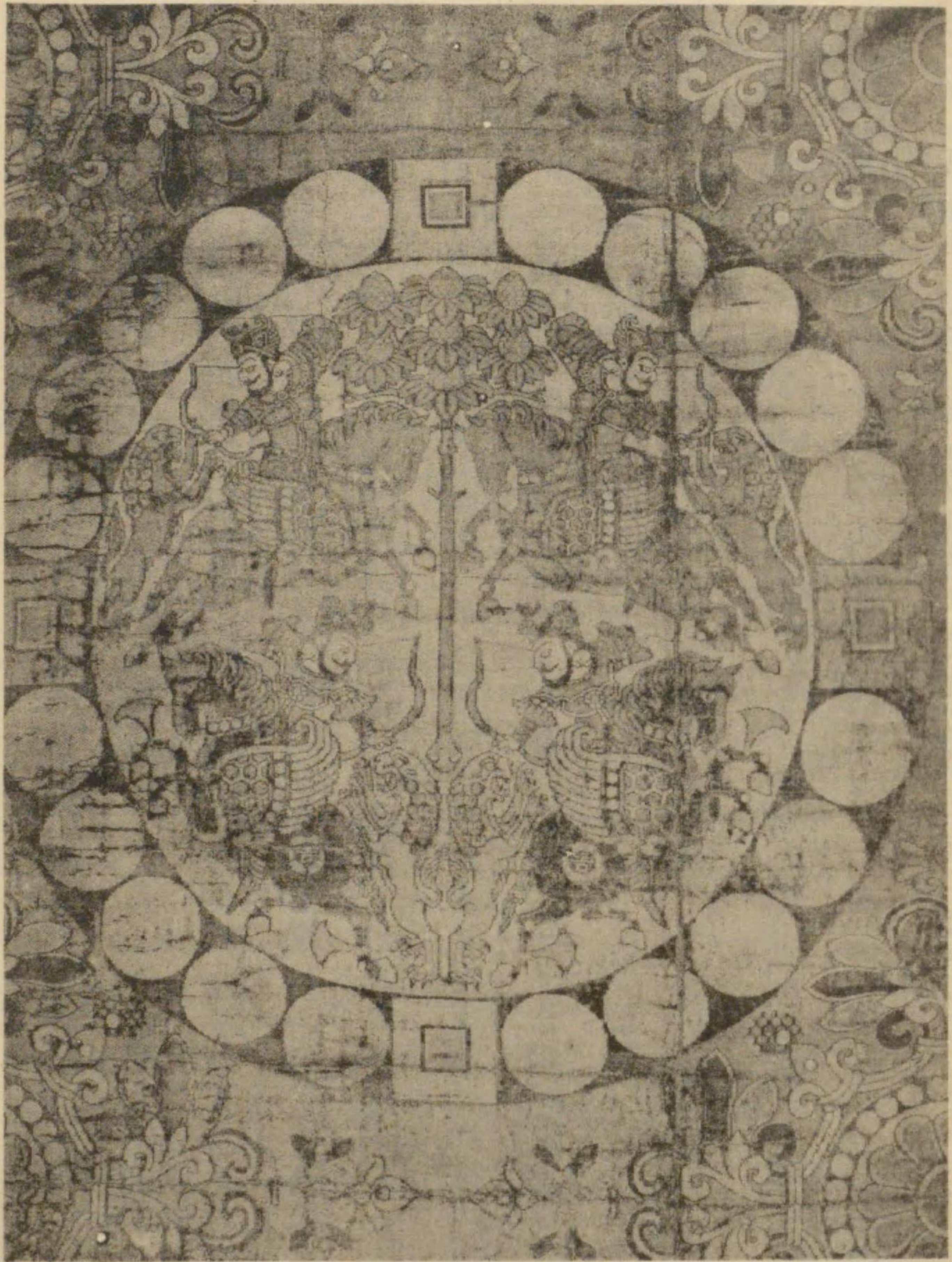
天山山系の南方にはこの山系と崑崙山系・阿爾金山脈とに囲まれたタリム（塔里木）盆地がある。この盆地には多くの末無川（海に注がない川）があるが、其の最大なるものはタイム河（長さ約五百里）でロブ（羅布）と云ふ鹹湖に入つてゐる。この湖の大きさは河水の量の多少によつて左右されるので季節的に變化する。盆地の中央にはタクラマカン沙漠がある。此のロブ湖の湖面は八一〇米であるから、盆地は大體この高さ以上の海拔にあることとなる。こゝに不思議なことは天山の東部の吐魯蕃ツルファンの南方に海面以下五〇米の小低地が天山と同じ方向即ち東西に細長く延びて居ることである。これは前に述べた地壘山脈の兩側に在る陥没地中の最も著しいもので、これを吐魯蕃地溝帯と云ふ。手近い例をあげると近畿地方の金剛生駒山脈や笠置山脈は地壘山脈で、奈良京都盆地は地溝帯である。

天山山系の北方にはアルタイ山系との間に亦準噶爾^{ジュンガル}と云ふ一大盆地がある。低い所は海拔約二〇〇米餘に過ぎない。

天山山系の南北麓に沿うて支那本部の黄河流域（所謂中原）より中央亞細亞に通ずる道路がある。中央亞細亞及其の以西の地は所謂西域で、こゝと中原とを結付ける道路は支那の文化上大に注意すべきことである。この道路は黄河の谷より祁連山脈の北麓に沿ひ西北し、敦煌^{トンコウ}附近より哈密^{ハミ}を経て吐魯蕃に至り、こゝより南路に分れるのである。

天山南路は天山南麓の諸都市を経てカシユガル（海拔一三〇〇米）に至る。これより海拔三七二七米のテレクダワン峠を越えて露領のアンヂヤン（海拔四六〇米）に出で、こゝより鐵道により歐露其の他に連絡するのである。

敦煌は唐代に榮えた町の廢墟である。英國のスタイン^{Stein}氏の發掘で有名であるが、我が本願寺の橘超瑞氏も大谷光瑞氏の命によりこゝより、珍品を發掘し



第二圖 獅狩模様錦（大和法隆寺藏）

その一部分は今京都博物館に陳列してゐる。

天山北路は吐魯蕃より天山の北麓に沿ひ^{テキクワ}碣化（新疆省の首府）其の他の都市を經、海拔約二千米の峠を越えて伊犁（又は曲城^{クルジャ}、寧遠といふ。海拔六六〇米）に入り、これよりイリ河谷によつて中央亞細亞に出るのである。

天山南北路が古來支那文化に大なる關係あることを顯著な一二の例を擧げて説明しよう。今より約五千年前に西方より來た支那民族が此の路を通つて中原に移住し、先住民族たる苗族を驅逐したと云ふことである。又後漢の明帝の時佛教が印度より入つて來たのも此の道路によるのである。唐代には西域よりキリスト教（支那では之を景教といつた）傳はり、西安（昔の長安）には太秦景教中國流行碑さへ建てられた（我が高野山にはそれを模造したものが建てられてゐる）。我が國の法隆寺や正倉院に現存する獅狩模様錦（第二圖）と云ふ織物を見ると、羽の生えた馬、獅子を射てゐるところ、その他樹木や紋様、これは恐らくアッシリヤ邊の

影響を受けしもの、又山・吉などの文字のあるのは、支那文化の影響を受けてゐるので、この織物が支那から渡來したか我が國で製出したかは別問題として、何れにしても單に此の一枚の織物に對して此の天山南北路を結び合せて考へるときそこに大なる感興の湧くを禁じ得ないのである。支那の勢力が西域に及びそこに支那文化の影響を及ぼしたことも少くないのは亦固より言を俟たない所である。しかしこの道路は近世に至つて海上交通が發達してからは昔の如き重要性を失つた。しかし將來こゝに鐵道が通ぜらるゝこととなると、昔日の重要性を再びとりもどすこととなるであらう。

蒙古

北方は大體西北の所にアルタイ山系、其の東に續いてシベリヤとの境にはサヤン山脈、更に其の東にはヤブロンイ山脈がある。

アルタイは蒙古語で金と云ふ意で金を産する故かく名づけたのであるといふ。

アルタイ山系の最高點は四五四〇米で氷河が存在してゐる。東西乃至西北—東南に連る數條の山脈より成る。天山山系と同じく地壘山脈である。

サヤン山脈はアルタイ山系よりも低く最高三四九〇米に達する地壘山脈で、矢張り氷河も存在してゐる。

ヤブロンイ山脈は一層低くて最高二四五〇米の高さを有し、東北—西南の方向をもつ數條の地壘山脈より成る高原狀山地である。此の山地はサヤン山脈の東部と共にユーラシヤ大陸（ヨーロッパ・アジアを合せた名稱即ち歐亞大陸）の最古の地質を示して半圓狀にバイカル湖の西の低地（ジューズ *Suess* 氏の所謂半圓戲場）をつゝんで居る。

東方は大興安嶺山脈を以て滿洲に界してゐる。（行政的境界は大興安嶺山脈とは多少出入して界してゐる）。此の山脈は最高二一〇〇米で、山脈と云ふが、實は蒙古高原の東端が蹶上つたものである。

南部は地形上の界としては山西省の高原の東縁（太行山脈）と南縁、渭水の谷から西方祁連山脈の北縁に至る地域までで、山西省及陝西省北部・甘肅省北部は地形上蒙古高原の縁である。

西部は新疆省とは天然的に著しい界を作らない。

蒙古高原は高さ約一千米の高原で、中央に當つて戈壁の大沙漠が東西に廣がつて居る。これは新疆省のタクラマカン沙漠まで續くのである。支那では戈壁沙漠を瀚海（大なる海の意）と稱してゐる。此の大海とも云ふべき大沙漠があるために、蒙古は自ら内蒙古と外蒙古の二部に分たれる。

蒙古高原の北部からは諸大河が發源する。エニセイ河の本流はアルタイ山系とサヤン山脈との間を流れ、その支流セレンガ河はサヤン山脈とヤブロノイ山脈とを分つ。セレンガ河の東の支流ツィラ（土拉）に臨み外蒙古の首府庫倫がある。

この町は北京より張家口を経て露領に通ずる蒙古中最も重要な通路上にある。駱駝隊も往復するし、北京から張家口まで汽車、それから自動車でこの道を通つてシベリヤに出ることが出来る。黒龍江の上流オノン・ケルレンの兩河は高原の東北に發源し、ヤブロノイと大興安嶺とを分つ。その武威東ヨーロッパに及び我が國にも入寇した元の國は、この源流地方をその發祥の地として居る。

蒙古の内部には此の如き大沙漠があるから、此の障壁より南は支那本部よりの勢力が侵入してゐるが、之に反し外蒙古は却つて露國の勢力侵入しやすく、現に露國の援助によつて獨立の一共和國を作つてをるが、支那では之を認めないのである。然し此の大障壁のために如何ともすることの出来ない状態である。

滿洲

西は大興安嶺山脈で蒙古と分れ、東は長白山脈を以て朝鮮及露領沿海縣と界する。北は黒龍江を以て露領と界し、南は渤海灣・黃海に臨む。黒龍江の南邊に小興安嶺の山地ある外、この兩山脈間は一帯の大平野で、北には松花江、南には遼

河が流れてゐる。此の南北兩河の分水界は二百米位の不明瞭な低い丘陵地であるが、これより南部を南滿洲、北部を北滿洲と云ふのである。又遼河の東は遼東、西は遼西である。この南北滿洲につづく大平野は朝鮮の全半島位の大さである。

支那本部

地形上より三大別することが出来る。即ち北支那・中部支那・南支那是れである。

北支那

北嶺以北の地、主として黄河・白河・淮河サイの流域を云ふのである。

北嶺は崑崙山脈の東に延びたもので淮河と揚子江との間を通り南京の邊で終つてゐる。西部渭水の谷の南方の部分を秦嶺山脈と呼ぶ。大體東西に延び其の端の部分を伏牛山脈と呼び、更に前に述べた東北—西南大分界線の東にある部分を淮山脈（大別山脈）と呼んでゐる。秦嶺山脈の西部には三千米以上の山もあるが、東するほど次第に低くなり、伏牛山脈では最高も二千米位である。又淮山脈は前者よりも遙に低い非常に解析された丘陵性の山脈に過ぎないのである。

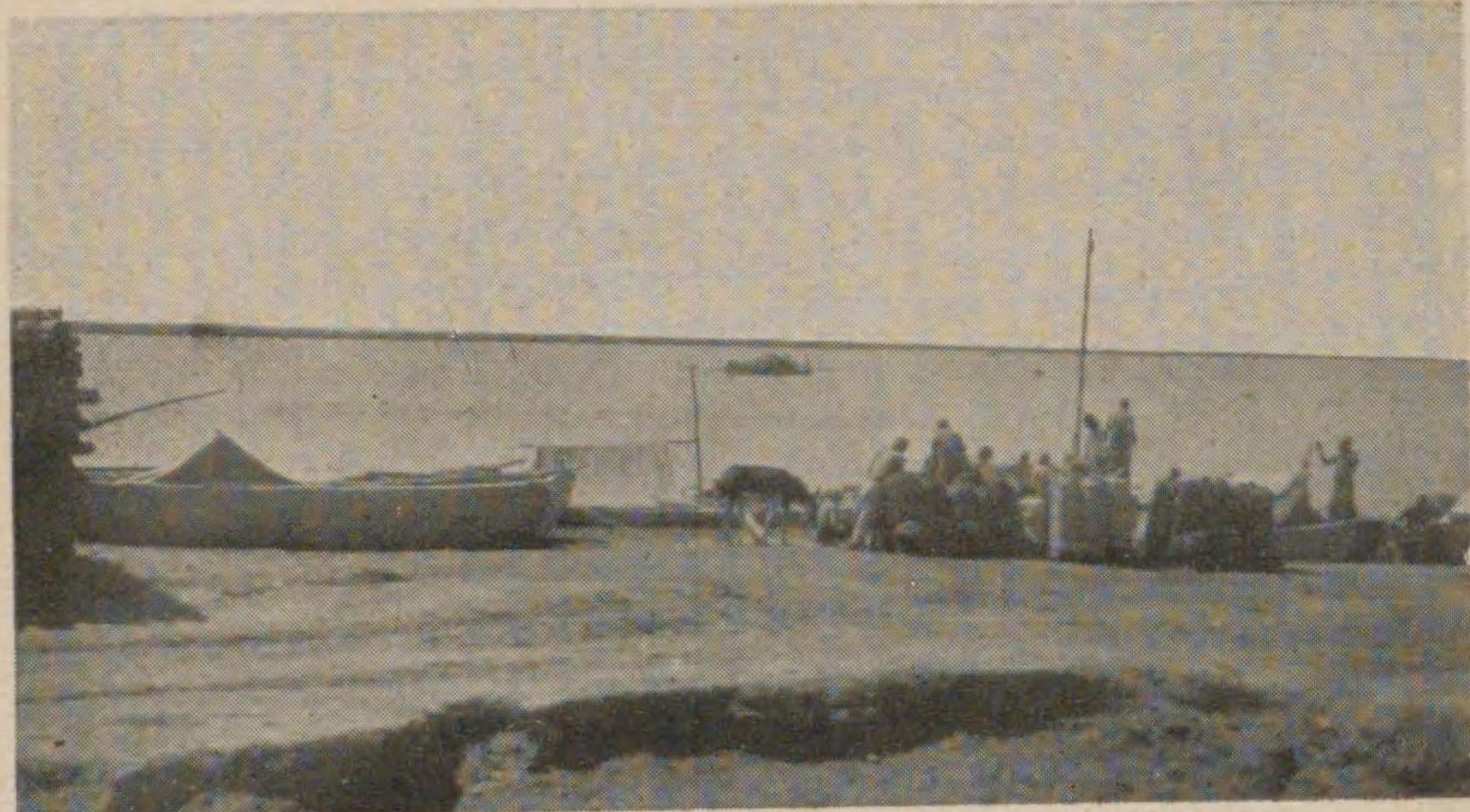
北支那と中部支那との間には此の山脈を横ざる多くの峠がある。其の中で最も有名なのは藍關と云ふ峠（海拔一二五〇米）で、唐の韓退之が當時の憲宗皇帝の佛骨を迎へしを諫めて、廣東省の潮州に流謫せられた際、長安（今の西安、海拔三百米）からこゝを通つて

雲横秦嶺家何在、雪擁藍關馬不前

と云ふ詩を作つた所である。又武勝關は淮山脈を横ざる湖北省と河南省との間の大切な道路で、今は漢口より北京に通ずる京漢鐵道が僅かに二十米のトンネルを穿つて通つてゐる。海拔二百米、漢口より約百五十米の高さにある。此のトンネルと黄河南岸の黄土層中にあるそれよりも短いトンネルとが、實に京漢鐵道（北京・漢口間一二一四軒）中の只二つのトンネルである。これで見ても支那を東西

に分つ東北—西南の分界線以東は平野の多いことが分り、又たとへ淮山脈や山東山塊（泰山一五七〇米）の如きものがあつても、それは極低く又著しく解析されてゐることが知られるのである。

北支那で最も大切なのは黄河であるから、此の河について申せば大體の地形は了解されるのである。黄河は單に河と云ふ、江と云へば揚子江のことであると同様である。河水は黄色の濃い泥水で、黄海は此の河海の注ぐ所で河口附近は著しく黄濁して居るから、かゝる名がある。北支那の大部分に黄土が著しく堆積してゐるが、これは元中央亞細亞より吹かれて來た黄色の土砂の堆積より成つたもので其の原因は風成であると云はれてゐる、河水が此の黄土中を流るのであるから、かくも黄色を呈するのである。河の長さ約四千浬、流域は約九十餘萬方浬で何れも揚子江よりは小さいが世界的の大河である。源を崑崙山系中の小盆地（沼澤が多いので支那人はこれを星宿海と呼ぶ）の邊（約四千米）より發し、初めは



第三圖（イ）包頭附近の黄河



第三圖（ロ）包頭附近の茶館

第三圖 (イ)

包頭の港南海子の渡船場で、南
方向ふ側のオルドス地方と交通
する渡船が人馬貨物を満載して
來るのが見える。

第三圖 (ロ)

黄河河畔の茶店である。家は土
を煉瓦形に乾し固めたもので造
り、屋根は細木を並べた上に土
を載せる。降雨が少ないため傾斜
が少い。煙突は炕といふ暖房装
置の焚火の煙出しである。

大體東北に流れ蘭州(甘肅省の首府)までは深山の中を通るので、急流で殆んど舟楫の便がない。たゞ特別の筏即ち皮筏子ヒバツンのみが甘肅省の部分に通つてゐる。皮筏子とは皮の筏である。牛や羊の皮を全部筏に利用するので、牛皮筏には羊毛、羊皮筏には農産物を詰込んで、それを數箇づつ數列に並べ、横木を各列の間に置き、紐で結びつけて細長い筏に仕立てる。これを上流から蘭州に流し中身を賣つて筏のみをかついで歸る。時には筏も賣拂ふことがある。

黄河は蘭州より東北に流れ蒙古の地に入り急に東に曲つてゐる。これは賀蘭山脈・陰山脈が横たはつてゐる爲である。蘭州より包頭までは流れゆるやかで舟運の便があつて民船(戎克船)が往來してゐる(第三圖)。包頭の東方でまもなく又直角に南に曲り山西・陝西兩省の界をなす。この部分を一名西河と云ふ。この部分には又急流になつてゐて、黄土層と其の下部の岩石を三百米も下に刻んで峽谷になつてゐる所であるから船は通じない。只諸所に渡船場が存在するのみである。

しかし此の部分には大切な支流が入つてゐる。東からは山西臺地の割れ目（構造線）を南下する汾水、陝西省からは洛河・渭水を合せる。汾水は山西省中最も大切な河谷で河岸には諸所に盆地（河盆地）が発達して首都太原^{タイゲン}其の他の都市がある。渭水は陝西省中最も大切な河谷であつて前に述べた西域への通路に當り、ここに秦の都咸陽^{カンヨウ}や周以後度々都になつた西安がある。

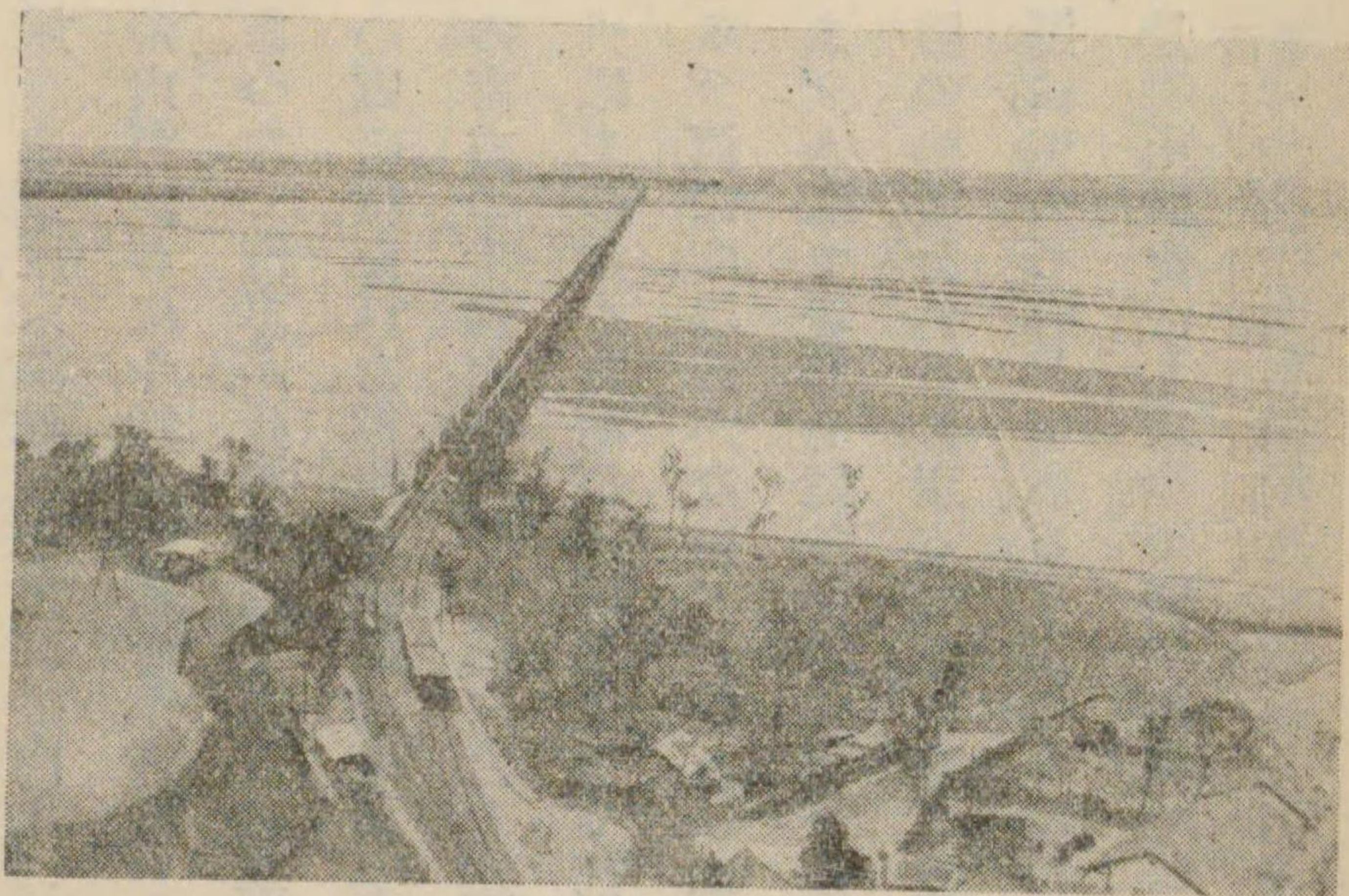
黄河は渭水を合せると、すぐ直角に東流し伏牛山脈と山西臺地の間を通つて北支那の大平野に出る。この東流の部分の河谷も渭水の河谷と共に支那文化發達上見通すことの出来ない場所である。ここに黄河の南支洛水の邊に周以後屢々都となつた洛陽がある。又三皇五帝夏殷の都は多くは山西臺地の縁にあつたのである。有名な函谷關や潼關は黄河の河谷から渭水の河谷に出る東西の道路上に在る關門であつて、黄河の河畔に堆積する黄土層の峽隘を扼して居るのである。尙ほ此の黄土層の道路の兩側其の他には、處々に穴居の住民が居り、路側に横穴を作つて

生活して居る。

黄河は平野に出ると急に河幅廣がり、開封（河南省の首府、古への汴^{ベジ}）附近より急に東北に曲り、濟南（山東省の首府）附近を経て渤海灣に注ぐ。

この平野に於ける河幅を云ふと、京漢鐵道（漢口・北京間の鐵道）の鐵橋（第四圖）は長さ三〇一〇米、濟南附近の津浦鐵道（南京の對岸浦口と天津間の鐵道）の鐵橋は一二五八米ある。

地形



第四圖 黄河の鐵橋

京漢線の鐵橋で長さ三〇一〇米、南岸から北岸に望んだところである。南岸には黄土層の丘陵があつて之を穿つ小トンネルもある。この邊の黄河の水は非常に黄濁してゐる

旅行中丁度京漢鐵道の方は晝間此の大鐵橋を渡つたが、南岸には黄土層の數十米の山があつて十數戸の人家があり、穴居も見えたが、之を穿つ小さいトンネルもあつた。汽車が此の鐵橋を走る時車窓から、其の廣漠たる北岸の地形を見て雄大の感に打たれた。津浦鐵道の鐵橋を通つたときは夜中であつたが、その翌日濟南の南方の千佛山に上つて遙に之を遠望した。

以上の如く黄河が平野を流るゝ部分の河幅は廣狹所によつて甚しい差異がある。河には堤防がない。一體河には堤防のないのが普通であつて之を自然流といふ。人工で堤防を造るが爲に河床が次第に高くなり洪水のときは氾濫し時には堤防の決潰を見るに至るのである。支那の河流は古來皆自然流であるから河道の變遷は至つて容易である。毎年の様に夏季には洪水が出るのであるが、そのとき多量の土砂を流し來つて河床が高まると次第に低い方に河道が遷つて行くのである。昔禹は九年間洪水を治むるがために苦心努力したといふ治水事業は歴史上甚

だ有名なものであるが、支那では治水事業は上古以來の大問題である。

黄河は古くより度々河道を變へて居るが、上古には現今の河道より西方を流れて白河と合して居たようであるが、次第に東に移り、西曆一八五一年（清哲宗咸豐元年）頃には眞東に流れ山東半島の南方で黄海に注いで居たのであつた。然るに此の年より僅か約五年の間に現在の河道をとるようになったのは誠に大變動といはねばならぬ。新舊河口の距離は四五〇浬も離れてゐる。かゝる大變化の起つたのは全く山東半島の山地あるがためである。將來黄河の河道は漸次西に移る傾向があると見られる。

黄河が東流に移り又大平野を流るゝ所は浅いので、汽船は小さいものゝ外通はないでジャンクの便があるのみであるから、交通上の價値は極めて少い。この點は次に述べる揚子江とは非常な相違である。又氣候の關係上流域の物産の豊富さはとても揚子江流域にかなはない。即ち經濟上の價値は甚だ劣つてゐるが、政治上・

文化上より見れば揚子江以上の價值を有してゐるのである。

中部支那

北嶺と南嶺との間に在る土地を云ふ。大體揚子江の流域であるが、その外、浙江省を流るゝ錢塘江流域も亦之に屬する。

南嶺は一名支那山系とも云ふ。西方では印度支那山系の麓より東方に廣く續き、北方は揚子江に及び、東南方は東支那海及び南支那海に至る一大山地である。平均の高さ約一千米で蒙古高原の高さと略ぼ同じである。此の廣い山地は古い褶曲山脈に屬し、多くの地塊に分れてゐる。

此の山地を大體左の四つに分つことが出来る。

- 一、雲貴高臺 これは雲南省の東部より貴州省に跨る一の高原狀の地である。
- 二、楚西山地 雲貴高臺の東に續き、東は北江（廣東省）と湘江（湖南省）の兩河谷即ち粵漢鐵道（廣東・漢口間の鐵道）を以て界される。

三、江湖山地 これは湖南省と江西省の間に在る山地で、粵漢線以東、贛江（江西省）以西の山地である。

四、閩浙山地 福建省の古名を閩と云ふのであるから、閩浙山地とは福建・浙江兩省に在る山地と云ふ意味であつて、贛江河谷より東方海岸まで廣がる山地で、江西省と福建省との界は仙霞嶺山脈と云ふ明瞭な分水界を造つて居る。

南嶺を横斷する峠はかなり多いが、その中でも重要なのは粵漢線の將來通ずる廣東・湖南二省間に在る摺嶺と、其の東方の梅嶺（北江の谷と贛江の谷との間の峠）及び其の西方の桂嶺（桂江の谷と湘江の谷との間の峠）である。

揚子江

揚子江は單に江とも云ふ。この名稱の起原は餘り明かでないが、唐の頃より名づけられたもので、當時揚州（江蘇省）と云ふ地が甚だ有名であつたから、其の頭字を取つて名づけたものである。夫れ故に揚が正しくて楊は誤りであると云ふ。

長さ約五二〇〇〇浬世界第四の長流である。世界最長の河流は北米のミシシッピ（上流のミズーリを合せて）であつて長さ六五三〇浬、第二は南米のアマゾン河（六二〇〇浬）、第三はアフリカのナイル河（五七六〇浬）、次が此の揚子江である。灌域約一五四萬方浬（十萬方里、日本の面積四萬三千方里の二倍半に當り、支那本部の約四割に當る）。

水源は崑崙山系より起り、黄河の源に近く、約五〇〇〇米の所に發してゐる。初は東南流より南流に移り、印度支那半島に入るメコン河・サルウィン河の上流と大體並行して流れ其の間には約七千米の高い山脈を以て隔てられてゐる。この上流部は金沙江（砂金を産するより名づく）と云ふ）と呼ばれてゐる。雲南省の西北で急に東に曲り次第に東北に流れ四川省の盆地に入り岷江・嘉陵江等を合はす。

四川省には前述の揚子江の二支流及び岷江の分流沱江、嘉陵江の支流涪江があるので四川と云ふ省名が起つたと云ふ。四川盆地は四方高山に圍まれた是等四川

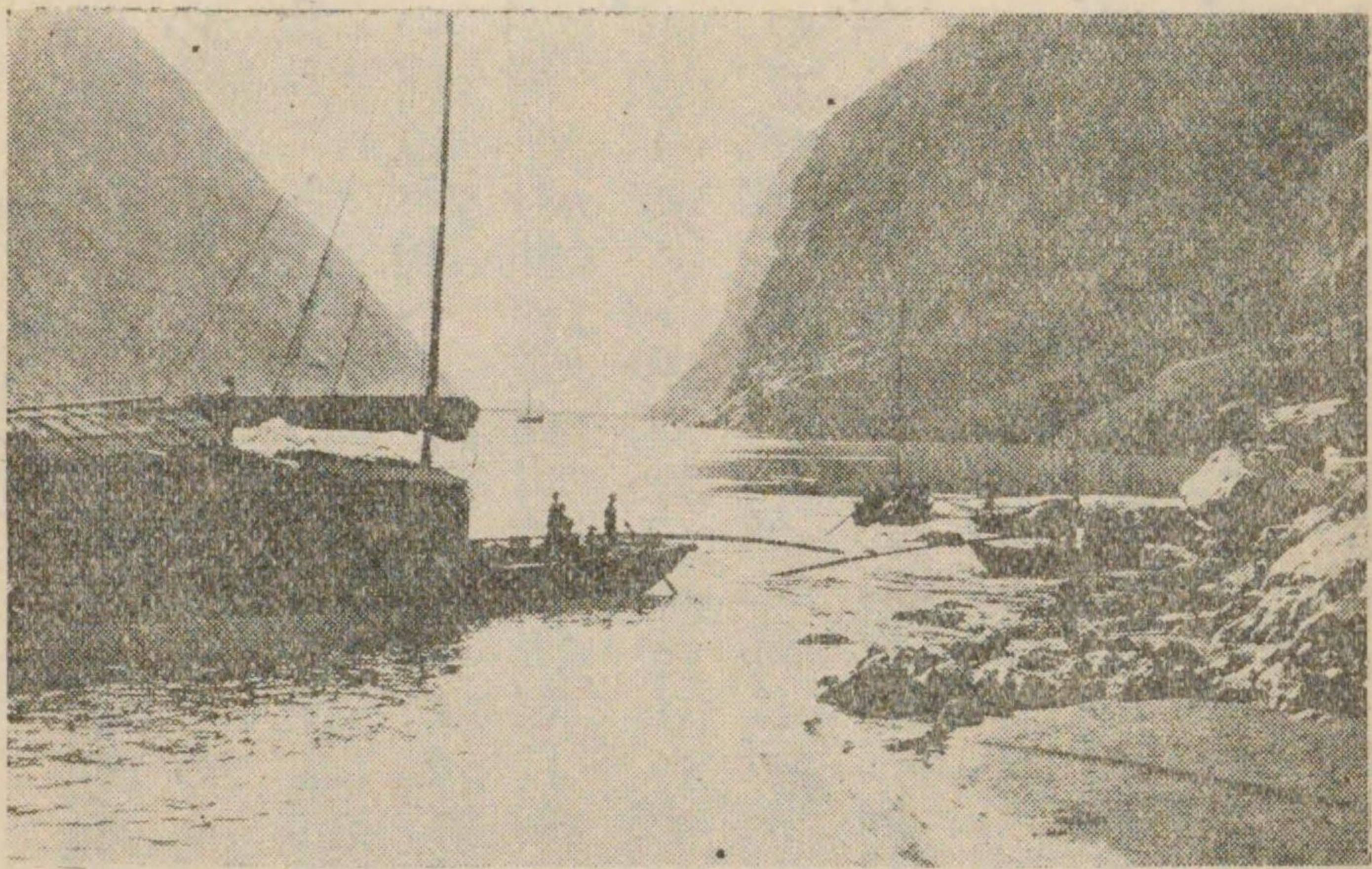
の流域の地を云ふのである。揚子江の南方には雲貴高臺（約二千米）があり、西方には七千米に及ぶ大雪嶺山脈、北方には岷山と大巴山（二三千米）、東方には楚西山地（約二千米）があつて、盆地の海拔は首府の成都では四六〇米、岷江の揚子江に注ぐ叙州では三〇〇米位である。大部分古い岩石（主に中生層の赤色砂岩より成るので赤色盆地などとも呼ばれる）の削られて出來た所謂侵蝕平野である。

汽船の航路は叙州より始まり河口まで約七百五十里の間定期航路が開かれてゐる。叙州より下流には瀘州（沱江と揚子江との合流點）、重慶（嘉陵江と揚子江との合流點）等の諸港がある。汽船に乗つて江を上下する船客は唯だ兩岸を見るのみで、盆地の景色を眺めることは出來ない。これ河が深く盆地中を侵蝕して流れを居るからである。重慶の市街は船着場から約六十米も上にあるので、船客は船を下りてから江岸約六十米も上つて漸くこの盆地の一角に辿りつき、そこで初めて高原狀の盆地の風景を大觀することが出來るのである。

四川省は昔の蜀の地である。此の盆地の大きさは日本の北海道よりも大きい位である。此の盆地に立籠ると優に一箇の獨立國として存在し得るのは今も昔も變りがない。

揚子江が四川盆地から湖廣平野に流出する所に三峽の嶮がある。もとは民船のみが通つてゐたのであるが、日英の巡洋艦が探險的に遡航を企てた結果、近年は夏季の増水期には此の峽流を通じて叙州まで定期の汽船航路が開かれるようになったのである。

三峽（第五圖）とは夔州キシウより宜昌に至る約一七〇軒の間に在る風箱・巫山・米倉の三峽をいふので、最も狭い所は僅に一八〇米に迫つて居る。此の峽に對して歸州・巫山の二灘がある。峽とは淵のことで水流やゝ静かな處、灘とは水流やゝ廣くて急流をなす所を云ふ。夏季河水量の多い時は其の深さ八〇米で、冬季水量の少い時は四〇米に過ぎない。汽船は水の多い時程通過し易いから夏季に通じ、民



第五圖 三峽の一部

船は其の反對に冬季に多く通るのである。上りには非常な困難をするが、下りは僅か一日で容易に通過するのである。

李白の詩に

早發白帝城

朝辭白帝彩雲間 千里江陵一日還

兩岸猿聲啼不住 輕舟既過万重山

と云ふのがある。白帝城は夔州にある。

此の詩はよく三峽の狀況を示して居る。

この江流の速度は最も甚しいときは一時間三十軒に及ぶと云ふことである。

地理學上かゝる峽谷の成因は二つの場

合を考へ得る。即ち山に割れ目の出来たとする場合と、今一つは河の先行で出来たとする場合である。この三峽は後者に屬する。河の先行 (Antecedent) とは地盤の隆起力よりも河底の侵蝕力の方が大であるとき、河が隆起以前の河道を變へないで峽流をなして流れるのを云ふのである。揚子江は四川盆地・湖廣平野間の楚西山地の隆起に拘はらず舊河道を持續したので、こゝに峽流を生ずるに至つたのである。そして峽と灘の部は地質構造の相違から江の侵蝕を異にした爲起つたので、峽の部は石灰岩で背斜部 (褶曲の峯) をなし、灘の部は片麻岩・粘板岩・赤色砂岩から成つて向斜部 (褶曲の谷) になつてゐるといふ。

三峽の東の出口宜昌 (海拔八〇米、江口まで二千籽) よりは東南に流れてゐるが、其の間は湖廣の大平野 (面積は北海道位) であるから非常に屈曲蛇行してゐる。沙市を過ぎ洞庭湖の水を合せてからは東北方に蛇行しつゝ漢口に至る。

洞庭湖は支那第一の淡水湖である。我が琵琶湖の約十倍の大きさである。此の湖

に注ぐ湘江及其の支流瀟水の邊から湖畔にかけて所謂瀟湘八景

瀟湘夜雨(永州)、平沙落雁(衡州)、洞庭秋月

衡州、衡山、漁村夕照(桃源)をいふ。近江八景は之になつたものである。

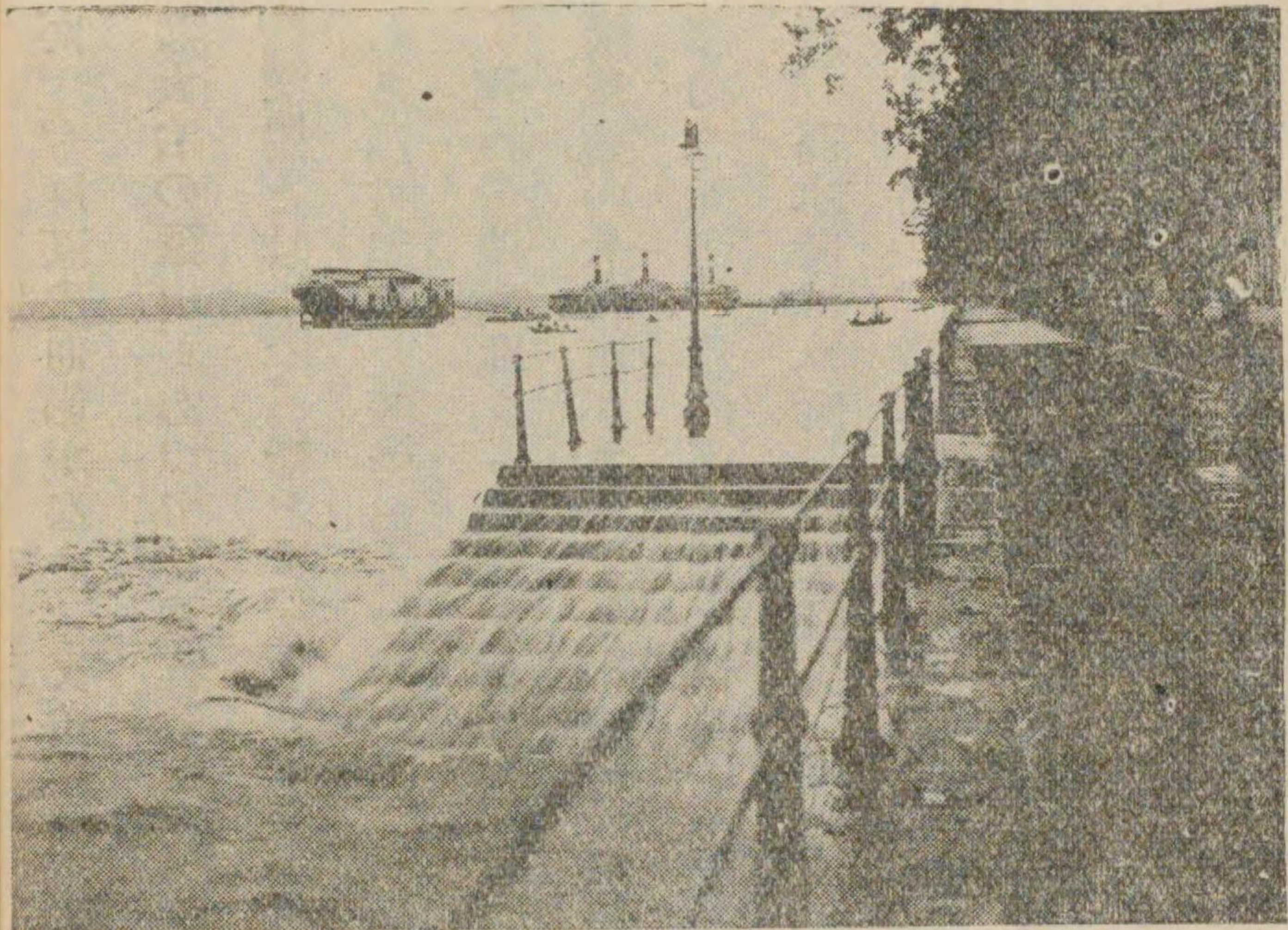
の勝地がある。支那の諺に

「湖南熟れば天下足る」といふことがある。これは湖邊一帯が低地で米の大産地であるから起つた諺である。

漢口では西北より漢水を併せる。この合流點に漢口・漢陽・武昌の三都市所謂武漢三鎮の大都市がある。この邊で江の幅は約一五〇〇米、深さは冬の低水時で最深約一五米、夏の高水時は河水十米乃至十五米増加し、流速は低水時は一時間四籽、高水時は八籽以上に及ぶ。漢口・上海間は一千二百籽、汽船で上り四日、下り三日を要し、高水時には一萬噸級の船艦が漢口まで遡行し得る。

揚子江航行の汽船と陸岸との連絡にハルケ (Hulke) 支那では躉船) といふ特殊の施設がある(第六圖)。

漢口より少しく下流には黃州がある。蘇東坡の名文で名高い赤壁はこゝにある



第六圖 漢口附近の揚子江

日本租界の江岸より西南に上流の方を望むところ。右方はバンド Bridge (河岸) へ、更に其右方(圖外)には領事館・會社等の立派な洋館が建ちならんでゐるが上海のやうに賑かてはない。その遙か向ふの方は元の英租界の端の税關のあたりである。左方には武昌が遠望される。江中の汽船は日清汽船會社所屬のもの、その左はハルクである。ハルクと云ふのは移動自在な乗船場で、碇で繋留して置いて、江岸と小棧橋によつて連絡する。水量の多少により常にその位置を變へる。汽船はその一方に横付するのである。然しこの圖は甚しい高水のため、ハルクからハシケを用ひて陸上と連絡して居るのである。

が、今は其の面影がない。又黃州の少し下流には石灰窑セキクワイヨウがある。此の附近に有名な大冶の鑛山があつて其鑛石を鐵道で茲に運び出し、一部は此處で製鍊し、一部は漢陽と日本の八幡とに送るのである。

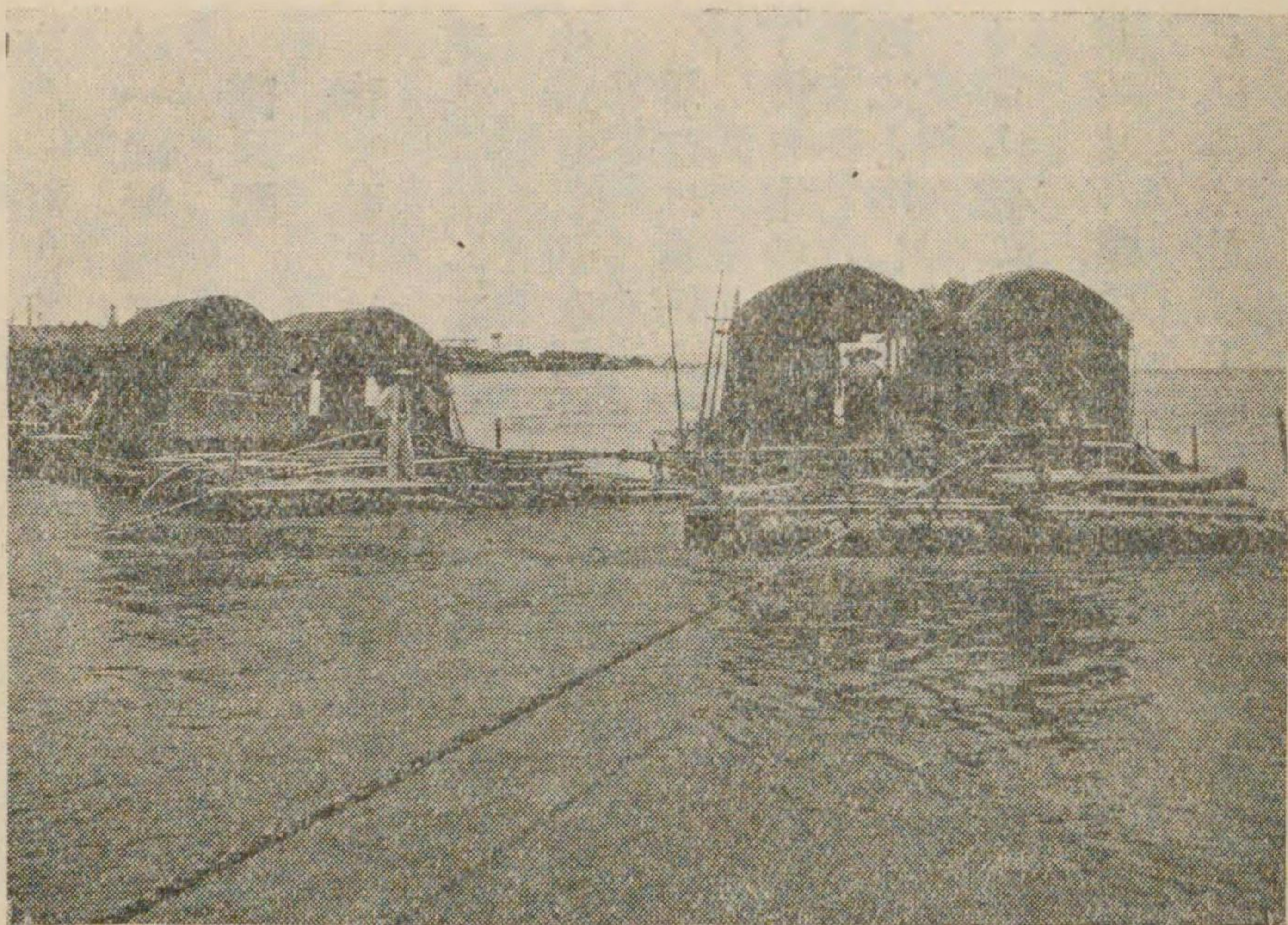
更に東すると九江(江西省)がある。一名潯といふ。白樂天の「琵琶行」の詩に有名な所である。その東方で鄱陽湖の水を合す。此の湖の南邊贛江の注ぐ所に南昌(江西省の首府)がある。此の南昌と九江とを連ぬる南潯鐵道は日本の出資で出来たものである。又湖の西方に蘆山がある。「英雄の面目は蘆山の如し」といふことに譬へられる名山であるが、鷄公山(武勝關の西方)と共に近年避暑地として有名になつた。

江はこれより東北流に移り、安慶(安徽省の首府)・蕪湖・南京を経て上海附近の吳淞に至つて海に注ぐ。此の河口の幅約一一一浬(緯度一度の長さ)にひろがる。此の河口に横たはる崇明島は唐代には一の砂堆に過ぎなかつたが、今日は面積四

十六方里となり、百萬の人口を有してゐる。

以上述べた如く揚子江の流域は經濟上より見て支那の最も大切な所である。四川省の盆地以下は地味肥沃・產物豐饒・交通至便・人口多數で支那人口の殆ど半は此處に集つてゐる。各條約國は此の江上に航路を經營することを得るのである。支那の汽船會社、英國の汽船會社の外我が國の日清汽船會社が本流では上海より宜昌まで年中定期の航路を開いて居るし、夏の増水期には宜昌・叙州間と漢口と湖南省の湘潭及常德との間に定期航路が開かれてゐる。

私は夏季に揚子江を溯つて南京から漢口に行つたから、その時の印象を少し書かう。汽船は少しも動搖することがないので伸氣である。江水は滿々として江岸に溢れんばかりで所々は浸水して居つた。江岸の楊柳や蘆荻は綠濃く、小さな民家が其の間に點在し、恰も南畫の墨繪の様で、微風は絶えず涼をもたらしして夏を忘れさせた。江岸にある都會の稍大なるものは、大抵數層の寺塔をもつて居つて



第七圖 大 筏 (漢口附近)

よい航行の目標になる。夜は丁度月明かに星稀なといふ景色で、町や燈臺などの火は淋しく所々に光つて居つた。江中では時々名物の大筏(第七圖)に出會つた。これは湖南省邊の山奥から長さ約二町位の大筏を組み、其上に小舎を建て土を置き畑を作り雞や豚を飼ひ、自給自足、太平の民として悠々と三四ヶ月もかゝつて江を下り家ぐるみ筏を賣捌き、大金を携へて歸る。それから又伐木し筏に組んで翌春を待つといふ風に一

年に一往復するだけで生活を送るのであるから、支那の現勢や南北争亂の事などは一向無頓着にその日を送つてゐる様に見えるのである。

南支那

南支那とは南嶺即ち支那山系の地で、主として南支那海斜面に屬する福建・廣東・廣西の三省と雲南省・貴州省の一部分を含む地方をいひ、概ね山勝ちで、その中最も大切な所は珠江及閩江ミンの流域である。

珠江は黄河・揚子江などに比べると小さい。全長約五百里、流域の面積三萬方里丁度日本の内地位である。源は雲南省の東部即ち雲貴高臺より發する。初は之を西江と稱し、概ね東流し、多くの支流を合する。支流中最も重要なものは西南より來る鬱江、北方より注ぐ桂江（廣西省首府の桂林はこの河に臨む）、廣東附近では北より北江、東より東江を合し、河口に於て大三角州 Delta を造つて南支那海に入る。桂江と珠江との合流點梧州より下流には汽船の便があつて、英國船等が

定期航路を開いてゐる。珠江の沿岸は山地多く、河口附近の外平野が少いから、重要な所は唯だ河口附近で、そこに發達した廣東の大都市が此の流域の門戸をなして居る。

臺灣海峽に注ぐ閩江は福建省の動脈をなし、河口より約十三里の上流に福州（福建省の首府）があつて、河口の馬尾港より小型汽船が通ずる。此の河も山地を流れ、流域には大平野を有しない。

南支那と臺灣とは經濟上の關係甚だ深く、臺灣と福建省との間には海底電線通じ、航路も南支那の諸港と臺灣との間に開け、臺灣島人で南支那の各地に移住するものも多い。現在臺灣島人は約四百萬人居るが、今より約三百年前から廣東・福建二省民が移住し、原住民高砂族を山地に驅逐して西部平野を占領したものであるから、島民中にも廣東・福建の兩閩が現存してゐるのである。

海岸

地形

支那の國境中、約四分の一は海岸線で、約四分の三は陸界である。即ち北は鴨綠江口より南はトンキン灣に至るまでの海岸で、略ぼ半圓形をなす。宜昌を中心として上海までの直線距離約二百五十里を半径として圓を描けば支那本部の海岸の輪廓が簡單に出来る。

此の海岸地形は、揚子江口を界として、その北方と南方とにより大に趣を異にする。北方は遼東半島と山東半島の突出を除けば概ね沖積平野で、極めて低い砂泥濱を作つてゐる。瀉が所々に散在し、海は遠淺である。随つて河口以外は港には適しない。河口でも堆砂(洲 *bar*)が出来て大船を入れることは困難である。この面の主要なる港を挙げると、滿洲では遼東半島に在る南滿洲の門戸大連、鴨綠江口を少し遡る所に在る安東、南滿洲の大平野を流れる遼河口より少し上方に營口がある。支那本部では白河口に塘沽があるけれども良港ではない。唯だ之より約二十里遡つた所に天津がある。その他は山東半島にある青島・芝罘等である。

揚子江口以南の海岸は前者とは大に其の趣を異にし、支那山系が海に迫るため多くの小屈曲を成してゐる。かゝる灣を地理學上リヤス式 *Rias Type* の灣と稱する。日本では紀淡海峽・豊豫海峽の兩岸や奥羽の東北海岸などは此のリヤス式に屬する。小灣も多いが島嶼にも富んでゐる。しかし島嶼は海南島(臺灣島とほぼ同じ面積)の外は何れも小さい。此の方面はかく島嶼及灣に富んでゐるが、商港として良港となる爲には良灣である外に背面地域 *Hinterland* が必要である。例へば我が神戸港は其の背面地域として大阪其の他を控へ、それとの連絡もよいから世界的大商港として發達したのである。それでこの方面の主な商港は背面地域として河の流域を控へて居ることが注意される。即ち廣東は珠江流域を控へて發達してゐる。香港も亦珠江流域を主な背面地域としてゐるのである。其の他廣東の東方の汕頭は韓江の流域を有してゐる。更にその東方臺灣海峽方面の廈門は九龍江流域を控へ、福州は閩江流域を控へて發達してゐるのである。

氣候

概説

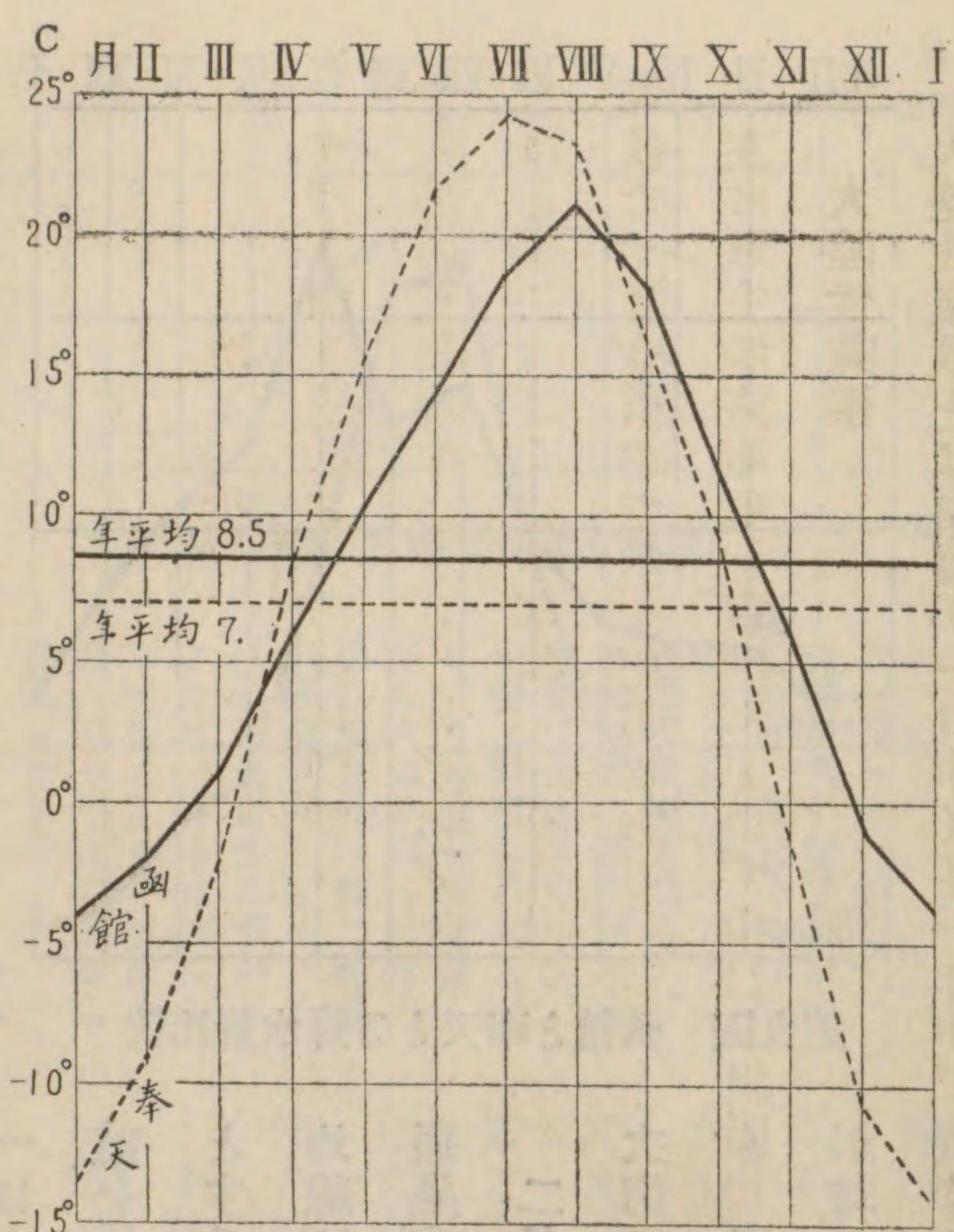
支那は緯度三十五度の間に廣がる。即ち南方は北緯二十度の邊より北方は約五十五度の間に位する。且つ地形の變化が多いから、氣候は各地一様でない。しかし概して云へば大陸性氣候で、南支那の南部が熱帶性氣候である外は全部溫帶性氣候で、夏は雨季で冬は乾季である。

左に以上の諸事項を實例によつて少しく説明しよう。

大陸性氣候

大陸性氣候とは氣溫が一日中でも一年中でも變化著しく、降水量は概して少い氣候である。第八圖及第九圖はほと同緯度（北緯四十二度）に在る函館と奉天と

を比較して、函館は海洋的氣候で奉天は大陸的氣候であることを示すものである。



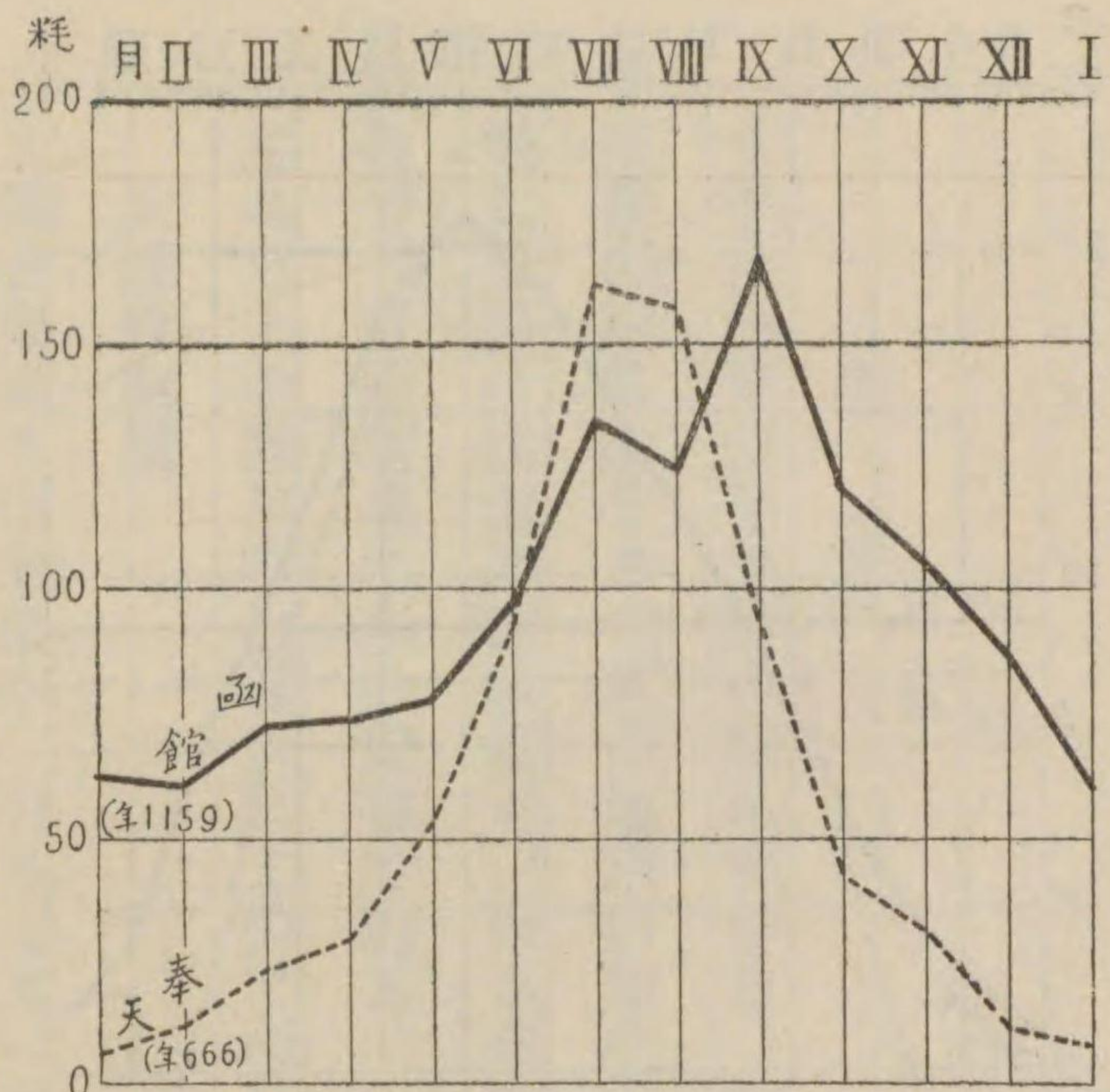
第八圖 函館と奉天との氣溫比較

平均氣溫を計り、之を加へて三十一で割つたものである。而して一日の平均氣溫

は丁度午前又は午後十時頃の温度に當る。其の理由は第十圖を見れば分るよう

一日中の毎時間の氣温變化は日出前を最低として午後二時頃を最高とする一の曲線で示され、その平均線は丁度午前又は午後十時頃を通過するのである。

二月三月になると兩地共温度が次第に昇つて兩者の差が少くなる。四月より八月までは奉天の方が却つて高くなり、それ以後は又低くなる。故に兩地温度の差は冬



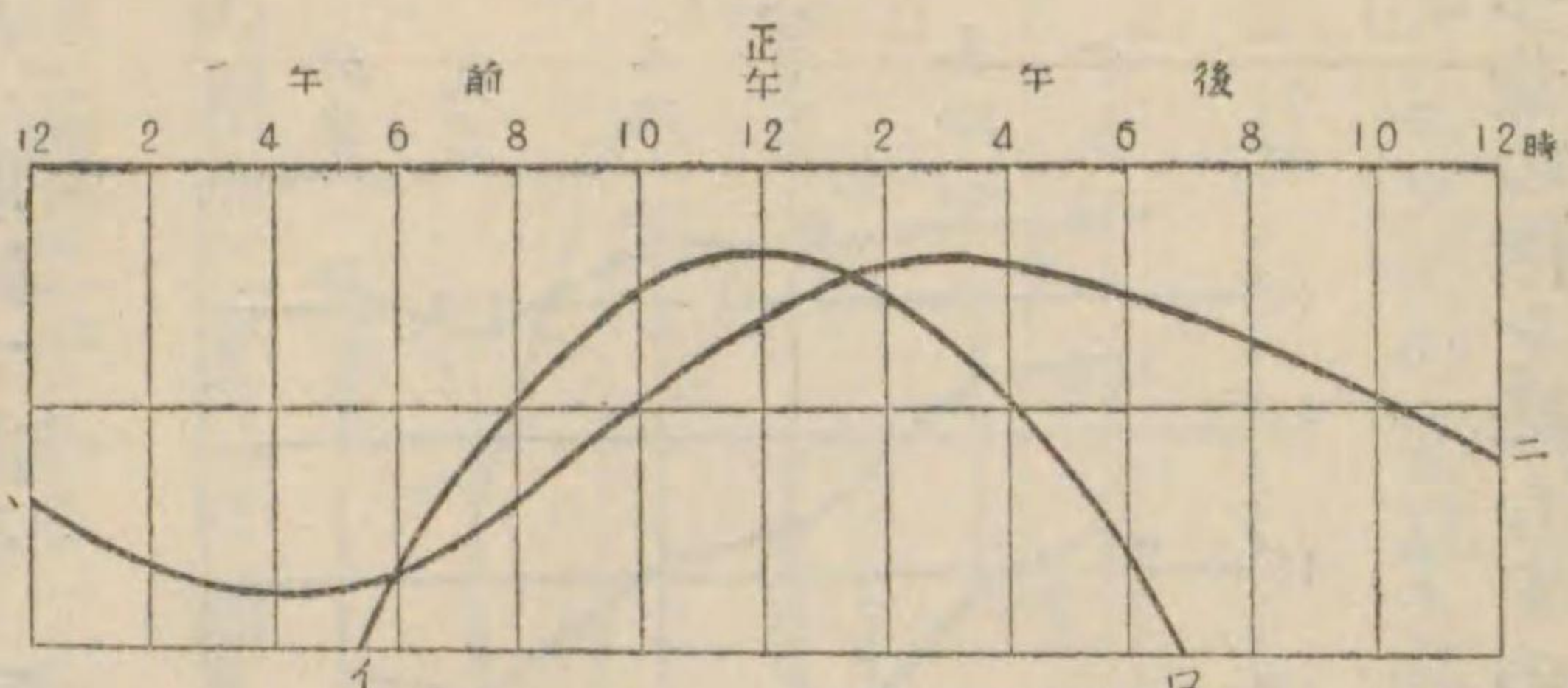
第九圖 函館と奉天との降水量比較

に大で夏に小であつて、奉天は夏は割合に暑く冬は極めて寒くなり、寒暑の差が

函館よりは甚しいと云ふことになる。奉天の極暑は七月、函館は八月、奉天の極

寒は一月の初め、函館は一月の末となる。これ函館は海の影響を受けるから、冷熱共に大陸よりも遅れるのである。(水は陸よりも太陽熱を受けることも失ふことも早いから)。兩地の年平均温度は大體同じで、函館は八度半、奉天は七度である。

次に第九圖によつて奉天函館兩地の降水量(雨量)を比べると、何れも夏季に多い。奉天の一月は僅に四ミ

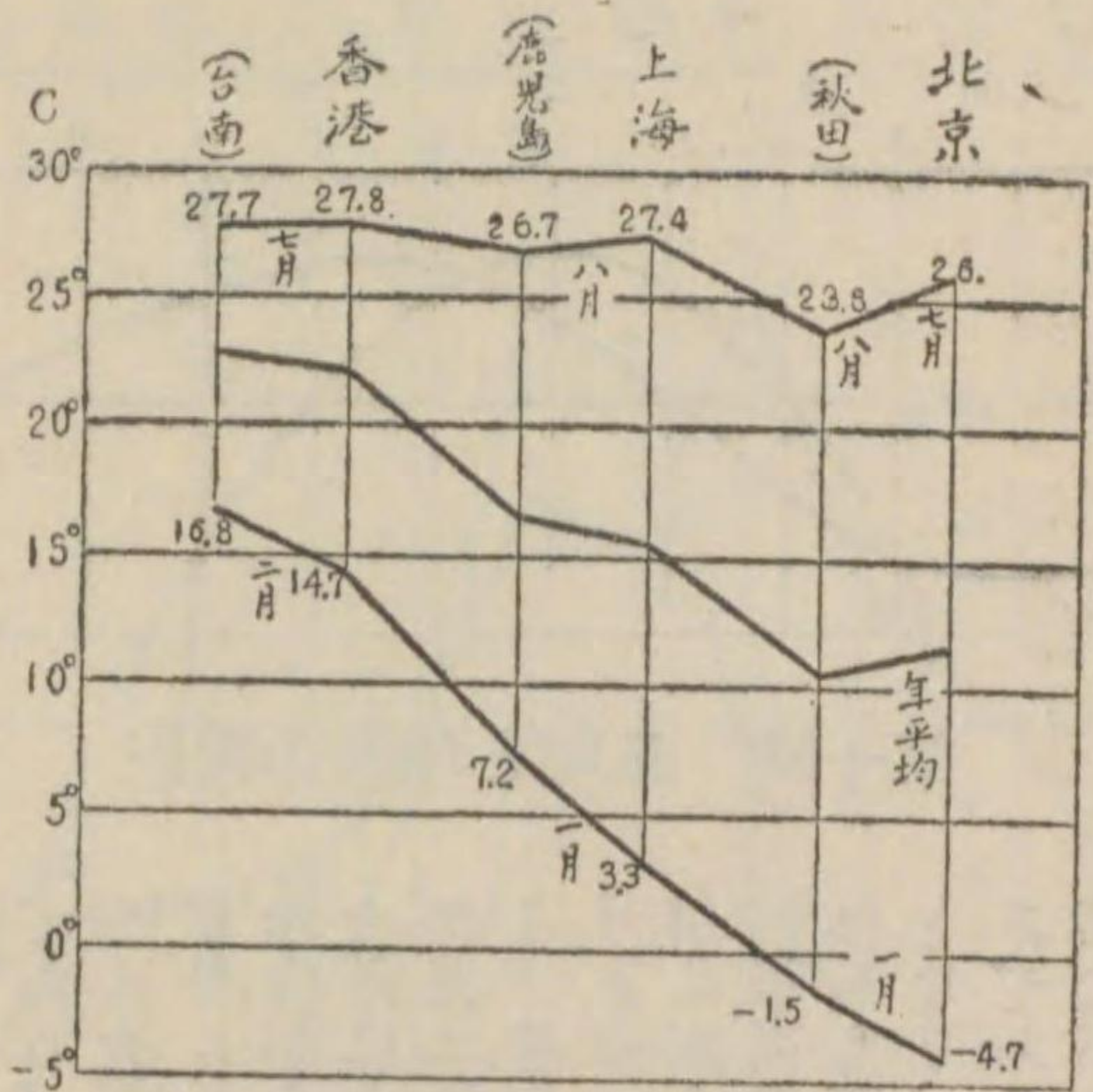


第十圖 日射と地表の輻射

イは日射の曲線、ハは地表の輻射の曲線である。日射は日の出から次第に強くなつて正午に最大となるが、地表からの熱の輻射も次第に大きくなつて、午後二時頃に最大となる。日射量が輻射量よりも大きい間は温度次第に高まり午後二時頃が最高温度となる。それから輻射の方が大となり、夜中は輻射のみであるから、温度次第に下つて日の出前に最低となる。

リ函館は六二ミリであるが、奉天は七八月の頃雨量が多くてこの兩月中に一年の

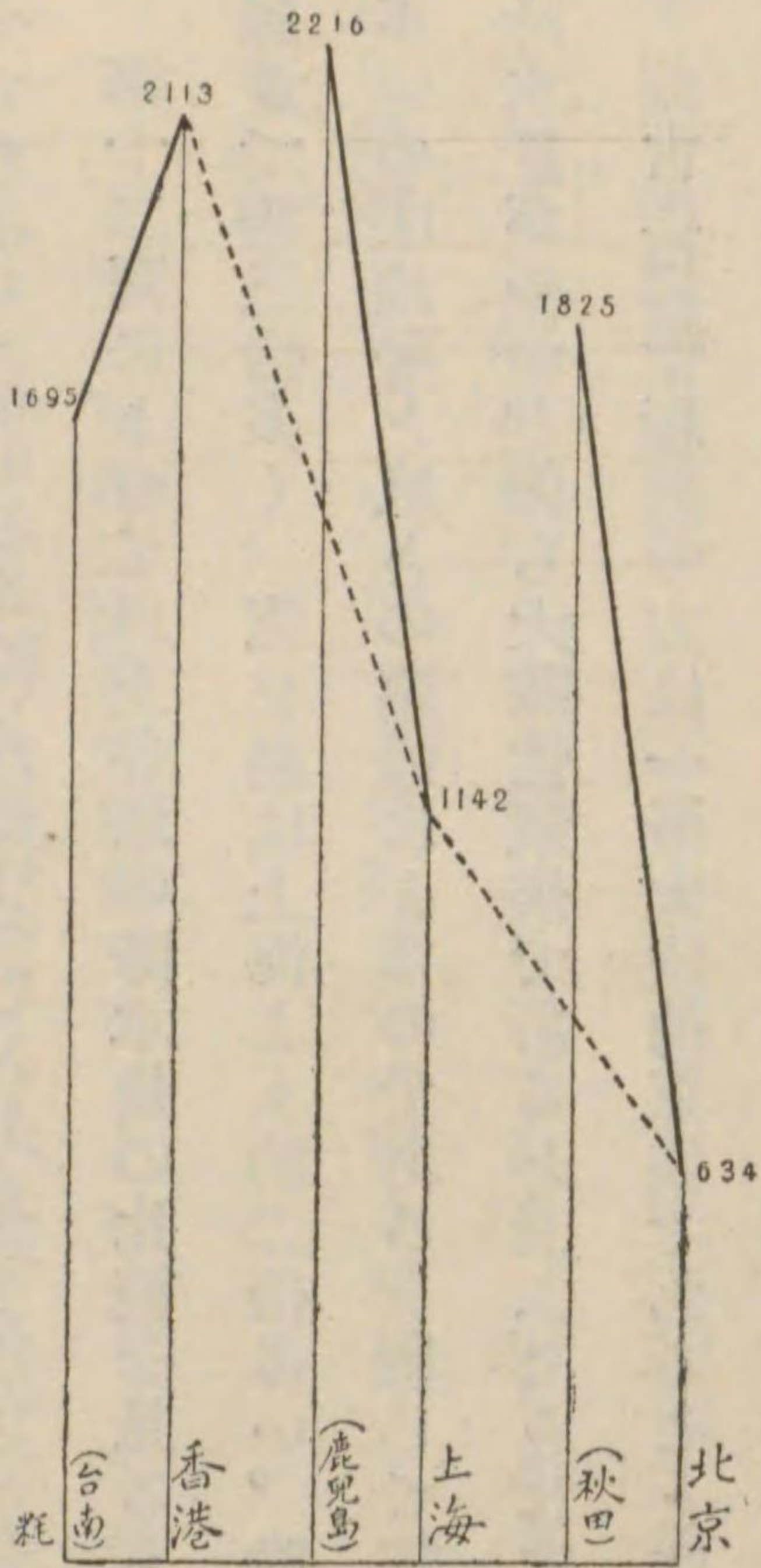
總量の約半分が降る。兩地共夏は雨季で冬は乾季であるが、奉天の方はそれが極めて明瞭である。随つて一年の總雨量は函館の方が奉天に約二倍する。一體夏と



第十一圖 支那本部と日本の気温比較

多量の雨を降らすのである。冬季は之と全く反對の現象を起すから乾季となるのである。

次に第十一圖・第十二圖によつて支那本部の各地と日本の各地とを比べて、前者が大陸性氣候で後者が海洋性氣候であることを見よう。第十一圖について見ると北支那の北京と我が秋田とはほぼ同緯度(北緯約四十度)であるが、此の兩地を



第十二圖 支那本部と日本の降水量比較

比較すると、北京は最高の月は七月で平均気温二十六度、秋田は最高の月は八月で二十三度八であるから夏

の差は二度二に過ぎないが、一月には北京零下四度七、秋田零下一度五で冬の差は三度二である。それで北京の方が秋田よりも夏冬の温度の差の大きいこと即ち大陸性氣候であることが分るのである。私は八月末から九月中旬まで北京に滞在

して居つたが、晴天がつゞいて丁度内地の十月の小春日和の様な氣候で一年中の最良の季節であつた。又、中部支那の上海と南九州の鹿兒島（共に北緯三十一度餘）とを比較しても、南支那の香港と臺灣の臺南（共に北緯二十二度餘）とを比べても北京・秋田の比較と同様のことが云へるのである。

第十二圖によつて以上各地の降水量の比較を見ると、北京よりも秋田の方が年總量で約三倍多く、鹿兒島は上海より約二倍多い。唯だ香港は臺南よりは二割位多いのは地勢と風との關係によるのである。概して言へば支那は日本の方よりも降水量が少い。即ち大陸性氣候であると云ふことになるのである。

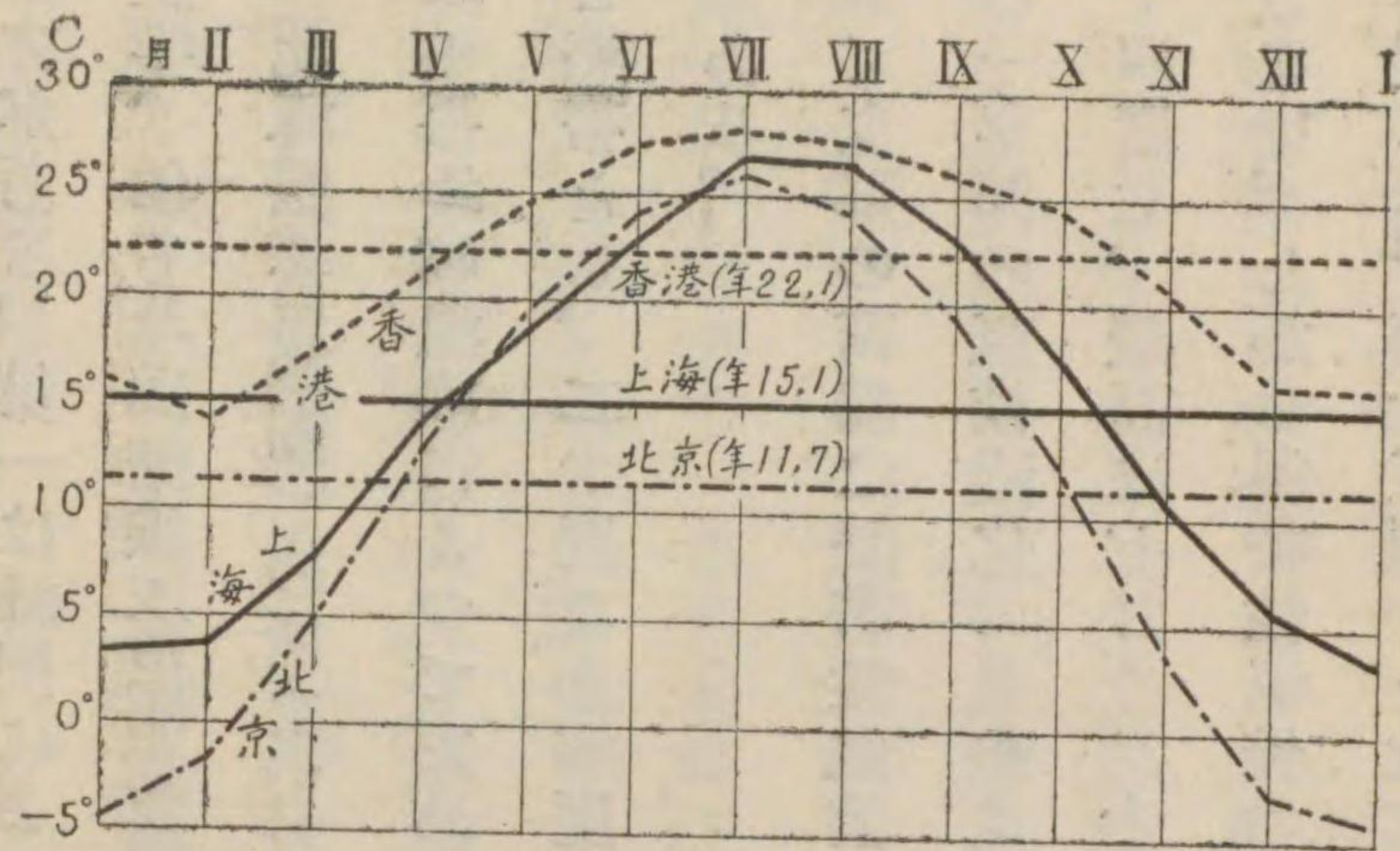
蒙古・西藏・新疆の方は一層大陸的氣候であることは明かであるけれども、數字的調査を缺くから以上の如き正確な比較は出來ない。

熱帶性氣候

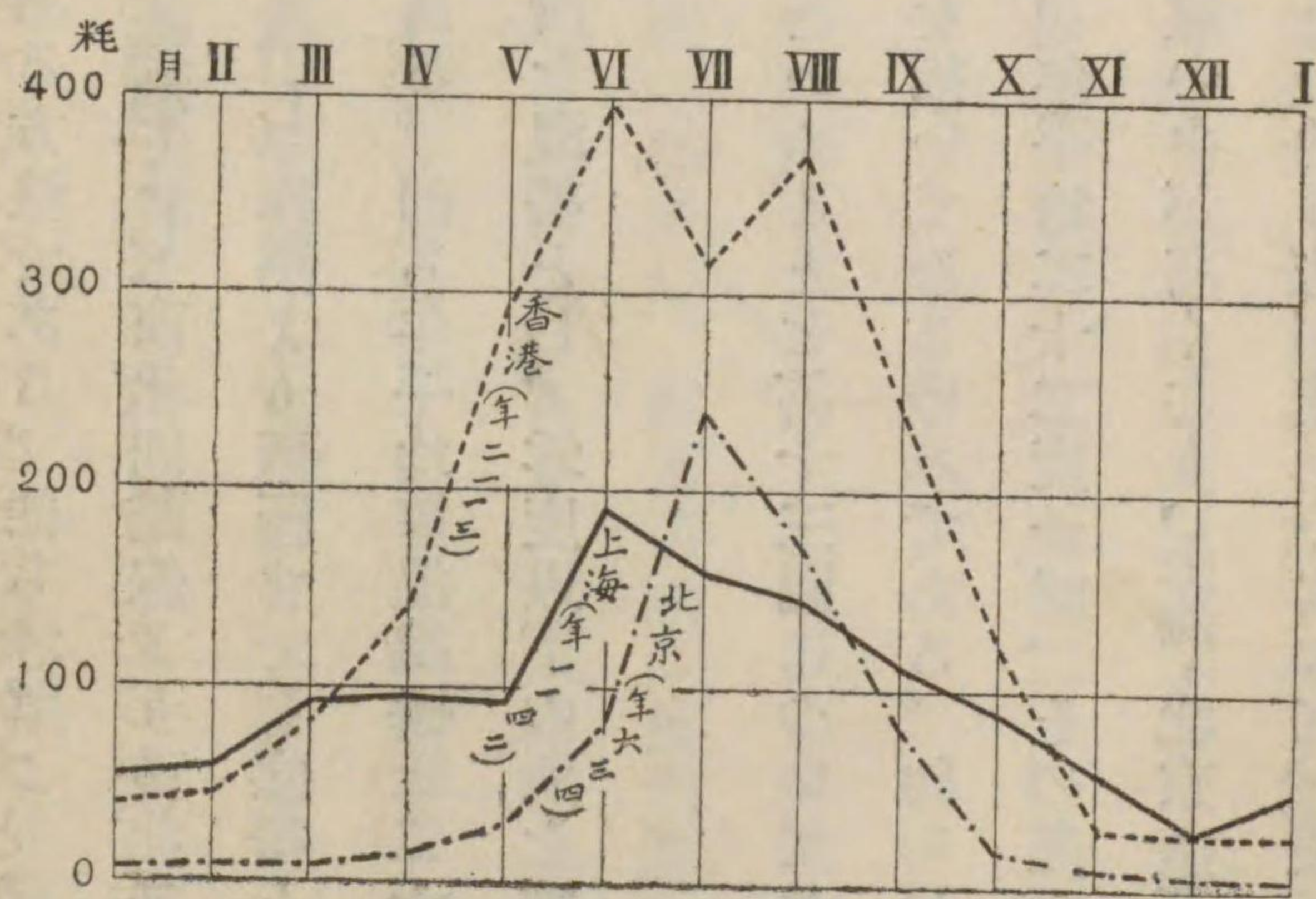
熱帶性氣候といふのは氣温の一日中及び一年中の變化少く常に高溫で所謂常夏^{トコナツ}

である。序に述べて置くが熱帶・溫帶・寒帶の區別はどうするかといふと、二つの分け方がある。第一は緯度によつて定める方法である。即ち赤道より南北各二十三度半、即ち北回歸線・南回歸線の間を熱帶とし、南北回歸線より南北各六十六度半（北極圈・南極圈）の所までを溫帶と稱し、極圈より兩極までを寒帶といふ。第二は年平均等温線によつて定めるのである。即ち年平均等温線攝氏二十度以上の所を熱帶とし、二十度より零度までの所を溫帶とし、零度以下の所を寒帶とするのである。

さて支那の南端は熱帶性氣候であるといふことを第十三圖について見ると、香港の一年間の氣候變化の曲線は低い山を描いてゐるのみである。即ち最低は二月の十四度七、最高は七月の二十七度八、年平均二十二度一で、その差十三度一に過ぎない。しかし溫帶性氣候の方は曲線の山が高くなり、上海・北京・奉天・ハルビン（第十三圖・第十五圖）と北するほどその曲り方が著しくなつて、夏冬の差が次



第十三圖 北中南支那の氣溫比較



第十四圖 北中南支那の降水量比較

第に大となることを示すのである。

かくの如く熱帯では一年間の温度變化最も少く、北半球では北するほど（南半球では南するほど）即ち温帯から寒帯へ進むにつれ温度變化が大となるのは晝夜の長短即ち日照時間の關係である。赤道は年中晝夜平分であるが、赤道より兩極に進むに従ひ晝夜の長短の差が夏冬には著しく大きくなる。即ち冬は熱帯地方を遠ざかるほど晝が短くなるので寒さが甚しくなり、反對に夏は熱帯地方よりも晝が長くなるので割合に暑くなつて南北の差が小となるのである。

又熱帯氣候は一般に雨量が多い（第十四圖）。但しサハラ沙漠の如き北回歸無風帯に屬する年中高氣壓の發生しがちな所は例外である。

温帯性氣候

温帯性氣候といふのは熱帯性氣候に比べると氣温稍低く、四季の區別が明かで雨量は稍少い氣候である。又寒帯性氣候は温帯性氣候よりも温度低く、冬長く春秋が殆んど無く夏は短い。それで春の花、秋の紅葉は唯だ温帯の住民のみが樂

しみ得る有難い特權である。第十三圖第十五圖について見ると、上海・北京・奉天・ハルビンと北するほど温帶性氣候でも次第に溫度曲線の曲り方が著しくなることが分るのである。

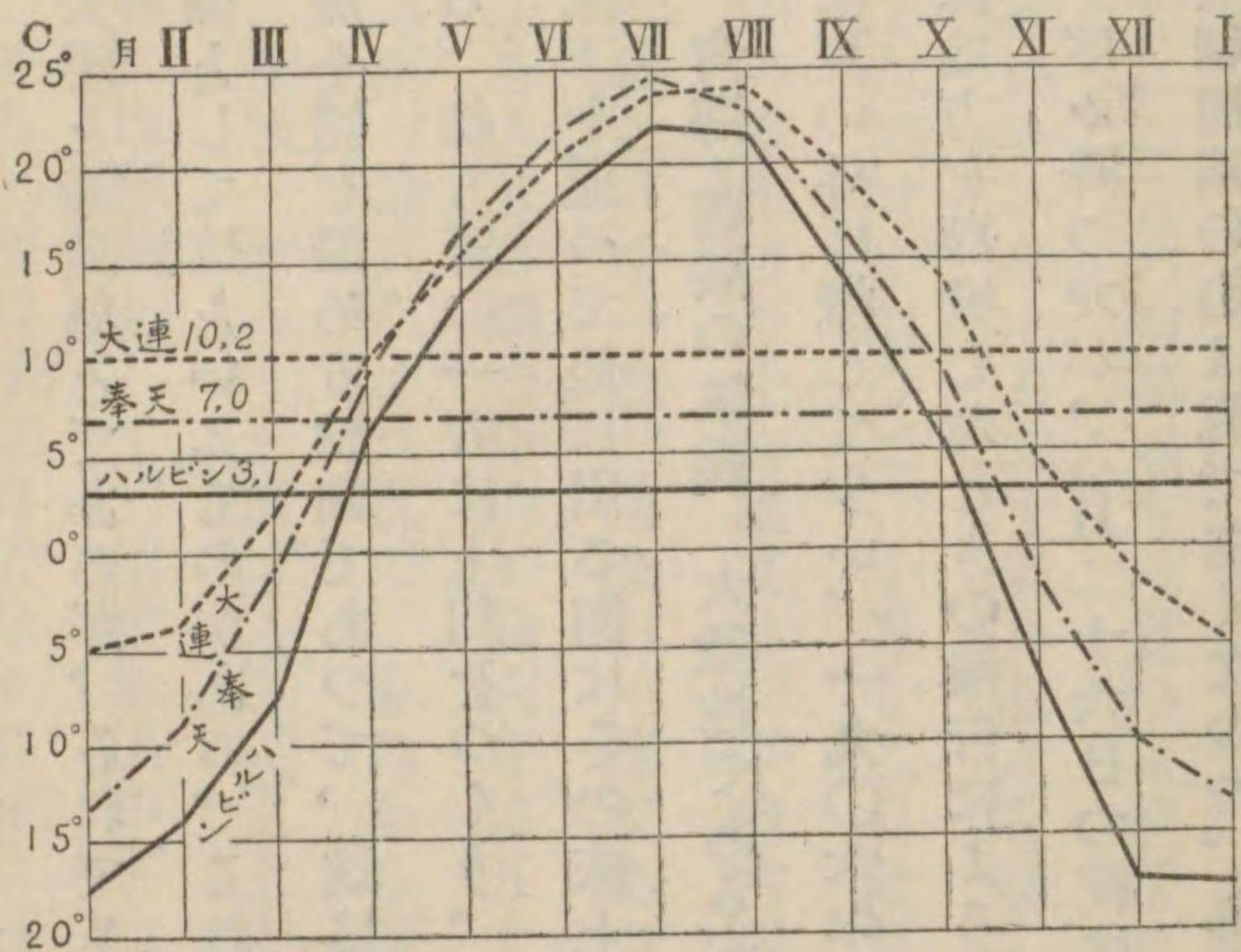
各説

支那本部の氣候 北支那・中部支那・南支那の氣候を比べると、第十一圖・第十三圖に示す如く、氣温は夏に其の差少く冬に大なることが分る。北京と香港とは六百里の距離を有するが、夏の溫度はほとんど同じである。これは夏は北京の方が香港よりも晝がずつと長いからである。第十二圖・第十四圖によつて降水量を見ると、南方より北方に至るほど少くなることが分るのである。そして夏は雨季で冬は乾季である。

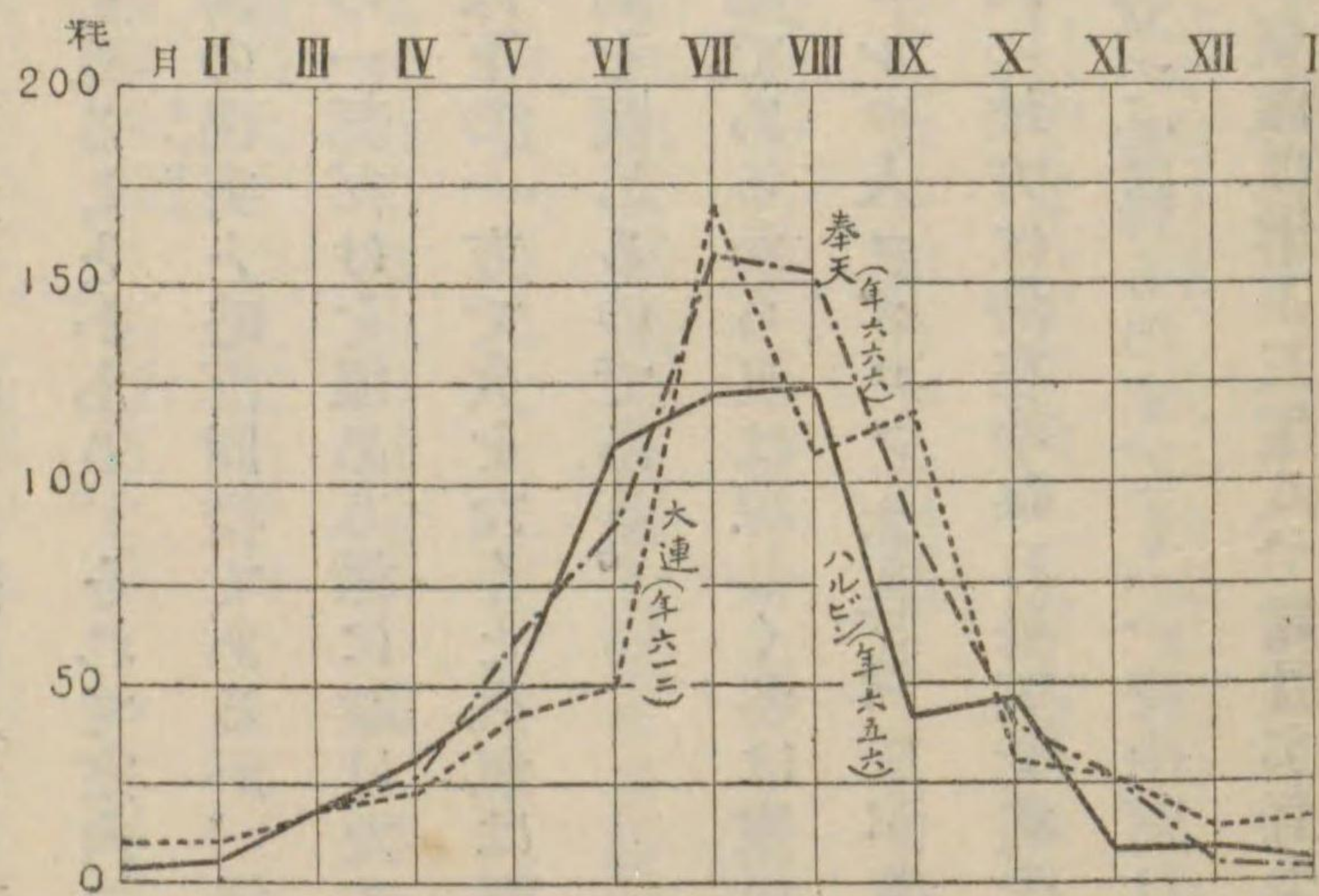
滿洲の氣候 第十六圖・第十七圖によつて略ぼ分るように、氣温は南より北するほど寒帶的になり、やはり夏は雨季で冬は乾季であるが、南北によつて降水量

は大差がない。

氣候



第十五圖 南北滿洲の氣温比較



第十六圖 南北滿洲の降水量比較

五三

滿洲及び北支那の冬は中々寒くて河水は凡て氷り、沿岸も概ね氷る。不凍港は大連と秦皇島とであるが、それでも薄氷を見ることがある。それで室内の防寒設備として炕カンといふものがある。これは朝鮮の溫突オンドルと略ぼ同様であるが、溫突は部屋全體を温める設備であつて、炕は部屋の一部だけを温める様に設けたものである。即ち室の一方に土間をつくり、その床下の一方で火をたくと火氣は烟と共に床下を通つて他に出る間にその床上の土間を暖めるのである。

青海・西藏の氣候 大陸性であるが、高地であるから夏は涼しく冬は寒い。雨量は夏の外は概して少い。一九〇六年六月ロシア人コズロフ Kosloff 氏が黄河の河源地方を探検したときの報告によると、此の地方は滯在中毎日曇天で霰や雪や雨が度々降つたが、六月二十六日の夜は大夕立で雷鳴ものすごく、一夜中荒れたが、翌朝周圍の山は雪で白くなつた。毎日朝の氣温は零下三度八で霜柱が立つが、日中は夏景色となるから一日の間に冬から夏へ環境が一變するといつてゐる。

蒙古の氣候 大陸性で、夏は非常に暑く冬は極めて寒く、氣温は一年中の變化も一日中の變化も著しい。そして雨量は夏の外は殆んどない。

左に蒙古の南端地方の夏の氣候狀況について出口雄三氏の談話を掲げる。氏は明治四十一年七月二十五日北京を發し、張家口から長城を越えて蒙古高原に上り、西方包頭まで行つて、十月十二日北京にもどられた旅行中の觀測によると、八月上旬の張家口の平均温度は、午前六時に華氏七十八度、午後一時に九十四度、午後六時に八十一度、最高百三度であつた。それから萬里の長城を越えて蒙古高原に上ると五日間の平均午前六時に五十八度、午後一時に七十二度、午後六時に六十三度、最高八十八度で、それから西方綏遠に行く途中の低地は午前六時七十七度、午後一時八十一度、午後六時七十九度、最高九十四度であつた。そして九月十五日には雷鳴がして、俄に氣温が下つて高原の西端には白雪を戴くのを見たといふ。そして雨は張家口では十日間に一日大雨があつて、高原の九日間には細雨が

二日あつただけで、時には雷雨があつて豆粒大の雹がふつたがすぐに晴天になつた。高原では殆んど無風で、午前十時過から西北の微風がある、時には颶風が襲つて來た。そのときは四面眞暗になつて丁度屏風を立てたやうな工合に襲來する。驟雨は砂煙とともに襲來するので、馬の背中に伏して逃れると、暫くして晴天になつたといふことである。

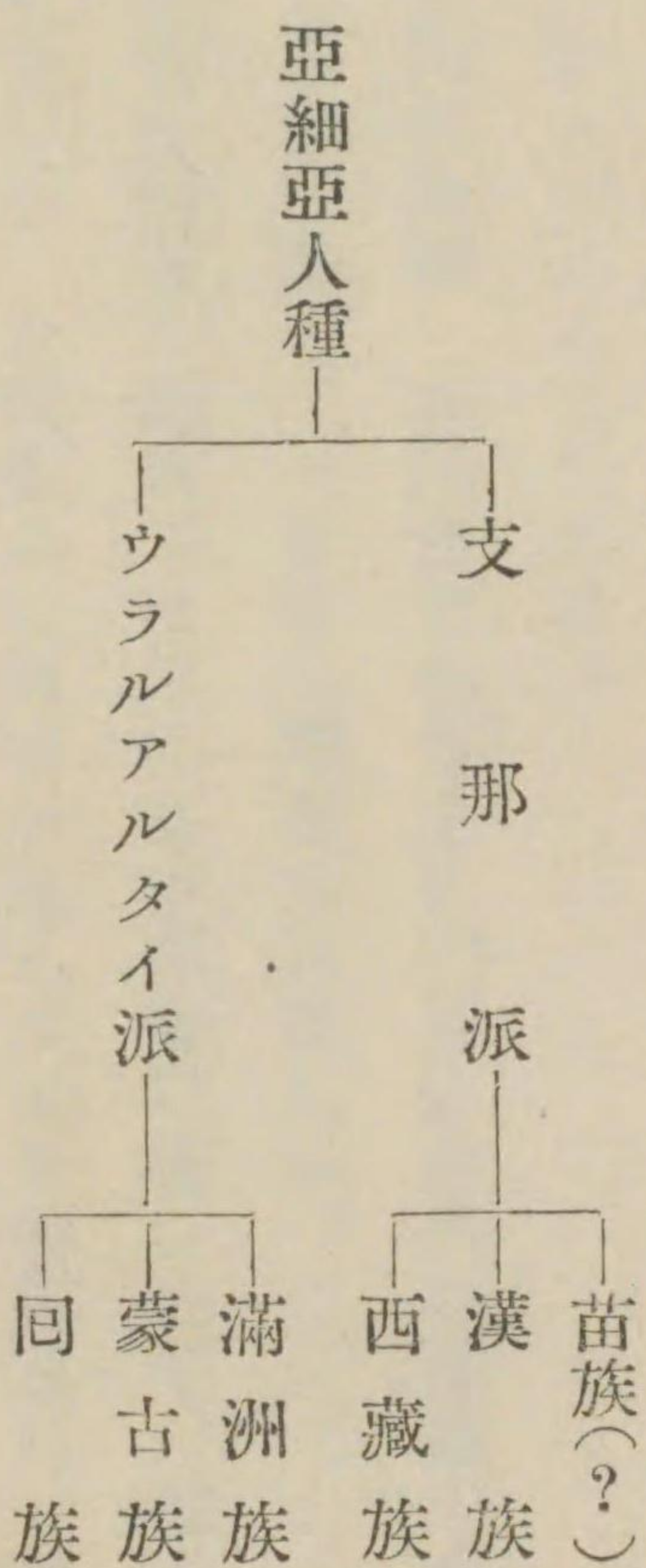
新疆の氣候 大陸性である上に、夏は沙漠の熱風で非常に暑く、冬は天山の雪風で非常に寒く、一日中の變化も又甚しい。

吐蕃附近の低地では夏は日中非常に暑いので、家の下に穴があつて、朝の間に仕事をし、十時頃から穴の中に入つて日中休息し、夕方又出てくるといふことである。

雨は非常に少いが、農業には雨が少ない方がよい。なぜならば土地に鹽分を澤山含んで居るから、雨が降ると地中の鹽分が浮き出して一夜の間に作物を枯らすこともあるからである。それで住民は主として天山・崑崙から流れ出る雪解の水で灌漑して農業を営むのであるが、米其の他の穀物・果實等がよく出来るのである。

人種

支那の國民は凡て亞細亞人種であるが、更に細別すると次表の如くなる。



亞細亞人種を二大別して支那派とウラルアルタイ派とするのであるが、支那派は支那本部に住する漢族と西藏に居る西藏族との外、印度支那半島の住民が之に屬する。ウラルアルタイ派は支那本部・西藏以外の支那やシベリヤ・中央亞細亞・

朝鮮・日本等に居る諸種族をいふのである。

抑々人種の區別は主として體質上よりするのであるが、言語上よりも別つことが出来る。亞細亞人種の二大別は實にこの語系によれる區別で、支那派は孤立語系に屬し、ウラルアルタイ派は膠着語系に屬する。

世界の言語は多種多様であるが、語法上の組立より見ると四つに分つことが出来る。即ち孤立語・膠着語・屈折語・合成語是れである。孤立語とは支那語其の他支那派に屬する言語で、これは語それ自體は變化しないで唯だその位置によつて意味を變ずるものである。膠着語とは日本語其の他ウラルアルタイ派の言語で、何れも助詞(テニオハ)を用ひて語の各品詞を結合してその意味を現はすのである。尙ほ屈折語とは英語・獨逸語などの如きものをいひ、語に前置詞・後置詞を附し、又は語それ自身を變化せしめて異なる意味をあらはし得るもので、合成語とはアメリカインディアンのダコタ語の如く、多くの語を連續して始めて一の意味を

あらはすものである。

支那では前掲の表の如く六族に分たれるが、その中苗族は最も古い民族であるが、現在は少数で勢力がないから、漢・西藏・滿洲・蒙古・回の五族を以て支那國民は成立するものとし、之を象徴して中華民國國旗が出来てゐる。即ち其の國旗は五色の横線より成り、赤は漢族、黄は滿洲族、青は蒙古族、白は回族、黒は西藏族を示してゐるのである。

次に各民族について略述する。

苗族

支那種に屬するか否かは人種學上疑問である。之については鳥居龍藏博士の實地踏査による立派な報告書が出てゐる。苗族は支那の原住民であつたが、今より約五千年前天山南北路を通つて黄河の流域に出て來た漢族のために次第に南方に追はれ、今日は支那本部の西南部の山地に辛うじて餘命を保つてゐるに過ぎない。

これは我が國に於けるアイヌ族と大和民族との關係の如く、又イギリスに於けるケルト族とアングロサクソン族との關係のやうなものである。苗族は文化の程度低く、農業を營み、概ね佛教信者である。

漢族

支那の人口の約九割以上を占め、支那本部と滿洲及蒙古の一部に廣く分布してゐる。古くから度々強大な國家を作つた。例へば秦・漢・唐の如きである。然るに唐の末以後次第に其の勢力衰へ、時々塞外民族のために征服された。又近世になつてからは西力の東漸によつて著しく壓迫を蒙るに至つた。

漢族の民族性の中、最も勝れた點は勤儉忍耐である。一例を挙げると大連の埠頭に働く多くの苦力は非常に力強く、中には四五十貫の荷物を一人で苦もなくかつぐものが居る。日本人よりも二三倍の力を有し、能く勞働に堪へ、而かも極めて粗惡な衣食に甘んずるといふ状態である。又内蒙古へ移住した漢族は蒙古族の

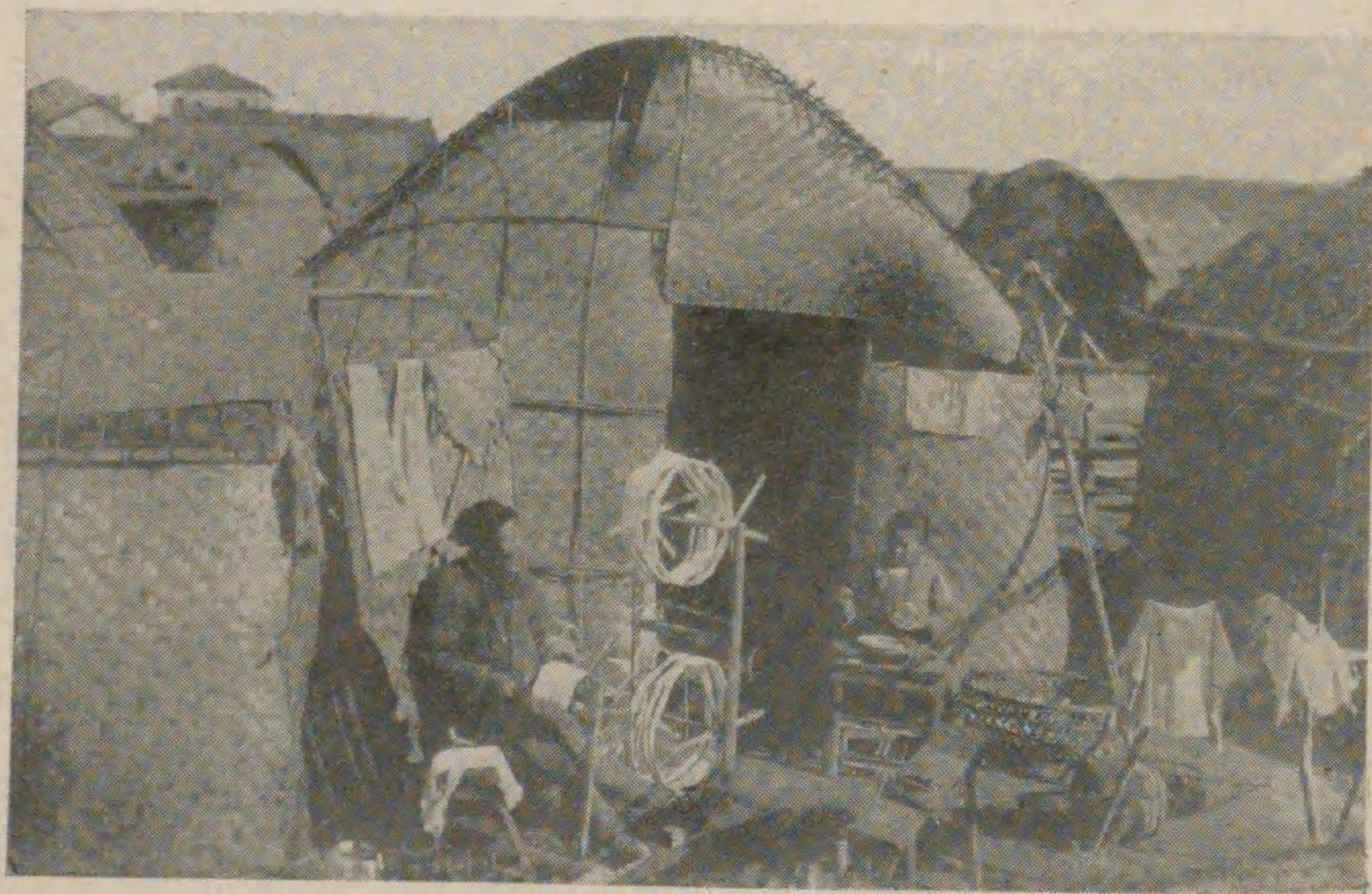
牧地を畑地と化するために孜々として土に親しみ、廣漠たる寂しい土地に小さい土の家を作り粗衣粗食に甘んじて居る様は誠に涙ぐましい光景である。

支那人の最も缺點とする性質は利己的であること即ち非國家的・非國民的であることである。これは支那人本來の性質なりや否やは疑問であるが、かくならしめた一大原因は歴代の悪政であらうと思はれる。歴代の政府は人民の身體生命財産を完全に保護してくれないことが多いので、人民は自己自らを守るより外ないから、富豪は家の周りに城壁の如きものを廻らし、猛犬を多く飼つて防禦とする。民家が四五軒集ると其の周圍に城壁を築く。大都會になるほど堅固な城壁をつくるのである。近來西洋思想が輸入され富豪中自己の邸園を開放するものが出來た。所謂私園開放是れである。しかしそれはほんの少數に過ぎない。

其の他の民族性として何人も異論のないのは、文弱的といふことである。支那の諺に「良い鐵は釘にしない、善い人は軍人にならない」といふことがある。戦



第十七圖 漢族の生活（其の一）



第十八圖 漢族の生活（其の二）

第十七圖

これは北京の横町を一輪車に水桶を二個並べて水を賣りあるところである。北京には水道の設備もあるが未だ行き渡つてゐない。簡素な水賣りの服装や、右方の子供の服装や、平屋造の家などにも注意せよ。

第十八圖

漢口の貧民窟である。アンペラで造つた家の前で老婆は糸を繰り、子供は箱張りの内職をやつてゐる。上圖や第三圖(ロ)のやうに北支那の方では家の建築材料に多く土を用ふるが、楊子江流域では葦(アンペラの材料)や藁などを多く用ふるのは、生活と環境の關係をよく示す。

も實力を以て闘ふにあらずして權謀術數の外交戦が主である。即ち文弱的とは換言すれば平和的・妥協的・外交的・巧言令色的であることである。

漢族は又保守的で中華思想が脱けない。中には進歩的のものもあるがそれはほんの少數で、大多數のものは保守的と言はなければならぬ。

漢族は更に實際的である。之を精神的に言へば非哲學的である。此の風は英國人や日本人に似てゐる。物質的に言へば實利主義である。

次に漢族の間に行はれて居る宗教について一言する。宗教は餘り盛ではない。その種類をいふと儒教・佛教・道教・回教・基督教である。

儒教 これは孔子教ともいふ。純粹の意味の宗教ではなくて實踐道德の教であるが、孔廟を設け春秋に釋奠を行ふ點より見れば一種の宗教と見ることも出来るのである。支那の大都會には必ず立派な孔廟を設け、その祭として釋奠を行ふことを絶たないのである。

道教 在來の民族的信仰が老莊の思想と結合して出來たもので、佛教の影響を大分受けて居る。その説く所の要旨は修道・養生の功によつて永生し遂に昇天して仙人となるといふのである。多神教で、道藏といふ經典がある。儀式は佛教に似て、禮拜・讀經をなし禁厭・祈禱などを行ひ護符をも授ける。道教を大成したのは漢の張道陵で、その子孫が今江西省の貴谿縣の龍虎山に住んで居る。各省の都會には大抵道教の寺がある。

以上の二者は支那本來の宗教と稱すべきものであるが、外來の宗教としては佛教・回教・基督教がある。

佛教 これは印度より西域を経て天山南北路を通り後漢（東漢）の明帝の時支那に傳はつたもので、印度に佛教が起つてから恰も五百年後に當る。夫より約五百年を経て我が欽明天皇の御代に佛教が我が國にも渡來したのである。佛教は唐の頃までは盛んであつたが、宋以後漸く衰へ、清朝に至つては最も衰微した。現

在は僧侶の社會的地位は甚だ低い。宗派には色々あるが、現在稍盛んなものは禪宗の一派臨濟派である。しかしこれも純粹のものではなく淨土宗も多少混合してゐるのである。

回教 アラビヤに起つたマホメット教である。これは唐代に西域に居つた回鶻ウイゴットといふ民族によつて傳へられたから、回教又は回々教といふのである。回教は又アラビヤ人により海路から廣東方面に入つて來た。それで現今回教徒は西北の新疆・甘肅の二省、南方の雲南・廣東二省に最も多い。寺は清真寺と稱し、寺の屋上には半月の標を持ち、中にはそれが金色燦爛たるものもある。回教徒は他の教徒の手になる食物を食はず、他教徒と結婚せず、支那人の常食たる豚肉をも口にしない。回教徒間によく相互に輔けて、教義を守ることが嚴重である。一神教で祭壇には神體はない。日々アラビヤの方に向つて禮拜を行ふ。店の看板にも回々と書いてある。露店にも回々の標札を立て、居る。經文はコーランと稱し原文のまま

ま之を用ひる。これは佛教の經典が漢譯されてゐるのと大に異なることである。

基督教 古く唐の太宗のとき景教といふ名で太秦トシマより陸路傳つて一時隆盛になつたことは今も西安に残る「太秦景教中國流行碑」(京都帝國大學や高野山に實物大の模造品がある)によつて知り得る。しかしこれは武宗の時に禁ぜられた。現在行はるゝキリスト教は後に入つたもので、舊教(天守教)と新教の二つである。舊教は元の時代に西域より入つたが、それは一時中絶し、明代に海路より傳はつたものが今まで續いてゐるのである。宣教師はフランス人が最も多く、イタリヤ、イスパニヤ人等之に次ぐ。又新教は舊教よりも新しく、清の時代(約百二十年前)海路より入り來つたもので、信者も極めて少ない。宣教師には英米人が多い。しかし此の派、殊にアメリカ本國よりは巨額の布教費を送るために、布教の外に慈善事業を行ひ、教徒を無料で診察したり、立派な病院をつくり、優秀な者を教育せんが爲に本國に送つたり、又學校を建て、育英事業を盛に行ひつゝある。

西藏族

人口約二百萬概ね西藏や青海に住む。農業・牧畜を營み文化の程度が低い。農業を營むものは平屋根の土造の家に住み、牧畜をなすものは犂牛リギウ、毛で織つた黒色の天幕に生活する。犂牛は駄用の外、乳と肉は食用となり、毛は織物とし、皮も使用せられるし、糞は干かして燃料となる。毛は我が國へも輸出せられて婦人の髻ケモヅとなるのである。家畜は此の外に羊がある。そして四季によつて山地を上下して遊牧するのはアルプス地方と同様である。犂牛は低い溫度がよいから雪線に接して移動遊牧をする。農業者も若干は家畜を飼養し、農繁期には犂牛も高地から谷間に下されて耕作に用ひられる。

食物はツアムバ(大麥の粉の炒つたもの)とバタと茶と鹽とが主なるものである。遊牧者の衣服は大抵羊皮でつくり裏に毛をつける。遊牧者の婦人は糸車で粗羅紗を織る。これも谷間の農業者の衣服となる。

チベット人の間には多夫一妻の奇風があるので有名である。これは特別のもののみで貧家に多く、普通は一夫一妻で、富豪は寧ろ一夫多妻である。尙一般に喇嘛



第十九圖 喇 嘛

ラマが大禮服を着てラマ廟の前に立つてゐるところである。

教（佛教の一派）の熱心な信者である。
喇嘛教 西
曆第五世紀に
印度より入り
土教と合した
佛教の一種で
ある。喇嘛教

には新舊の二種がある。舊教は紅服・紅帽を着けてゐるがため、一名紅教といふ。

これは一時盛んであつたが、戒律がゆるんで弊害甚しくなつたので、明の永樂年間ツォンカバ宗喀巴（キリスト教のルーテルに比すべき人）が出て宗教改革を唱へ黄教なるものを作つた。これは黄服・黄帽を着ける所からかく名づけたものである。此の新教の黄教は戒律を厳にし妻帯を許さず、生臭い物を口に入れない。この黄教は西藏にひろがり後更に蒙古に廣がつた。西藏の首府ラッサには達賴喇嘛ダライラマ（活佛）が居つてこの宗教の最高位を占めるのみならず政治上の最高權者である。外蒙古の庫倫にも活佛が居つて政教二權を握つて居つたが、今は唯だ宗教上の最上權を有するに過ぎない。西藏では一家族に數人の兄弟があると、其の中の一人は必ず僧となる。夫れ故に僧侶が人口の約七分の一を占めてゐるといふ状態である。僧侶は知識階級に屬し地位も高いから、好んで僧侶になるといふ傾向である。

滿洲族

約二百萬乃至五百萬と稱せられる。之は滿洲に住んでゐたのであるが、今より

約三百年前清朝が滿洲より起り支那本部に入つた時之に率ゐられて大部分支那本部に入つたのである。

清朝のときは滿洲族の男子が生れるとすぐ八旗の兵籍に入れられ、丁年になると兵役に就く。實務につくと否とを問はず凡て一定の口糧を給せられたものである。この八旗兵は北京をはじめ主要なる都會に悉く配置されて守備の任にあつた。清朝亡び民國興つた際、これ等八旗兵は皆追はれたので、此の民族は今はその所に散逸してゐる。

蒙古族

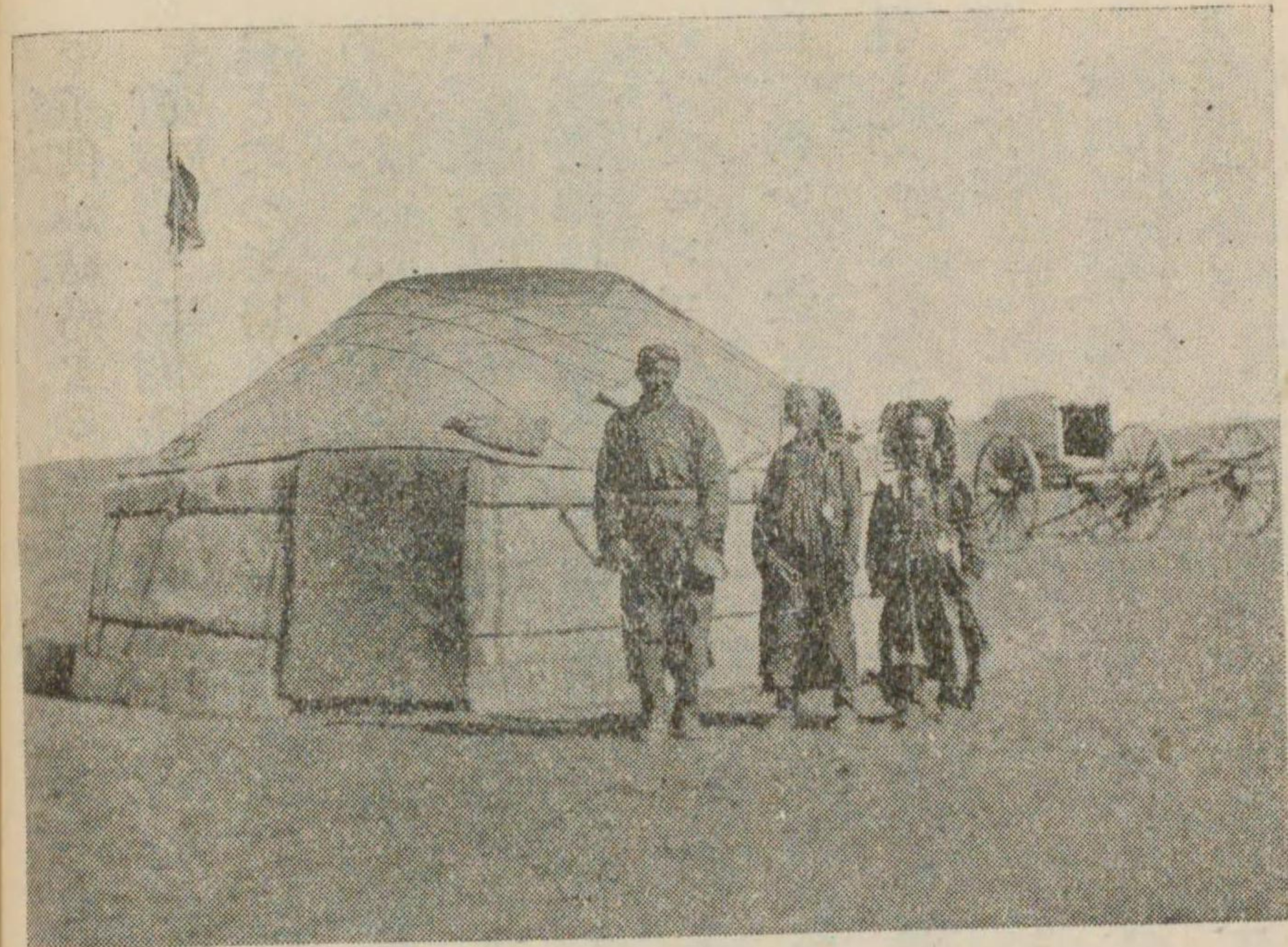
總數百八十萬と稱せられるが正確なことは分らない。通常大別して東西二派とする。東蒙古人は内外蒙古の東部の大部分を占め、一名カルカ人といはれる。西蒙古人は一名カルムック人ともいひ、西部蒙古から天山北路及南路の一部及青海（明末に西北より移住）に廣がつて居る。

風俗は地方によつて大分違ふが東蒙古人について少しく述べて見る。

直隸省や滿洲諸省に編入せられた部分の蒙古人は大分支那化し純農又は半牧半農となつて居るが、ラマ教の信仰は盛である。それより西北すると純牧の蒙古人の域に入るのである。家畜は馬・牛・駱駝・羊・山羊で豚・鶏は本來のものは飼はない。蒙古人は農業は土地を荒し且貧乏人のする事と考へて居る。

純農地は支那人の作物と同一のものを作るが牧畜の側らやる。農業は牧地の隅の方でモンゴルアム（黄米ともいひ、粟の二倍大の粒）を作る。これを焙つて木臼で搗いて殻を去り、食する時は木盆に盛り磚茶を削つて沸し、更に牛乳又は羊乳を加へて煮沸し、熱いうちに眞鍮の器に入れバターや茶を加へて食す。羊肉も上等の食事として用ひる。

住居は支那化する地方は煉瓦や土や葦で蒙古風に作るが、純粹の蒙古風はテント生活である。天幕（包^{ホッ}といふ）は第二十圖の様に木骨で圓形につくり、屋根を



第二十圖 蒙古人の生活

住居(包)の前に立つて居る男子(左端)と二婦人と車とを示す。婦人は銀製の大きな扇形の耳飾を着けてゐる。これは既婚婦人であるが、未婚の少女は只頭髮を組んで後に垂れてゐるだけである。

傘の様に廣げたものを草地の上に置き、外側を毛氈で包んで馬の尾で造つた綱で之を縛る。毛氈は羊毛を糊で煮て叩き堅め乾して造つた厚いものである。天幕の上部の中心に天窗があつて室内の焚き火の煙出しとなる。テント内の大きさは六畳敷位。生活は一夫婦のみ

で子供が結婚すると別居する。家の中央に大きな五徳の様な爐を置き、奥に佛像を安置し、其の左右に木箱を並べて衣服道具類を収める。入口には毛氈の垂れ幕を下げ、入口の左右に炊事場があつて水桶などを置く。木箱の前には毛氈を敷き、主人は正面に座し、其の左に妻が並び、子供は主人の左右に順に入口の方に並び、來客があれば佛像の前の席に招じる。爐邊には木箱に燃料として牛糞を乾かしたのを入れ置く。富者などは牛糞を家の前へ塚の様に積上げて置く。又泥が少いから其の代用として牛糞を籃などの目ふさぎ其の他に用ひる。家畜は家の附近に放牧するが、草がなくなると他に移轉する。家の取毀ち運搬組立はすぐ出来るのである。但し王府やラマ廟は永久的の建築である。交通機關としては主に馬を用ひ時に駱駝に乗る。運搬用としては荷車の外駱駝と牛とを用ひる。

風俗は滿洲風で女の頭髮は多くは兩把頭リャンバトウ又はそれに似たものに結び、耳飾を用

ひ着物は滿洲旗人のと同じであるが、裏に羊毛をつける。袖には色布の縁をつける。紅い刺繡した長靴を穿く。男は羊の毛衣を用ひ、毛を内にし皮を表にして着る。腰には小刀子を帯び、長靴と毛帽を用ひる。縫模様はテントの垂れ幕其の他衣服・靴などに盛に應用する。犬は一のテントに三四匹以上居つて番犬の役目をする。

蓄妾の風があるし、男子數人あればその中の一人はラマ僧にすることはチベット人の場合と同じである。

元朝には大に此の民族は活動したが、その頃は男子は戦に出掛け、妻は家事を整へ家畜の世話をする。この風が今も残つて居て妻は中々よく働く。男子は清朝となつてから、戦もなくなつたので遊惰となり、又ラマ教は一般に深く信ぜられて遂に弱い民族となつてしまつた。ラマ教を以て蒙古人を弱くしたのは清朝の政策であつた。僧は王の次に尊ばれ、次に官吏・人民といふ社會階級になつて居る。

死人が出来るラマ僧に讀經して貰つてから、死體を毛氈に包んで車で運び、人の往來しない野山に捨てる、所謂風葬である。犬や鳥がその肉を食つてしまつた後、骨を拾つて焼き、灰を壺に入れて遠く庫倫のラマ廟に納めに行くものが多い。これは庫倫の繁昌する一つの原因である。

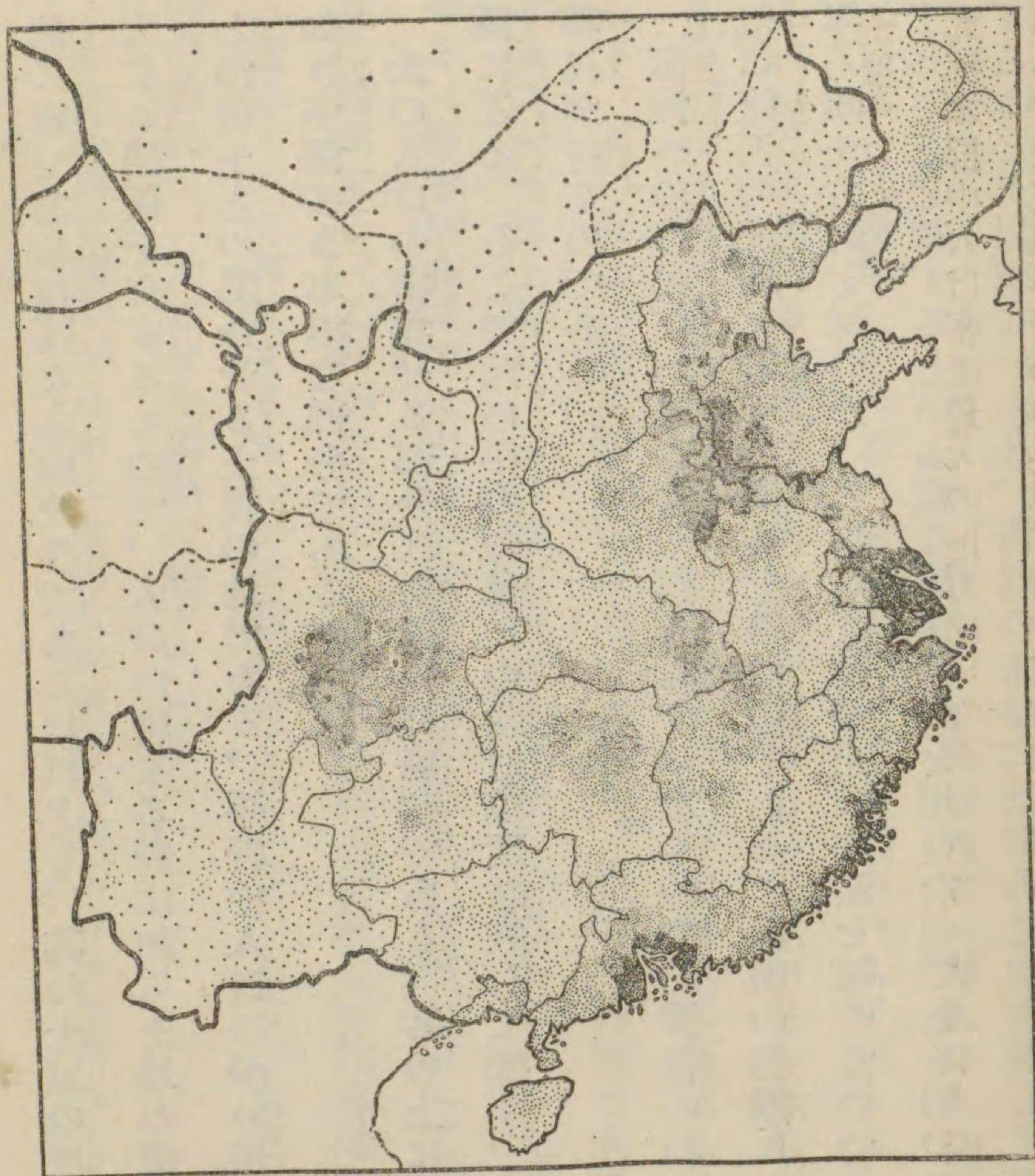
回族 天山南北路から青海・西藏の西北部に住んで總數は約百萬と推定されて居る。農牧を業とし熱心な回教信者である。服装は中央アジア土人と同じく短袖長濶で頭に布を纏ふ、所謂纏頭回である。身長高く、皮膚褐色、鼻高く、鬚髯が多い。性質は極めて柔順で回族よく助けあひ、親切で正直勤勉な種族である。

人口

支那の人口調査は非常に不充分であるから正確な人口は分らないが先づ四億と算せられ、ヨーロッパ全土三十餘國の全人口に匹敵する。又之を世界人口總數約十七億に比べると約其の四分の一に當るのである。列國中人口の大なることはイギリス帝國（本國五千萬人、屬地約四億萬人）について實に世界第二である。而かも支那の人口の九割以上は支那本部に集つて居るのであるから、支那本部は世界中に於ける人口密度の大なる區域に屬する。しかし支那本部以外の支那の各地は密度小である。

支那本部中人口密度最大の地方は凡そ六つある（第二十一圖）。

第一、北支那平野の中央部 山東省西部・河南省東北部・直隸省南部・安徽省



第二十一圖 人口密度圖（一點二萬五千人）

北部を含む地方である。北支那平野は到るところ人口密度大であるといふことは出來ない。其の理由は、地形上より云へば土地の平坦なる所であるから人口も自

人口

然に密であらねばならぬやうであるけれども、其の土質の肥瘠が其の人口粗密に大なる關係を有するもので、人口の密なる所は即ち土地の肥沃なる所、即ち黄土と沖積土との混合せる土質の地である。平野中人口の少い所は砂地や淮河附近の如き沼澤多き卑濕な部分である。

此の人口の密集せる部分は勿論人口過剰である。其の上に凶作が時々起つて飢饉になる。そこで此の平野の農民の生活程度は概して低く、且滿蒙へ年々多くの移民が行くのである。

滿洲への移民はかなり古くから行はれたもので、清朝の初（約三百年前）には既に遼河の流域に若干の漢族を見たのである。清朝の初期には是等の移民に對し寧ろ禁止方針を採つた。これは直接禁止の方法を採つたのではなくて土地を購入することを禁ずるといふ様な間接手段を用ひたのであるが、結局この大勢を抑止することが出来なため、清朝の末年には寧ろ之を解放して滿蒙の開発を謀る方

針に變更したのである。日露戦役後日本が滿洲の經濟開發に貢献した爲めに滿洲への移民が益々盛んになり、僅か二十年間に千二百萬の人口が約二倍の數（二千二百萬）に増加した。この増加は何によるかといふに固より自然増加もあるが、これ以外に移民の激増といふことが主因となつてゐるのである。近年は年々四五十萬づつ山東省方面から移住して來る。本年の如きは百萬人に達すると言はれてゐる。其の移民中約八割が山東省の人民で、次は直隸省の人民である。移民の約半數は大連に上陸し、約二割は營口に上陸し、残りの三割は陸路を取つて入つて來る。毎年早春滿洲に出掛け夏中滿洲で働き、收穫を終へてから晩秋に其の約半數は歸國する。これがために大連は大に賑ふ。併し家族移民として滿洲に永住する意志を以て移住するものが次第に多くなりつゝある。大連・營口に上陸した是等の移民は、大部分北滿洲に赴くのである。

此の移民の趨勢が日本に如何なる影響を與ふるかを考へて見ると、日本より勞

働者を滿洲に送るといふことは殆んど望みがないといふことになる。日本人は滿洲に約二十萬人居るが、労働者としては支那人の方が労働能率高く、而かも賃銀は安いのである。しかし日本人は此の激増する人口に向つてよい顧客を得ることとなり、或は勞銀の安い夫等の勞力を使役して大工場を經營するために滿洲に活躍するのが良策であるといふこととなる。又政治的に考へると滿洲は滿洲人の滿洲にあらずして漢族の滿洲である。西藏は西藏人の西藏であつて英國がこれを操縦し、外蒙古は蒙古人の蒙古であるから露西亞がこの人種的差別を利用して之を獨立せしめてゐる。日本が滿洲を西藏や蒙古と同一視し若し之に干渉し獨立せしめようなどと思つても、漢族の滿洲である以上は恐らく不可能のことであらう。それは兎に角、彼の英國と西藏、露西亞と外蒙古の關係とは大にその趣を異にすることは注意せねばならぬ點である。

第二、揚子江口附近 南京より上海に至る地域である。こゝでは農業の外に商

工業が盛んである。此の地方は凶作の少い上に、大工場を有してゐるがため、他地方への移住者は少い。但し近頃我が國に著しく多くなつた支那散髪は多くは此の方面から來てゐる者である。

第三、珠江の三角洲 廣東附近の狭い地域である。

以上三地方の人口は一方里に約六千人以上である。因に日本内地の人口密度は一方里平均二千四百人である。

第四、廣東附近と上海附近との間にある狭長なる海岸地帯 この海岸一帯が悉く人口稠密であるといふことは出來ない。各所に散在せる都會を中心として、あちこちに密集地をつくつてゐるのである。この海岸地帯から少しく内地の高原狀山地に入ると急に人口は一躍して粗になつてゐる。

この第三帶第四帶内も人口の過剩地であるから移民をするが、それは主として南洋方面に移住する。即ち印度支那半島やマレー群島地方へ移住するので、これ

を華僑と稱してゐる。現在數百萬に達し労働者より大商人・大工場主に至るまで種々の階級者と網羅し、是等の地方に於ける經濟上の實權を握つて居る。支那人は熱帯労働者として炎天下にも能く働き得る不思議な民族だと言はれてゐる。彼等は本國の後援なきに拘はらず孤立無援能く自己の立場をつくつてゐることは非常に感ずべきことである。福建・廣東人が臺灣に入り生蕃を山地に驅逐して、あの豊饒な平野を占領したことは前に述べた所である。

第五、四川盆地 此の盆地では首府成都附近が密度最も大で、一方里一萬人以上の密度を有する。これは灌漑事業が發達してゐるからである。四川盆地は凶作は少いが、他へ移住するには不便な所であるから、人口が稠密で、従つて他地方の農民よりは一層低い生活を營んで居るのである。

第六、湖廣平野 中央部に湖沼や卑濕地があるので、人口はその周邊に密度大で、且湘江・沅江・漢水の谷では山地の中まで延びてゐるのである。此の平野の東

につゞく江西省の贛江の谷もかなり密度が大である。一般に豊饒な地方であるから、人口の他地方への移住は割合に少い。

以上述べた六地方は支那本部の中でも殊に密度の大きな所であるが、これは全體に對しては比較的小部分であつて、大部分は是等の地よりは人口密度が小である。併し支那本部は世界中の人口密度大なる四地方の一になつてゐる。世界中人口密度大なる四地方とは極東地方（支那本部より南日本に至る地方・印度地方・西ヨーロッパ地方・アメリカ合衆國の東部地方である。

次に滿洲の人口密度を見ると一方里に約三百六十人であるから、密度の小な方である。そして南滿洲の方が密度大で北方に至るに従ひ漸次小となる。これは前に述べたやうに、現在滿洲住民は大部分支那本部の人民が南方から移住したためである。

蒙古・新疆・青海・西藏は人口極めて少い。蒙古は約二百萬、面積は支那本部と同

様であるにも拘はらずかくも人口稀薄である。青海・西藏と新疆とは何れも満洲より廣い土地であるが、これ亦夫々約二百萬の人口を有するに過ぎないのである。

支那郵便局調査省別人口並密度表（一九二〇年）

〔省名〕	〔人口〕	〔一方哩密度〕
直隸省	三四、一八六、七一一人	二九五
山東省	三〇、八〇三、二四五	五五二
山西省	一一、〇八〇、八二七	一三四
河南省	三〇、八三一、九〇九	四五四
陝西省	九、四六五、五五八	一二五
甘肅省	五、九二七、九九七	四七
江蘇省	三三、七八六、〇六四	八七五
浙江省	二二、〇四三、三〇〇	六〇一
安徽省	一九、八三二、六六五	三六二

那支北

那支部中

那支南

江西省	二四、四六六、八〇〇	三五二
湖北省	二七、一六七、二四四	三八〇
湖南省	二八、四四三、二七九	三四一
四川省	四九、七八二、八二〇	二二八
貴州省	一一、一一四、九五二	一六七
福建省	一三、一五七、七九一	二八四
廣東省	三七、一六七、七〇一	三七二
廣西省	一一、二五八、三三五	一五九
雲南省	九、八三九、一八〇	六七
滿洲	二二、〇八三、四三四	六一
合計	四三三、四三九、八四一	二三八

人口

都市

支那は原始産業を主とする國である。即ち農業・牧畜等の如き原料品・食料品を得る職業を營む國である。随つて人口の都市集注は餘り著しくない。今五萬以上の都會を見るに支那人口の百分の六(六%)に當るのみである。日本の内地では一六%にも達してゐるから、支那は日本よりも都市發達の程度が低いと言はなければならぬ。世界中人口五萬以上を有する都市と其の國人口との割合を見ると、イングランドは四八%で世界第一に位し、その他西歐諸國は三〇%乃至二〇%である。

支那の大都市は多くは政治の中心になつてゐるが、又一部分は南京條約(阿片戰爭により支那が英國のために破られ西曆一八四二年南京で結んだ條約)によつて香港を取られ、五港(廣東・厦門・福州・寧波・上海)を開いて從來の鎖國方針が餘義なく開國方針に變つてから開市場が各地に發達し、ここに人口の集注を見るに至つたのである。

人口十萬以上の都市は支那本部に約六十、滿洲に四つある。

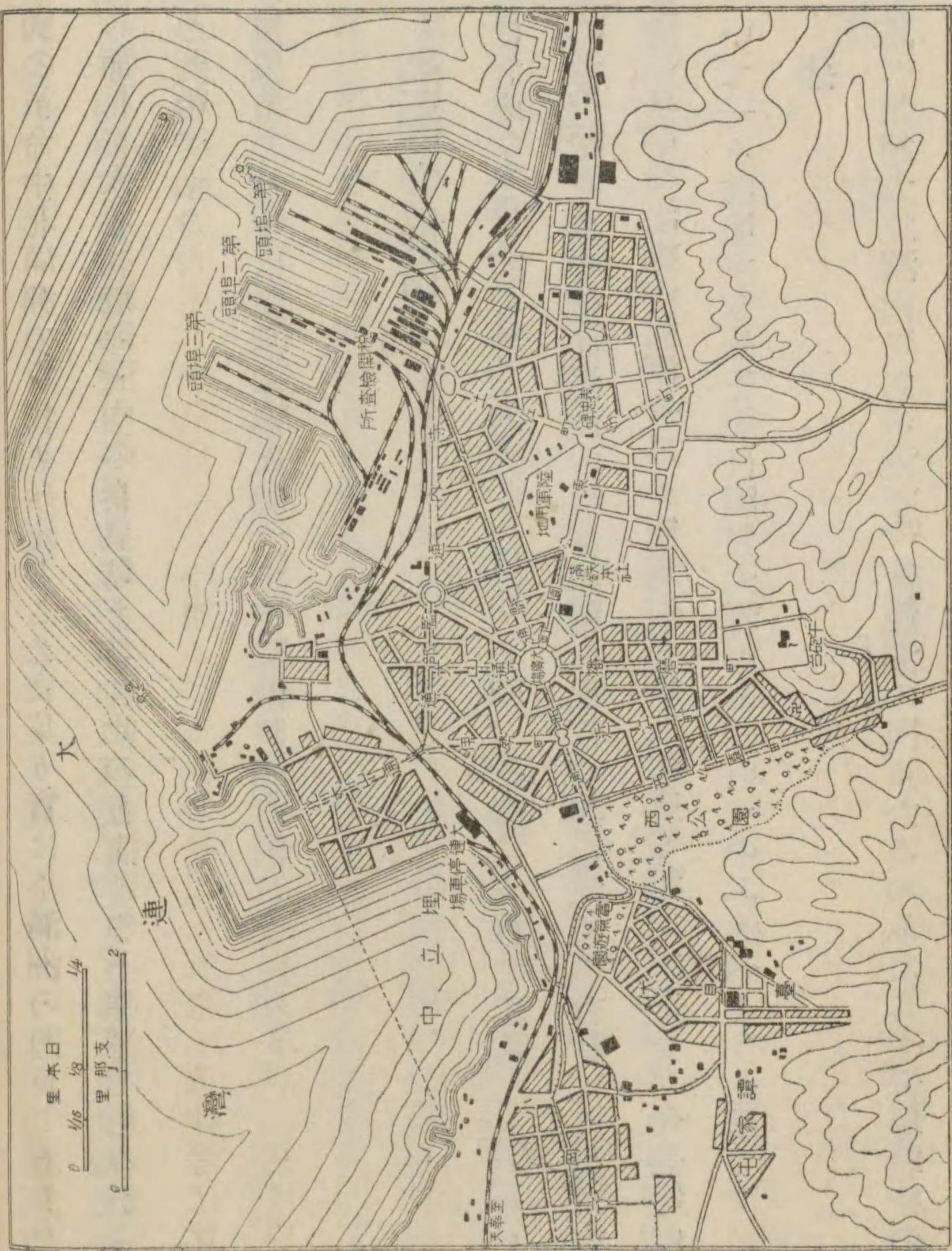
滿洲の都市

滿洲では大連(人口二十萬)、奉天(人口二十萬)、長春(人口十二萬)、ハルビン(人口十五萬)で、その他北滿洲の齊々哈爾(龍江、黒龍江省の首府)、吉林(吉林省の首府)及び南滿洲の河港營口・安東などが之に次ぐ都會である。今是等の都會について一々説明する煩を避け唯だ大都市についてのみ述べようと思ふ。

大連

遼東半島の先端大連灣内にある港で、南滿洲の門戸たるのみならず世界戰役の

第二十二圖 大連市街地圖 (縮尺五萬二千分之一)



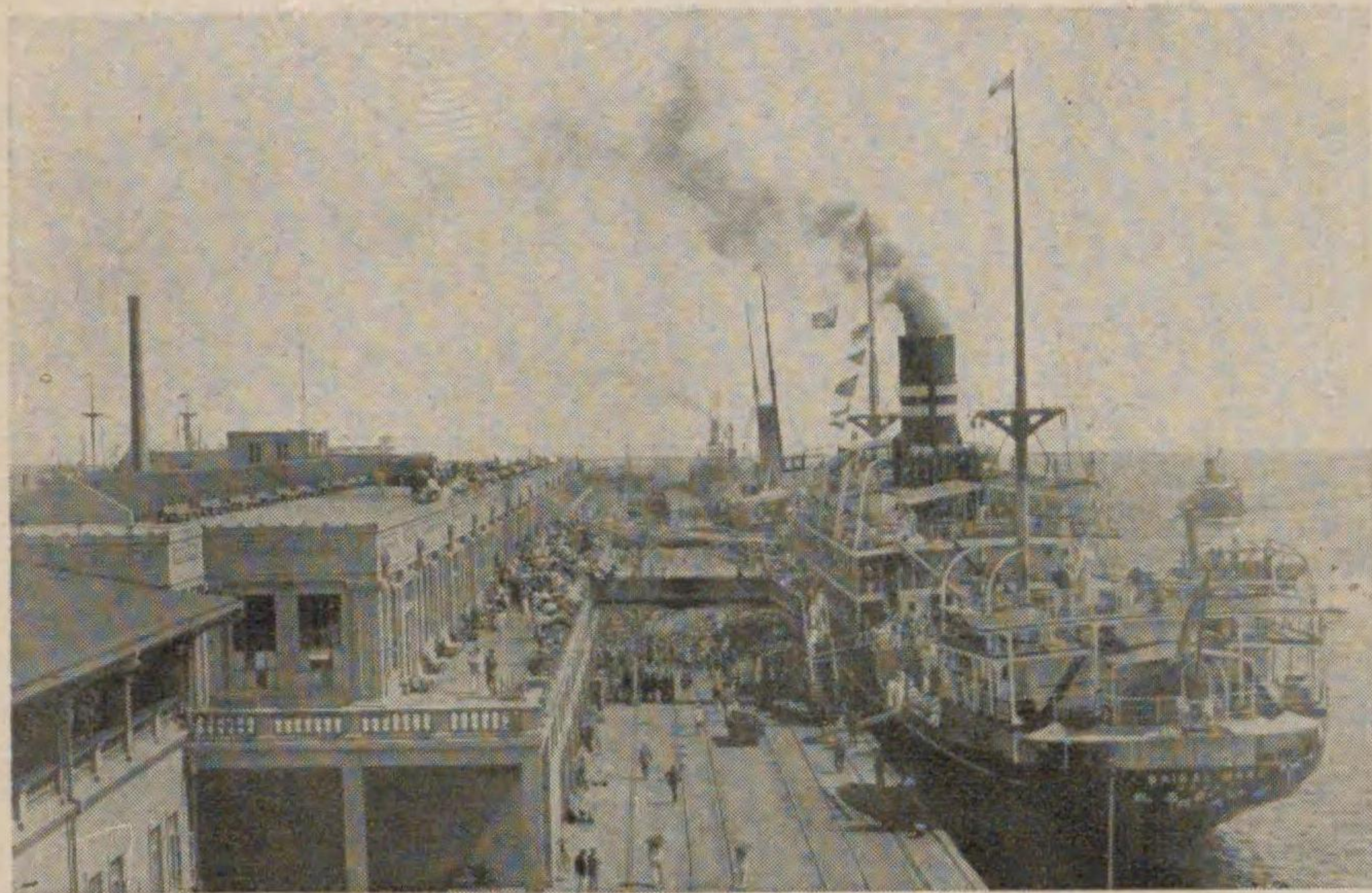
終り頃露國の革命中北滿洲の貨物も殆んどここに集り實に全滿洲の門戸であつたのである。而して大連は渤海灣内の秦皇島と共に此の方面での不凍港であるから冬になると汽船は此の大連と秦皇島にのみ通ふ。これが營口・安東・天津等に比し大に有利な點である。時には防波堤のために薄氷を見ることがあるが、別に碎氷船を用ふるには及ばない。

大連は自由港である。自由港とは關稅から自由であるといふ意味である。即ち此の港から關東州租借地に輸入せらるる貨物に對しては關稅を取らないのである勿論輸出税もいらないのである。所がこれは關東州に輸入せらるる貨物に對してのみ無稅であつて、大連から奥地の滿洲に入る貨物は課稅せられるといふことに注意しなければならぬ。貿易額は全滿洲の約七割を占め、その大部分は日本内地との取引である。輸出品としては大豆・豆粕・豆油所謂三品が第一位を占め、其他羊毛・獸皮・柞蚕繭及糸(營口の東方蓋平を中心として行はるる蚕業で、戸

外で柞の木に蚕を放つて鳥害にさへ注意すると遂に繭をつくる。この繭から柞繭糸をとり、この糸から絹紬を織る。山東省の芝罘邊では絹紬の製造が盛んで、その原料は山東産と滿洲産とである。我が國では福井・岐阜の織物原料に用ひられる。石炭（主に撫順炭）等である。輸入品としては綿布・綿糸・石油・砂糖・雜貨類である。

港の設備としては大防波堤を築き、第一第二第三の埠頭に分ちこれに數千噸の大汽船が横着けになるといふ至つて完全なもので、水陸の交通連絡が極めて便利である。日本の内地諸港や支那本部諸港との連絡もよい。

市街の構造は歐風になつてゐる。即ち日本内地に多く見る様な碁盤目式ではなくて、放射狀同心圓狀式である。これは明治三十一年に露西亞人が關東州を租借し市街を經營したからである。當時は青泥窪といふ一寒村に過ぎなかつた。露人は之をダルニーと稱した。明治三十六年には人口四萬人、其中支那人が三萬七



第二十三圖 大連埠頭



第二十四圖 大連の大廣場

第二十三圖

第二埠頭を示す。左方が船客の待合室で階上に五千人を容れることが出来るといふ。階下は貨物を入れる。右手前に横付けになつてゐるのが大阪商船の「ばいかる丸」で内地との間を連絡する。その左方に貨物運搬用のレールも見える。

第二十四圖

放射状に走る道路と、道路の兩側のアカシヤの並木を見よ。正面の建物は横濱正金銀行支店で、其の左右の道路は奥町(右)と大山通(左)、正金の左の建物は逓信局、手前の銅像は大島大將である。遙に大連灣とその北方の山が見える。

千の多きを占め、露人其他の歐米人は僅かに三千人に過ぎなかつた。そして港は未完成の状態であつたのである。所が日露戦役後日本が經營することとなつてから、港を完成し、人口も二十萬に増加し、其の中内地人が八萬で残り十二萬が主に支那人といふ割合になつた。

街路の最も廣いのは山縣通(ロシア時代にはモスコウスキイ街)で幅約十九間中央は車道(電車通ず)、兩側は歩道、其の界にアカシヤの竝木を植えて居るが、これは南ロシアからロシア時代に移植して來たもので、今も昔ながらに晩春には可愛い花がよい香をたゞよはせ、盛夏は涼風にそよいでゐる。

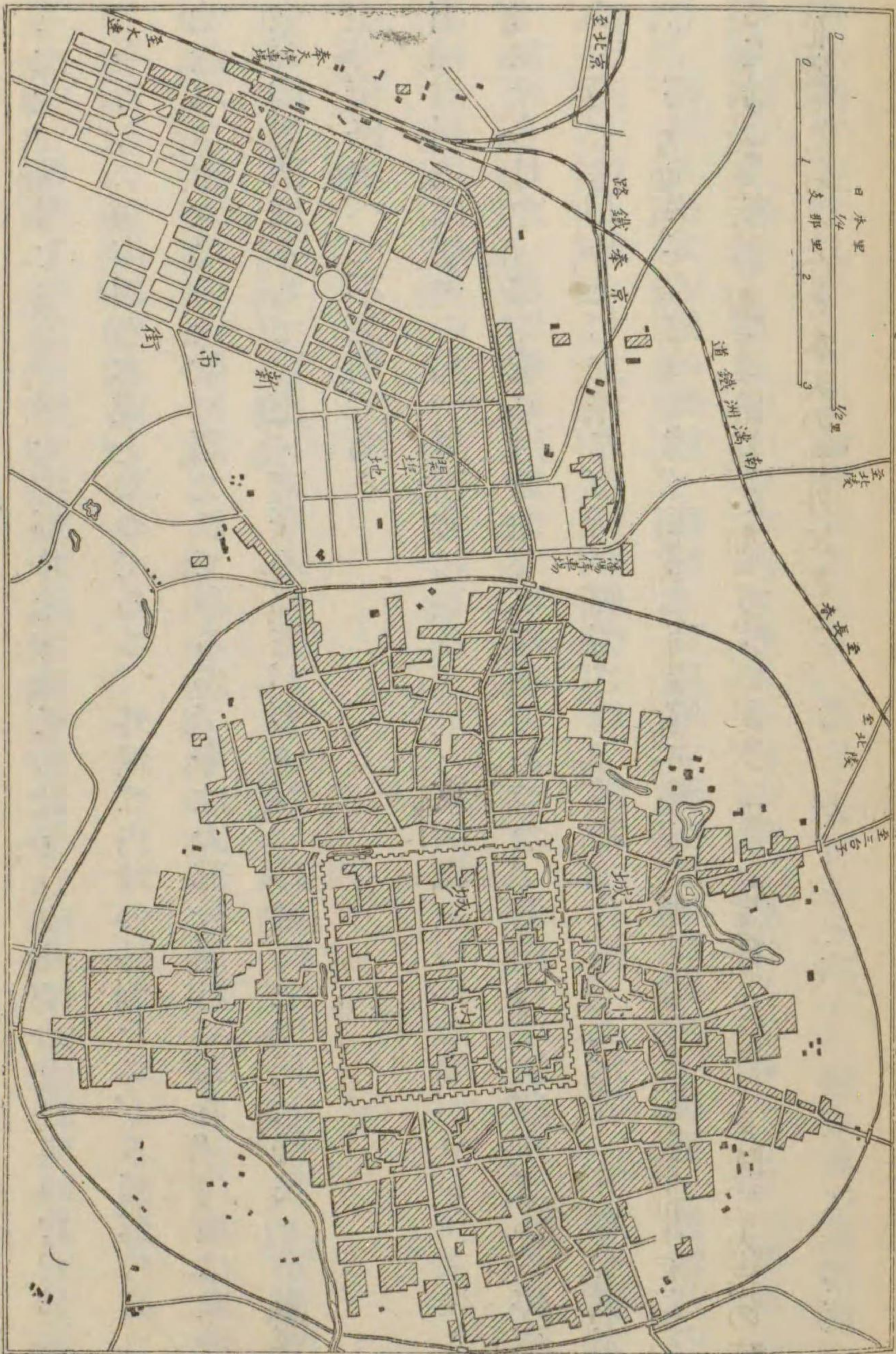
家屋は殆んど煉瓦造りで歐風の市街そのままな宏壯な清楚なものである。中央の大廣場附近はロシア時代からの官衙區域で、今もその周圍に市役所・民政署・地方法院・警務署・逓信局・英國領事館等の官署をはじめ、銀行會社の堂々たる建物があり、中央には大島義昌大將の銅像が立つて小公園になつてゐる。但滿鐵

の本社はその少し東方にある。

尙市の西端に小崗子といふ支那人街があり、その東南につづいて伏見臺がある。ここは日本領のはじめにはバラック式の建物が散點して居たのみであつたが、今は工業専門學校其の他の學校・滿鐵中央試験所・滿鐵社宅などが出來て面目を一新した。その他市の西郊沙河口には水源池や滿鐵の工場や社宅などがあつて、將來大連市に續くやうになるし、山を隔てて南方には星ヶ浦の保養地がある。

奉天

奉天は遼東山脈の山麓より約四里、渾河（瀋水）の北岸約一里の所に位置（海拔四三米）を占める。市街は三部より成る。即ち城内、滿鐵附屬地（俗に新市街といふ）及開埠地是れである。城内は清朝初期の都で北京遷都後も留都として、我が京都が東京に對する關係の如きものであつた。（清太祖の陵は東陵、太宗の陵は北陵といつて今も奉天の郊外にある）。



第二十五圖 奉天市街地圖（縮尺五萬六千分之一）

奉天城の周圍には二重の城壁を繞らして居る。内城は方形で周圍約一里半、高さ三丈餘、八門を設け、四大街が井然と交叉し、その中央に元の清朝の宮殿がある。今ここは張作霖の本據となつてゐる。外城は内城の外側をめぐる圓形の高さ一丈餘厚さ約六尺の土壁に圍まれてゐるが、今は大部分崩れてゐる。内城は政治及主要商業區域として官吏・富豪の邸宅が多いが、外城は之に反し賤民・小商賈が主で街路すべて不規則である。

滿鐵附屬地は城内の約一里西方に在る。もと東清鐵道の停車場がロシヤ人によつて設けられた、即ち鐵道附屬地で租借地であつた、滿鐵の手に移つてから停車場の改築をはじめとし立派な市街が經營され、道路・公園・上水道・下水道等完備し、醫科大學其の他の學校・病院・商店等立派な建物が出來、製糖・製粉其の他の工場も出來た。ここには日本人支那人各約二萬人居住してゐる。この區域は治外法權の地であつて、滿鐵會社は土木・衛生・教育等を掌り、關東廳は警察權・

郵便事務を司つてゐる。

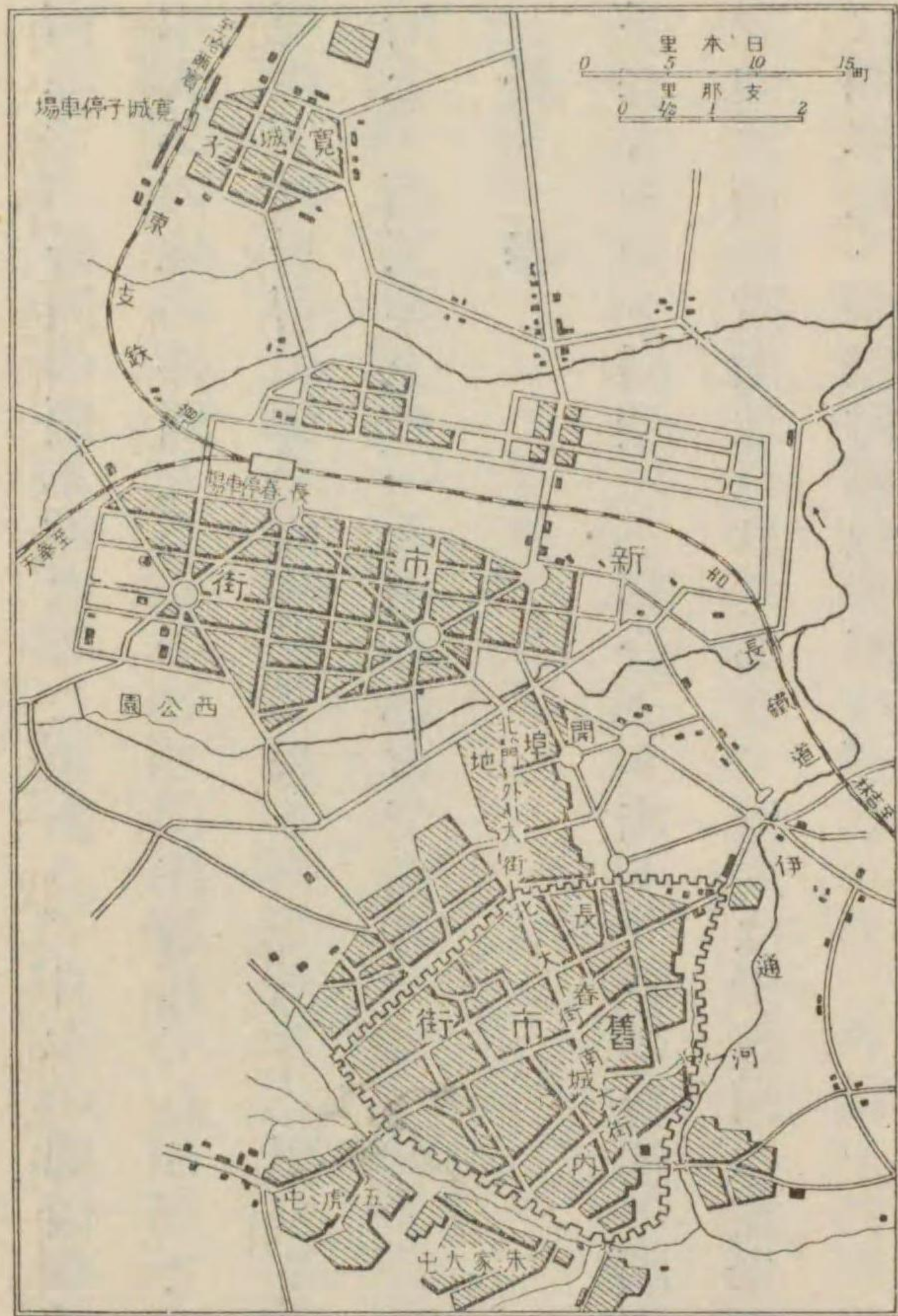
開埠地は奉天城と附屬地との中間に在つて支那が自發的に外國に開いた所謂自開商埠で、各國の領事館はここにある。日本の總領事館や警察署もここにあるし日本人其の他の外國人も若干ここに住居してゐる。ここに居る日本人は外務省の所管の下に居留民會を組織して居るのである。要するに奉天は滿洲内部に於ける政治上・商工業上の一大中心都市である。

長 春

長春も奉天と同様に三部分より成り、その發達の順序も同様である。即ち城内開埠地及滿鐵附屬地是れである。城内は伊通河の左岸に發達した市街で、その北方に開埠地と滿鐵附屬地とがつづく。

長春驛は滿鐵の最北端の停車場で、日露兩國鐵道の乗換驛である。但し、露國の最終の停車場は滿鐵の長春驛の北方約一哩の寬城子である。直通列車の運轉の

出来ない理由は、レールの幅が露國のものと滿鐵のものと異つてゐるからである。それは歐羅巴露西亞の方面でも同様である。露國のは五呎、滿鐵や西歐諸國のも



第二十六圖 長春市街地圖
(縮尺十萬分之一)

のは四呎八吋半である。一體鐵道の種類に廣軌狭軌などといふことがあるが、此の四呎八吋半を標準軌間と稱しこれより廣い

のを廣軌、これより狭いものを狭軌と稱する。朝鮮や支那の主要鐵道も標準軌間であるが、日本内地のは大抵三呎六吋であるから狭軌である。

鐵道について今一つの注意すべきは時間の異なることである。即ち東支鐵道と滿鐵との用ふる時間が異つてゐる。滿鐵は我が西部標準時を用ひ、露國はそれより二十六分早い標準時を用ひてゐる。我々内地人は中央標準時を用ふるから、滿鐵の標準時よりも一時間早いのである。朝鮮でも中央標準時を用ふるから、旅客は朝鮮の新義州から一旦鴨綠江を渡り、南滿洲の安東に入ると時計を一時間遅れさせねばならぬ。更に長春から北行するときには時計を二十六分進めねばならぬのである。

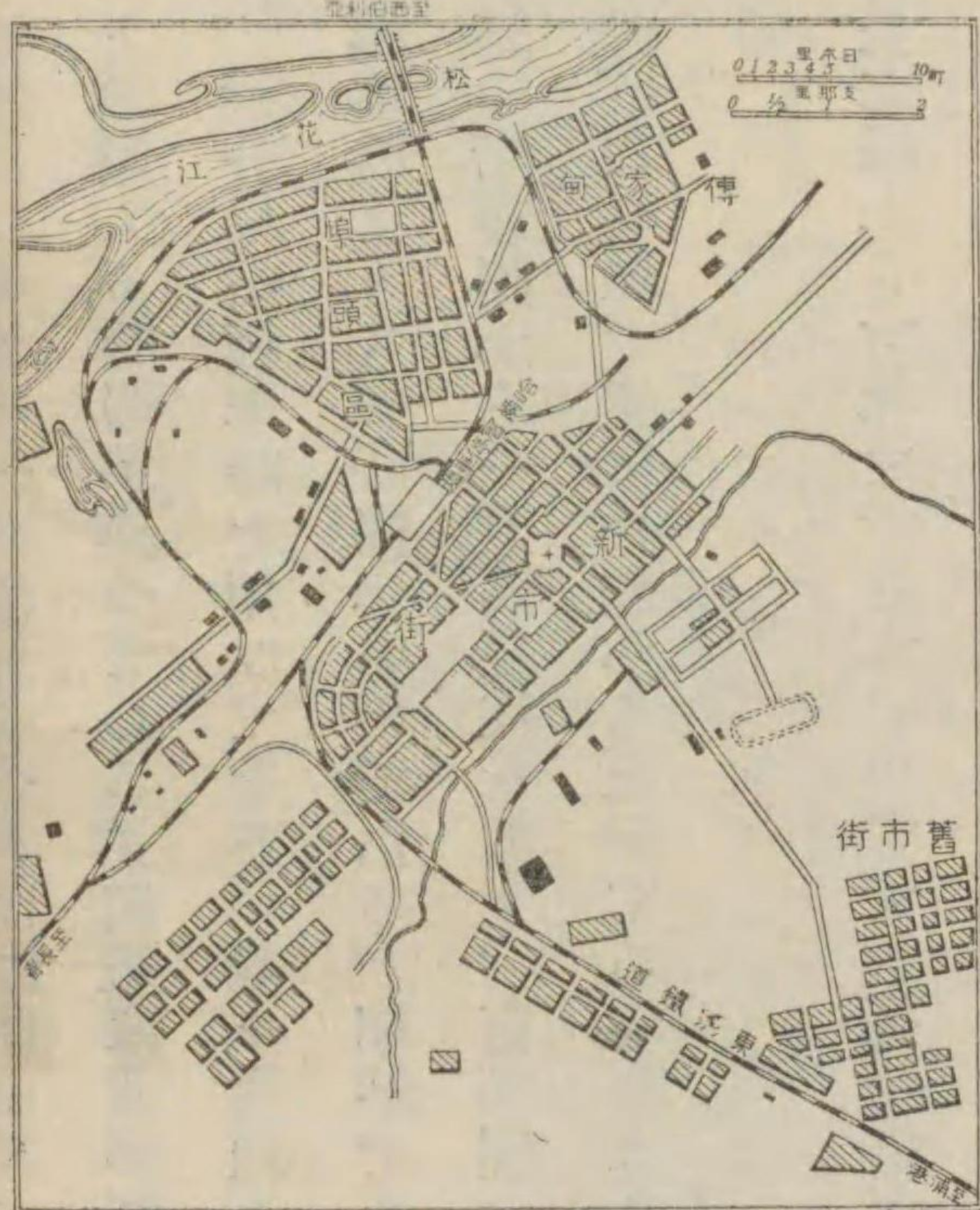
長春驛から吉林まで日本の出資で吉長鐵道が通じてゐる。これは將來東にすゝみ敦化を経て豆滿江岸に達し、對岸朝鮮の會寧に連絡する吉會線の一部で重要な鐵道である。

長春は鐵道の乗換驛といふ外に、滿洲第一の農産大豆の大集散驛である。滿鐵はその運賃を安くして遼河の水運と競争してゐるのである。

尙、附屬地内の人口は在留内地人約一萬人、支那人約二萬人である。

ハルビン(哈爾賓、濱江)

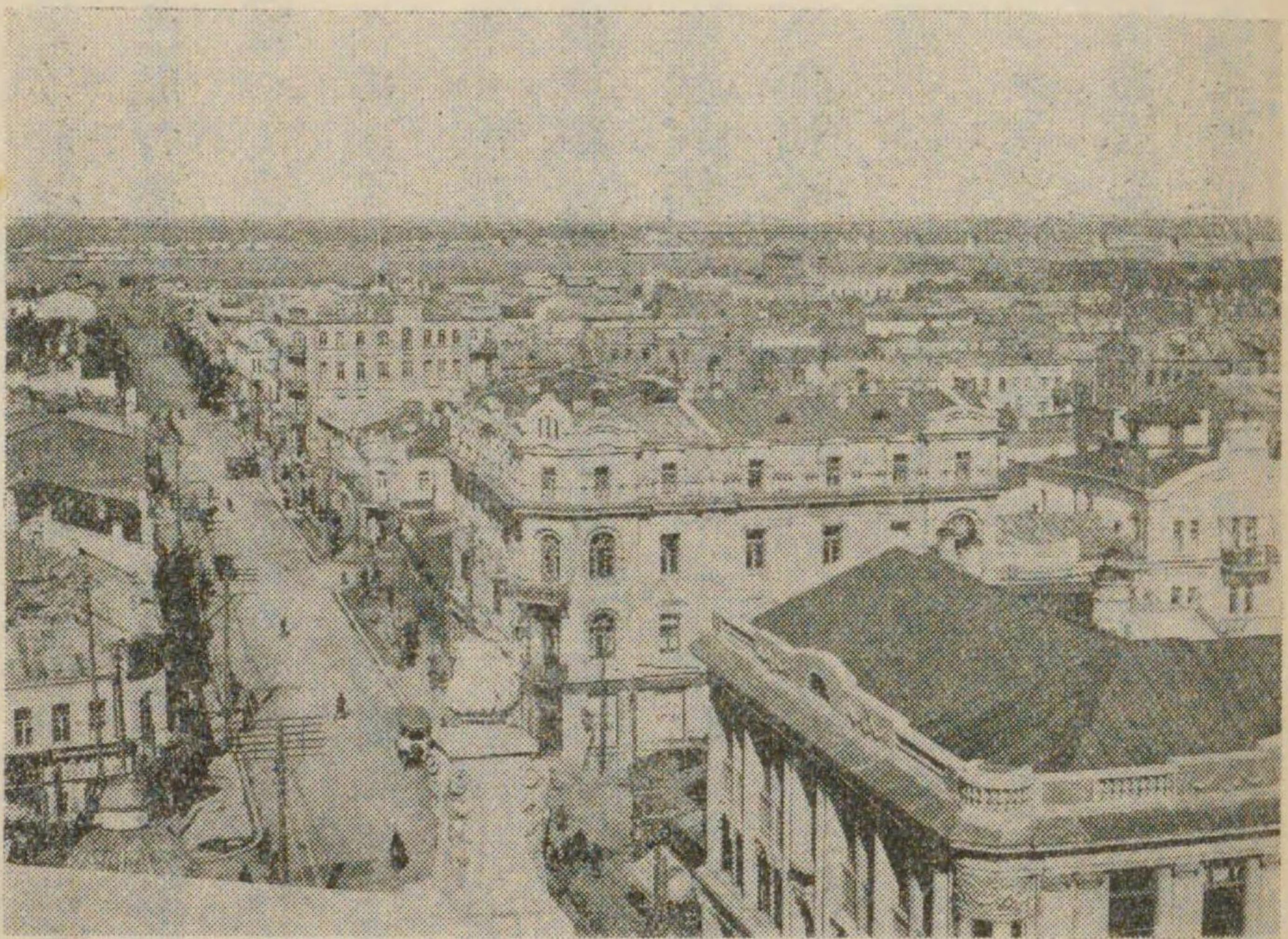
北滿洲第一の都會で松花江に臨み商工業交通の大中心である。明治二十九年



第二十七圖 ハルビン市街地圖 (縮尺十萬分之一)

ロシアが日清戦役に於ける干渉の報酬として東清鐵道の敷設権を得るや、ここをその策源地として經營した都市である。

市街は三部に分れてゐる。舊市街・新市街及埠頭區是れである。舊市街は市の東南部を占め、當



第二十八圖 哈爾賓市街

埠頭區を示す。後方に松花江と東支鐵道の鐵橋とが見える

初に設けられたが、後二者の發達に伴ひその繁榮を失ひ、今は少しの官舎や工場(製粉製油等)等があるのみである。新市街は中央停車場より東方に廣がり、附屬地の中央高地を占め、主な官衙・銀行・寺院・病院・學校等の所在地である。埠頭區は新市街の西北方を占め松花江に接する低地に在る商業區で、商店・會社・銀行等が多い。又製粉等の工場も

ある。松花江（幅約五百米）の埠頭には露支兩國の汽船（他の外國汽船はこの河には航行權がない）や戎克船の發着頻繁で、鐵道との連絡よく、奧地貿易の門戸となつて居る。此の區の南方新市街との道には東支鐵道の大工場がある。

尙埠頭區の東方、松花江畔の傅家甸は租借地外にある支那街で、哈爾濱の發達に伴つて次第に發達した處で、支那の官公署・銀行・電信局をはじめ大小の商店軒を連ね雜穀問屋・油房・製粉工場多く、人口十萬を數ふ。茲は行政的には哈爾濱とは全然別箇のものであるが、地理的には哈爾濱市の一部をなすものであるといふことが出来る。

支那本部の都市

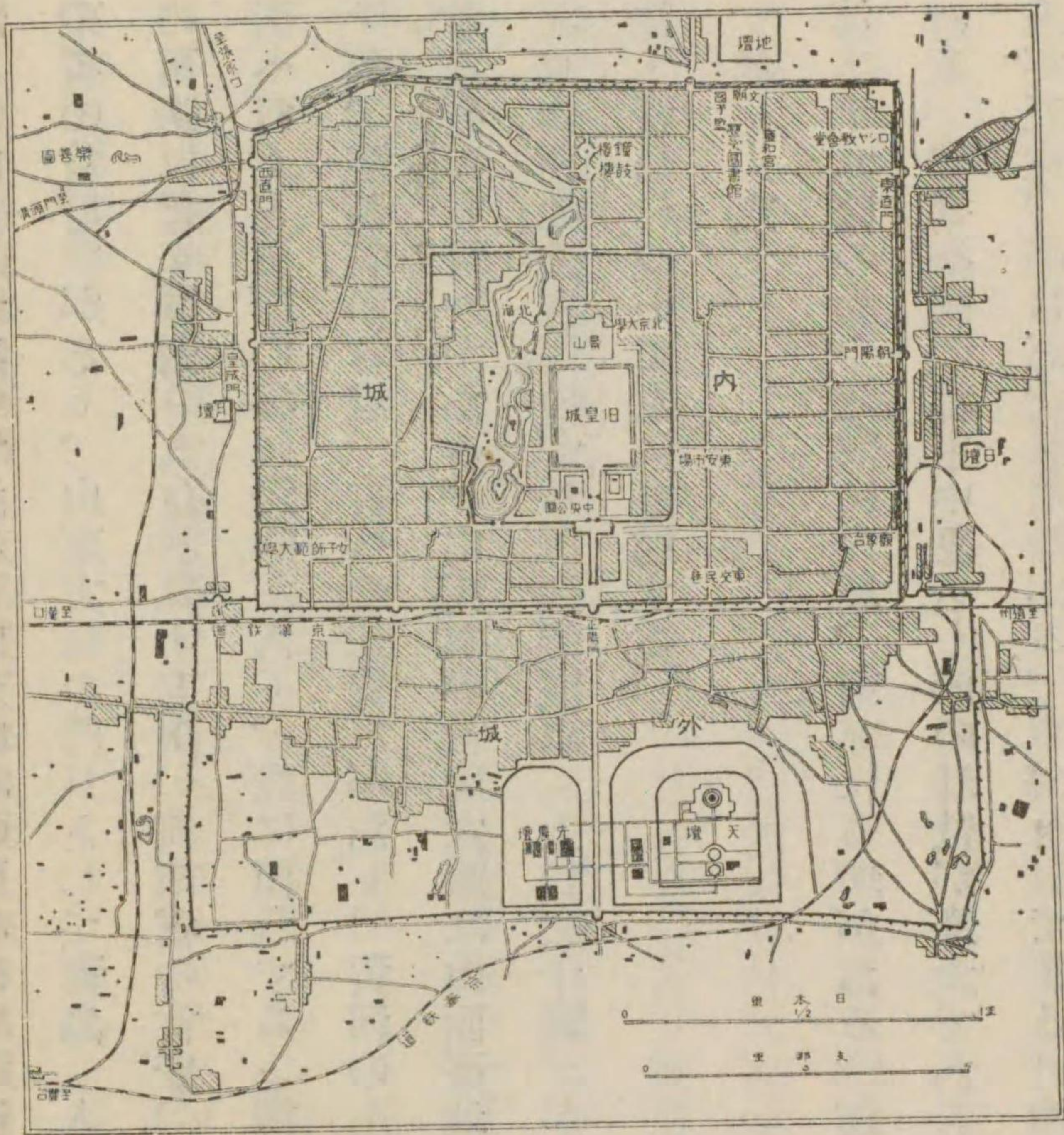
北支那の都市

北支那平野の西北隅にある北京が最大都市で（人口約百萬）、その門戸をなすは

天津（人口約八十萬）である。山東山塊の西北側黄河に近く濟南（人口約四十萬、山東省の首府）があり、山東方面の門戸として青島（人口約十萬）がある。又平野の西邊に近く開封（人口約二十五萬、河南省の首府、古への汴京）がある。更に西へ行くと黄河の谷に洛陽があり、更に西行すると渭水の谷には西安（人口約三十萬、陝西省の首府、古への長安）があり、黄河の上流新疆への通路には蘭州（甘肅省の首府）がある。山西省の首府太原は山西臺地中第一の都會である。更に北京の西北蒙古に通ずる所に張家口（人口約十萬）がある。以上の中、北京・天津・青島について左に略述する。

北京

第二十九圖の如く北部に内城、南部に外城がある。何れも大城壁を以て圍まれてゐる。支那全國の都市中恐らく此の城壁が最大であらう。厚さは下底が六丈、頂上が五丈、高さ三丈五尺餘ある。皆磚を以て作る。内城の周圍は五里餘九門を



第二十九圖 北京市街地圖
(縮尺十二萬八千分之一)

一〇二
設け、外城は約四里七門を設く。内外城の全面積は五方里丁度東京市の面積に匹敵する。内城は今より約五百年前明の永樂年間に設けたものであるが、外城の方はそれより約百年後に出

來たもので、内城の南門（正陽門）外に集り來る人民を保護するために造られたものである。

北京は現在政治上の中心となつてゐる。中央に舊皇城がある。現在は拜觀料を出すと内陣入をなし得るのである。宮殿は何れも壯大で黃瓦朱柱で大理石など惜しげもなく用ひられてゐるが、中でも殊に吾人の注意をひくのは武英殿・文華殿である。武英殿には古銅器・玉器・陶器・七寶などの貴重なる美術品を陳列し、文華殿には書畫を陳列してゐる。

皇城の西方に北海・中海・南海の三池がある。中海の所に大元帥府があり、南海にも官衙がある。北海は外人に入場を許す。その中にある瓊華島といふ人工で築いた島の上の喇嘛塔の邊からは全市はもとより附近を大觀するに適する。私が上つたのは大正十三年八月の末で、一點の雲もない靜かな、しかも暑さを少しも感じない、日本でいふと九月末のやうなよい日和であつた。次にその大觀のあらま

しを述べて見る。

先づ西から北の方にかけて遙かに蒙古と界する北支那聯脈がつゞいてゐる。この山脈を背景として、左の方、外城の廣安門外に屹立してゐるのは隋代の建造といはれる天寧寺の十三重の塔である。中央、内城の西直門と西北の角樓の右方に遙かに見えるのは玉泉山の古塔と、西太后の別宮のあつた萬壽山とである。北方、德勝門と安定門との間には鼓樓・鐘樓が眼下に屹立してゐる。この方向遠く平野の盡くるあたりは湯山温泉であらう。次第に眸を東方にめぐらすと、安定門と東北角樓・東直門との間には孔子廟（文廟）や喇嘛寺の雍和宮やロシアの教會堂や上水道の水塔などの新舊の建物が目に立つて見える。内城の東門の朝陽門は眼前の景山の左に遠く頭を出してゐる。南を見ると、眼前に舊皇城の幾多の宮殿や樓門の黄瓦が見られるし、遙に永定門の左に天壇の祈年殿が聳えてゐる。城外は一望千里の平野がつづいて蒼天に接して水平線を描いてゐる。



第三十圖 北京市街

内城の北方の鼓樓から南方を見たところである。正面の大通りは大鼓樓の街で、歩道・車道、街路樹が見える。正面の丘は景山で右端の丘の上には北海の喇嘛塔がある。舊宮城は景山の陰にある。

是等の顯著な建物を限る内外の城壁の内部には數十萬の低い瓦屋根が綠樹に包まれて小波のやうに群つてゐて、いかにも靜かな首都としての印象が得られた。

正陽門内の東方に當つて東交民巷がある。これは公使館のある所で北清事變後治外法權の特別區域になつてゐるのである。北京は又商業の一大中心であるが、工業に至つては多くは家

都 市

内工業で殆んど見るべきものがない。商業は大に發達してゐるが、其の中心區域と稱すべきは外城の部分で正陽門前附近である。市場も内外各所に在るが、内城にある東安市場は非常に雜沓する場所で、丁度大阪の千日前の如き觀がある。しかし内城は大街に沿ふところは商業區で、その他は官衙・學校・病院・住宅等の不生産區域である。

北京は又交通上の一大中心である。正陽門外に京奉線・京漢線の起點となる二停車場が相對立してゐる。西直門外の停車場は京綏線の起點となつてゐる。又八方に通ずる大道路が官道として設けられてゐるが、概して修繕が不充分である。されど自動車を通じ得るものもある。

北京は又文化の一大中心である。北京大學・女子師範大學・其の他の諸學校、清朝時代の大學である國子監、京師圖書館等があり、多くの新聞紙の發行もある。しかし出版事業は上海が支那第一である。京師圖書館には四庫全書を藏めて居る

ので有名である。

四庫全書といふのは清の乾隆帝のとき支那にある在來の主な書籍を經・史・子・集の四部に分け、凡てこれをよい紙によい紙で寫させたものを四部づつ造つて、四ヶ所に分けて保存したものである。宮中の文淵閣、北京西郊の圓明園の文源閣、奉天の文溯閣、熱河の文津閣がそれである。この四ヶ所の外に後に、江蘇省の揚州・鎮江と浙江省の杭州との三ヶ所に寫しが出來都合七ヶ所にあることになつた。その中で今まで完全に残つてゐるのは、奉天のと宮中のと熱河のとで、その中の熱河のが民國四年からこゝに置かれてある。私はさる人の案内で、この圖書館内の四庫全書を見た。一つの庫の中に經書は綠色の表紙、史書は紅色、子書は藍色、集書は灰色の表紙と分けてある。架數一百三、函數六千一百四十四、冊數三萬六千二百七十五ある。其の二三を開いて見たが、縦一尺五寸、横一尺もある大本で、その半枚の行數は八行で二十一字詰、三十枚乃至百枚位が一冊になつて、よい紙、

よい文字の美本であつた。これは支那の誇るべき世界の寶である。

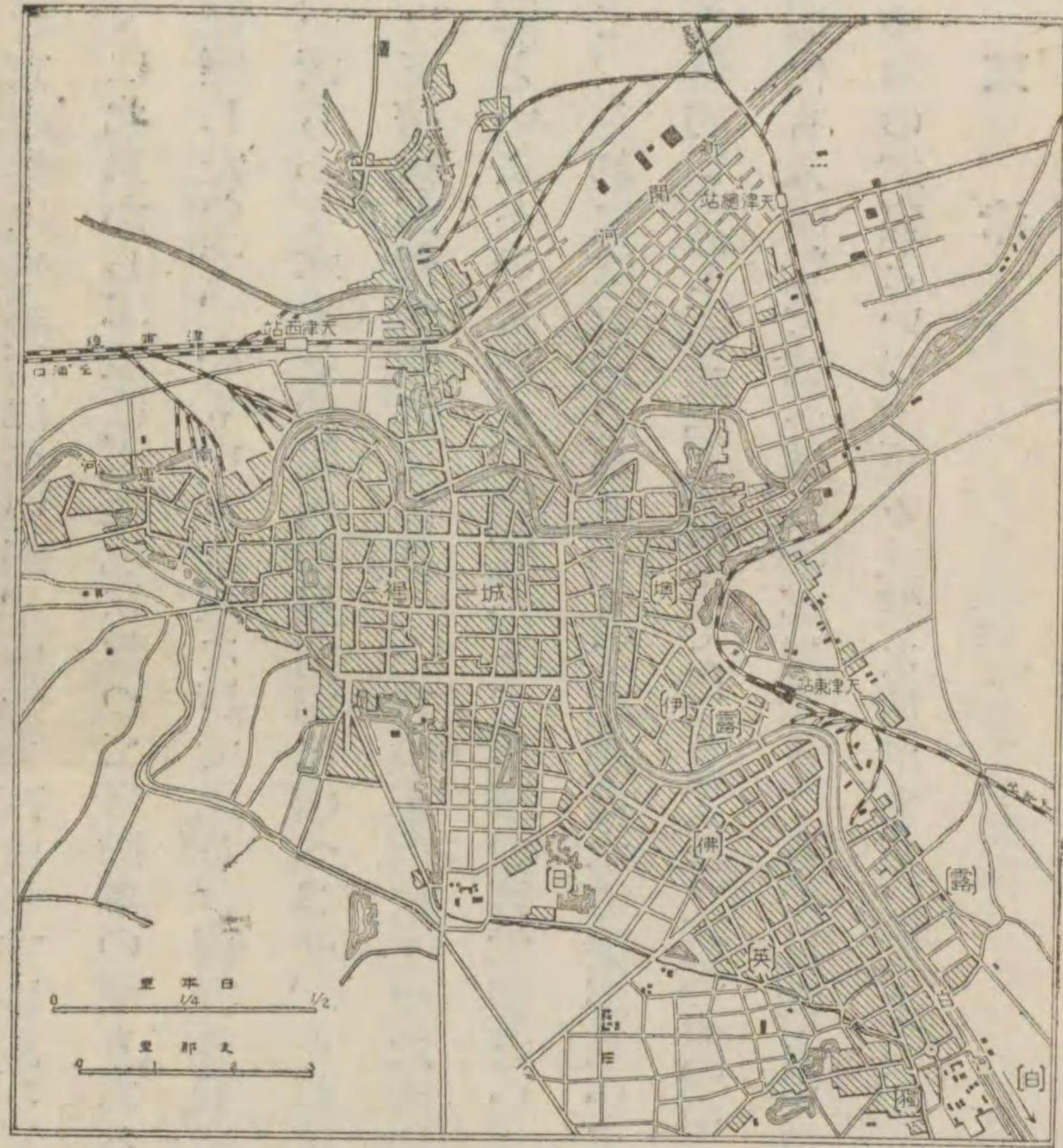
その他第二十九圖中にある名所を少し説明しよう。天壇は清帝年々こゝに行幸して天を祭つた所で、大理石の立派な階段や壇は今は草深くなつてゐるが、中々壯大なもので色々の建物も附近に残つてゐる。殊に北方の祈年殿といふ三層閣は藍色の瓦で葺いた朱柱の建物で、皇帝が毎年五穀の豊穰を祈つた所である。天壇の西方の先農壇は皇帝が年々親耕（自ら農事の作業をすること）の儀式をされたところであるが、今は城南公園といつて、大阪の樂天地のやうなものとなつてゐる。内城の中央公園は元、清の祖先（社稷）を祭つた宗廟の境内にあるが、入場料をとる爲に園内は清楚である。觀象臺は清朝の天文臺で北清事變の時、其の機械を獨逸に掠奪されたが、ベルサイユ條約によつて取戻され、現在再びこゝに保存されてゐる。内城の東北に近い雍和宮はラマ廟で、その西方の文廟は孔子を祭る所、鼓樓・鐘樓はもと時を知らすために太鼓や鐘を打つた所である。

北京城外にも名所は多いが、中でも西山の方にある萬壽山が最も有名である。

こゝは北京から二里ほど西北に當つて自動車の便もある。清朝の末に西太后が大に修築したので、今も中々立派な所である。西方の玉泉山からの玉泉の名に背かない清らかな水をその園内の昆明湖に湛へさせ、それに大理石の十七の眼鏡をもつた玉帶橋が架せられてある。一方の小山によつた方には多くの御殿があり、佛香閣といふお寺もあり、銅ばかりで出来た寶雲閣といふ堂もある。長い廊下もあつて、それには目のさめるやうな花鳥山水の畫が描いてある。大理石で造つた船即ち石舫（その上の建物は木造で白くぬつて大理石のやうに見せてある）もある。萬壽山も入場料を拂へば見物が出来る。その風景といひ、佛香閣あたりから北京その他の遠望といひ、中々立派な所である。

天津

市街は白河の河口より二十里程上流の所に在つて、西より來る大運河（杭州よ



第三十一圖 天津市街地圖 (縮尺十萬分之一)

[]は其國の租界(居留地)又は舊租界

一〇〇
り天津まで約三百里の大運河、隋の煬帝の造つたもので、萬里の長城と共に支那の二大土木工事といはれる)との會合點の南側に明代に出來た長方形の城裡を中心として發達したものであ



第三十二圖 天津の日本租界
壽街を示す。洋館と駐屯軍人とに注意せよ。是等の洋館は多くは日本人・支那人の商店である。

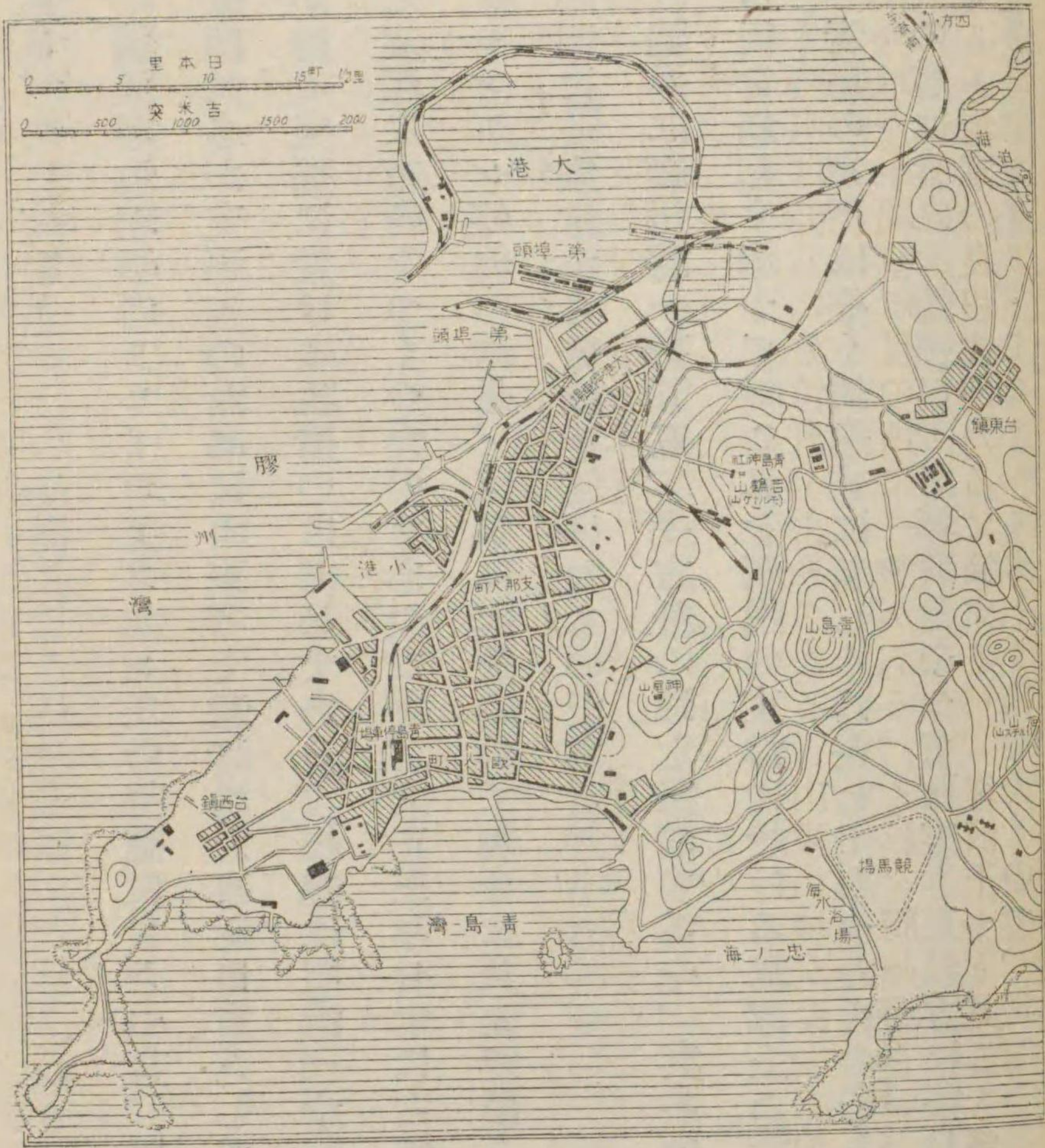
る。
西曆一八六一年英佛と支那との戰爭の結果、この港を外國に開くことになつてから、英及佛の專管租界が城裡の東南白河河畔に設けられ、その後一八九九年に獨逸、一九〇〇年北清事變後、日・澳・伊・露・白諸國の專管租界が出來た。日本租界は城裡に近く商業上有利な地點に位置する。世界戰役後獨逸・澳太利・ロシアは之を支那に還した。

貿易港としては北支那第一で支那全貿易額の約一割を取扱つてゐる。現在人口約八十萬を有してゐるが、その中外人は約一萬人、内日本人は約半數を占め、其他英米露國人が多數である。開港以來急激に發達し、今は城外にも支那市街は大に廣がつて居る。城壁は民國になつて破壊されて電車が通じてゐる。租界内は能く整頓するが、支那街は萬事不規律である。

天津は又直隸省の首府で督軍や省長が居住する。交通は水陸共に便利で、汽船は日本内地及支那の沿岸諸港に通じ、外國船では日本の汽船が最も多く出入する。鐵道には京奉線・津浦線通じ、又陸上交通の一大中心をなしてゐる。

青島

この町は非常に好位置を占めてゐる。山東山塊が泰山山塊と嶗山山塊との二つに分れた中間割れ目の所に一灣がある。これを膠州灣といふ。これは軍事上より見ると海軍の良根據地たるに適するし、經濟上より見るも鐵道の連絡によりて中



第三十三圖 青島市街地圖
(縮尺七萬五千分之一)

原の物産を青島に、青島の製品や輸入品を中原に送るの至つて好都合である。芝罘は山の向ふ側に在るから中原との交通は不便で

ある。

獨逸が地理學者リヒトホーフェン氏の調査にもとづき、明治三十年末獨逸の宣教師二名が支那人のために山東省で殺された事を口實として此の地を租借したのが抑々支那に於ける租借のはじめである。獨逸は明治三十一年より次第に經營して立派な市街をつくつたのであつたが、大正三年日本に占領された。大正十一年ワシントン條約の結果、支那に返還されて現今に及んで居る。此の港は僅か三十年間に一寒村から發達を遂げたものである。

獨逸は膠州灣一帶五五二平方呎の地を租借するや、其の中心として灣口に青島市街を新しく造つて、これを獨逸の東洋に於ける軍事上・經濟上の根據地とした。

青島の市街は全く獨逸式に新しく計畫して造つたものである。從來あつた支那人の家は皆之を焼拂ひ、移轉料をやつて西方と東北方に移した。臺西鎮と臺東鎮とがそれである。この二つも新しく造つたもので、街衢を基盤目狀にして中々衛

生的設備がよくしてある。

青島の町のあるところは膠州灣口の東を扼する半島の先端であつて、東北の方から低い岩山が迫つて來てゐる。それで市街のある所もいくらか傾斜になつてゐる。青島灣のすぐ北側のところが歐人市街で、その北につづく港の方面を支那人市街とした。そして道路や上水道、下水道の設備から、民家をはじめ官衙・學校・教會・病院・兵營等の建設、公園・競馬場・海水浴場に至るまで立派な歐風の文化都市が出來上つた。それから附近の岩山にもアカシヤ其の他この地質に適する木を植ゑ、數年にして禿山を緑の衣で包んでしまつた。

道路の如きも一等道路は巾約三十米もあつて、中央が車道、兩側が歩道、その間にはアカシヤ等の街路樹がキチンと體裁よく植ゑられ、車道の兩側には雨水溝と敷石道をつくつて、この敷石道は一輪車が通ふのに便利にした。車道を自動車や人力車で通ると少しの動搖もなく滑かに進んで行く心もちは今も忘れることが

出来ない。

それから下水道の完備してゐて氣持のよいことは支那旅行中こゝだけで味うことが出来た。私の泊つた宿は日本旅館であるが、獨逸人の建てた洋館であつた。大便所なども用をすませてタンクの綱をひくと多量の水が流れ出して、家の中には汚物を一つも留めない。これ等は皆市街の地下に埋めてある鐵管を通つて、遠くの海中に流れ去つてしまふのである。

青島の民家には赤屋根に白壁の洋館が多い。それが緑の林の中に點々として建つてゐる風景を南方の海上から見るときは丁度繪巻物をのべたやうである。

それから港は灣内の方にある。青島灣の方は外灣で海底も礫が多いので、これは殆んど利用されない。そゝに初めて獨逸の造つた三五〇米の棧橋は檢疫や軍艦のランチが繋がる位である。商船の繋がるのは灣内の大港と小港とである。

その中大港は圓形の大防波堤（長四六〇〇米高五米）で圍み、二つの大きな突堤

を其の中につくつた。この二つの中、南方のもの即ち第一埠頭（長七三〇米、幅一〇〇米）を商船用、北のもの即ち第二埠頭（長四二〇米）を海軍用とした。港内は干潮でも一〇米の深さをもつてゐるから、大抵の巨船でも碇泊は自由である。小港の方は支那船（ジャンク）のために設けたものである。

こんな風にして港としての設備を整へた外、港と内地との連絡をつけるために山東鐵道の布設權を得て鐵道を山東省の首府濟南まで（四九四軒五）布設して、津浦線と連絡させ、青島を山東省一帯の出口とした。

又鐵道沿線の兩側各三〇支那里（約一六軒）の地帯の鑛山採掘權を得て石炭をとり出した。鐵も産するが未だ獨逸時代には採掘しなかつた。それで支線も五二軒ばかり造つた。

日本が膠州灣を全く占領したのは大正三年十一月七日であつた。それから大正八年のベルサイユ條約で獨逸の一切の利權は日本の手に移つて市街地は北に延び

たが、大正十一年ワシントン會議の結果之を全部支那に返した。鐵道は支那に賣渡し、鑛山は日支合辦の魯大公司で經營することになつた。

それで今日膠州灣は支那のものであるが、もとの租借地全部は之を膠澳商埠と名づけ外國人に開放したので、自由に各國民はこゝで商業や工業をすることが出来るのである。

青島の人口は一九一〇年（ドイツ時代）には六萬人で、その中、支那人が五萬人、ドイツ人一千八百人、日本人三百人であつたものが、一九二〇年（日本時代）には九萬五千人となり、その内、支那人が矢張り大多數で七萬五千人であるが、ドイツ人は五百人に減つて、その代り日本人が二萬人に増した。現在（支那時代）の人口は不明であるが、日本人は五千人程減つたが、支那人はいくらも増した様である。

この數字から知られるやうに、支那人が主に活動してゐるのであるが、外國人では日本人が一番多くて勢力がある。これらの日本人は主に商業をやつてゐるが、中には工業をやつてゐるものもある。その工場中紡績工場が第一で、その他には生絲・落花生・油・製粉・マッチ・ビール・石鹼等の工場がある。

航路は日本内地からも、大連・上海からも日本人が經營してゐるし、貿易額も日本との取引が六割を占めてゐるのである。

獨逸人の商店などもあるが、今は其の勢力は微々たるものである。

斯くて、青島の地名や町名は三變した。例へば青島山はもとの名はドイツではピスマーク山、日本では萬年山と呼んでゐる。有名な砲臺のあつた所である。

中部支那の都市

中部支那の大都會は揚子江流域の門戸たる上海、中流湖廣平野の武漢三鎮が最大のものであつて、何れも人口約百五十萬を有する。この町のことは後に述べる。

其の他の大都會の分布を見るに、北支那に比べると其の數が多い。

上海の西に蘇州がある。約五十萬の人口を有し古昔吳の都せし地である。大運河(杭州・天津間に通ず)と蘇州河との交叉點に當る。こゝに滬寧線(滬とは上海、寧は江寧で南京のこと)通じ、繁華な市街で絹織物の中心になつてゐる。この市外にある寒山寺は昔より有名で、上海より日歸り出来る位であるから我が日本人の訪客は中々多い。蘇州の西には無錫がある。人口約二十萬、大運河と滬寧線との會する所にあつて。製絲工場が多い。其の西北の鎮江は揚子江と大運河との交叉點にあつて人口約十萬を有する開港場である。更にその西方の南京は人口約三十九萬の大都會であるが、この町については後に述べる。

更に西に行くと安徽省の蕪湖は開港場で人口約十三萬。更に其の西南方の安慶は江に臨み人口約四十萬、安徽省の首府である。

次に江西省の九江は江に臨む開港場で人口五萬位である。贛江の谷の出口には省城南昌(人口約三十萬)があつて九江との間に南潯鐵道(日本の出資)で連絡する。湖廣平野には武漢三鎮以外に、揚子江本流に臨む開港場には沙市(人口約十三萬)宜昌(人口約四萬)がある。湖南省の湘江の谷には省城長沙(人口約五十四萬)があつて粵漢鐵道通じ、更に遡れば湘潭の開港場がある、人口約三十萬。沅江の谷の出口に常德(人口約二十五萬)がある。

三峽の嶮を越えて四川盆地に入ると、江に臨む開港場に重慶(人口約四十九萬)がある。首府成都是岷江中流の沖積平野を占め人口約四十萬を算する。

揚子江流域の河口を去つて、浙江省に入ると首府杭州は人口約八十九萬の都會で錢塘江に臨む。その西方に風景の美しい西湖がある。上海から鐵道の便があるため日本人なども多く行くのである。その東方甬江に臨み開港場寧波(人口約六十萬)がある。寧波(甬)より杭州・上海に鐵道が通ずる。これを滬・杭・甬線といふ。但し寧波・杭州間の錢塘江の鐵橋は未だ出來てゐない。

以上の都會中最も有名な上海・南京・武漢三鎮について次に述べる。

上海

上海は揚子江口にあるのではなく、江口の開港場吳淞から五里ばかり揚子江の支流黄浦江を溯つた所で西から蘇州河が注いでゐる處にある。西曆一千八百四十二年南京條約に依り支那は沿岸に五港を開くことになり、上海も其の中に入った。之れが今日の隆盛を見るに至つた初めである。人口は約百五十萬であるが、外國人は僅かに三萬人、其の中日本人が約半數を占め、英人七千、米人三千其の他は三十餘箇國の人民で、上海は實に世界各國民の集合地で人種展覽會場のやうな所である。僅か八十年間に支那第一の大都會となり、支那第一の貿易港となり（支那の貿易の約四割を扱ふ）且支那第一の工業市となつたのである。これは揚子江といふ支那第一の豊富な地域を背景として居るから發達したものである。なぜ上海が揚子江口から離れたこんな處に出來たかといふと、開港當時江口附近で上海



第三十四圖 上海市街地圖
(縮尺四萬五千分之一)

縣城が最も繁華な所であつたため、こゝに開港場が定められたからである。

市街は數區に分れて居る。城内といふのは縣城の部分で近頃まで周圍に城壁を繞らしてゐた。この城壁は明代（西紀一五五三年）に倭寇を防ぐ爲につくられた

ものであるが、民國となつてから破壊してしまつて電車道にしてゐる。南市と其の北につゞく十六舗とは支那形船や小汽船の船着き場所で、倉庫や運送問屋が多く存在する。ここより滬杭甬線が發してゐる。浦東には工場や危険物の倉庫などがある。閘北は滬寧線の停車場(北站)があつて驛前は商店もあるが、土地高燥で住宅も多い。日本人も大分この方面に居る。

共同租界は外國人の居留地でもとの英米の居留地を合併して、列國共同の租界としたもので、バンド(江岸の意)附近は元英國の租界で最も繁華な所である。又虹口附近は元の米租界で日本人は多くこゝに居るし、日本總領事館もこゝにある。大汽船はバンドと虹口の岸につくのである。東端の楊樹浦と西北端には工場が多い。日本人經營の紡績工場などもある。

共同租界は一種の國際共和國ともいふべき所で列國共同で政治をやつて居るのである。立法權は納稅者會議(公民會)がもつて居る。この會議は立法の外、租界の豫算・決算を定める。公民といふものは租界内の支那人以外の一定額以上の納稅者である。年一回、一・二月の頃通常會を開いて主に豫算・決算を議決するだけで、臨時會を開いて居留民に守らせる法規をきめる様なことは實際ごく稀である。大抵のことは工部局できめてやつてゆく。

工部局(Municipal Council)といふのは租界の規則に基いて交通・衛生・警察等いろいろの行政をする所である。參事會を組織する理事は現在はいギリス人六名・アメリカ人二名・日本人一名の九名であるが、定員は五名以上九名となつてゐる。公民がその選舉權をもつてゐて年々一・二月の頃に選舉をするのである。理事の任期は一年。理事(Secretary)の中の一名は互選で理事長(Chairman)となる。工部局は毎週一回通常會議を開く。理事は名譽職で無報酬である。工部局の仕事は豫算・決算の編成、吏員の任免、租界規則の附則の制定(これは公民會及び領事團・公使團の承認を要する)、家屋の構造・溝渠の設置方法等に關する規

則の制定等のことをやるのである。工部局の任命する吏員によつて共同租界の仕事が種々行はれて居るが、今その主なものを述べて見よう。

共同租界内の警察権は工部局がもつて居るもので、犯罪の豫防から交通の取締、衛生上の注意等は能く行届いたもので、租界外の支那町とはとても比べものにはならない。警官の数は約二千三百人、丁度二千七百餘坪に一人、人口二百七十人に一人の警官(巡捕)が割あてられてゐる。警察は支那人が七割、インド人が二割、西洋人が一割位で、日本人はたつた四十名位である。中にも赤黒い顔のヒゲの濃い堂々たる體格に洋装して、頭に色布をまくインド巡査が、道路の交叉點に立つて小さい棒を片手に交通を整理してゐる有様は誠に印象深いものである。勿論警察の主腦はイギリス人である。

それから道路も工部局の管理になつてゐる。その立派なことは歐米の大都市に劣らない。道路の總延長凡そ百六十キロメートル、之を四等に分け、一等道路は



第三十五圖 上海のバンド

右方の廣大な建物は會社銀行等である。電車自動車人力車の往來繁き道路を隔てて並木の左方はすぐ黃浦江岸の埠頭である。

木煉瓦をしきつめてゐる。二等道路はアスファルト路で、碎石とアスファルトとを
まぜ、スチームローラーで押し固めたものである。三等道路は地下二尺の所に一
面に割石をしき、其の上に小砂利をしき、更にその上に粘土と砂を置いてスチ
ームローラーで押し固め乾いてから其の上にアスファルトをぬり、更に其の上に干
いた砂や石粉がしいてある。四等道路は大小の石をしいたものである。勿論車道
と歩道とに分け、出来るだけ竝樹が兩側に植ゑてあるし、掃除も行届いてゐるか
ら誠に奇麗である。ことに蘇州河が黄浦江に出合ふところから南方の河岸（バン
ド Bund）の光景は、一方は江に臨んで舟つき場になつて居り、一方には高い大
きい銀行、會社等の洋館が立ち竝んで居つて、その間の立派な道路には電車・人力
車・自動車・荷車等の往來しげき光景は歐米の都市と變りがない（第三十五圖）。

電車は今イギリスの會社がやつて居るが一九〇八年三月の營業開始後二十五
年たてば工部局の手に移す筈で、今も工部局から一切の保護をうけて居る。その

外フランス租界にはフランスの電車會社があるし、縣城の方には支那人經營の電車がある。

それから工部局のやつてゐることとで大切なのは電燈・電力の供給と水道とである。水道は黃浦江の水を滿潮に汲みあげ沈澱瀘過して供給するのである。フランス租界や支那街では別に會社があつて此の兩者で供給してゐる。但しガスや電話は會社がやつて居る。

その外、工部局のやつて居ることは公園や學校の經營、消防隊の組織、義勇隊への補助等である。義勇隊のはじめて起つたのは一八五四年四月長髮賊の亂のときに在留外人の間に組織されたのが始めである。その後時々おこる事變に際して非常に役立つて居るので、今も工部局から經費を出して存續させてゐる。兵數は豫備員を加へて約千人。日本人も明治三十三年から之を組織して上海義勇隊に加はつて居る。今は居留民團の事業になつて百人餘居る。

學校の經營は外人教育のために四校、支那人教育のために四校を經營してゐるが、何れも初等・中等の教育をやる程度のものに過ぎぬ。工部局經營以外の學校では日本人の居留民團經營の小學校と高等女學校は中々堂々たるものである。又東亞同文會經營の市の西南郊外にある東亞同文書院の如きは専門學校程度で對支事業に従事する幾多の人才を出してゐるものである。この學校内に於ける支那研究は中々盛である。外人經營の學校には外人のための小學校・中等學校や宣教師養成のものもあるが、その外、支那人のためにアメリカ人經營の聖約翰大學・滬江大學（又は浸會大學校）フランス人經營の震旦大學校があつて何れも宗教團體から資金が出てゐる。その外宗教に關係のない、アメリカのハーバート大學の有力者の設立した哈佛醫學校があり、その他中學校程度のものが多數ある。支那人經營のものに、同濟德文醫工學堂（これはもとドイツ人の建てたものであるが、ベルサイユ條約によつて支那が得たもので吳淞に移した）、海軍兵學校とその附屬

師範專門學校・水産學校・商船學校(何れも吳淞にある)・復旦大學・交通部上海工業專門學校(元の南洋大學)・中華工業專門學校・神州大學・南洋鐵路礦學校・師範學校・美術學校・體操學校・女醫學校等から小學校の類まで澤山にあるし、外人經營の圖書館・博物院(館)等もあつて中部支那文化の一大中心となつてゐる。

次に共同租界の司法權はどこにあるかといふと、それは會審衙門と領事裁判所とにある。會審衙門といふのは支那側の會審官と上海の各國領事館から派遣した會審官と共同して裁判をするので英語の Mixed Court である。これは佛租界の方にもある。併し民國となつたときの革命さわぎに支那の會審官が逃げたので、其の後は支那側の會審官の任免權も領事團の手に移つた。之がために支那側では舊制度回復をやかましく問題にしてゐる。

さきに一寸云ひ残したが、工部局の理事の選舉權被選舉權が支那人にない、然るに租界の税の半分を租界在留の支那人が負擔して居るために、市政に加はる權

利を支那人は大に要求して來たので、一九一九年から支那人の諮問機關を工部局に附設することにしたのである。もつと進んで租界廢止を支那人は望んで居るし、列國も大正十一年のワシントン會議で原則として之を認め、その調査會を組織することになつてゐるが、これはしかし今すぐ撤廢といふことには列國は承認すまい。支那の政治組織が充分に出來て、法制が完備した上のことであるから、まだよほど遠い將來のことであらう。丁度日本が踏んだ歴史の様に。會審衙門では支那人を被告とする租界内の刑事民事を裁判し、領事裁判所の方は外人を被告とした事件を裁判するのである。上海には目下十五ヶ國の總領事や領事がゐる。そして租界の重要問題については領事會議を開いて處理して行く。工部局も領事團の監督の下に仕事をしてゐるのである。しかし領事團も租界の政務について最後の決定權があるわけではなくて、北京の各國大公使から成る外交團が其の上にあつて監督權を行ふ。北京外交團で決定の出來ぬことは各本國政府に指揮をあふぐの

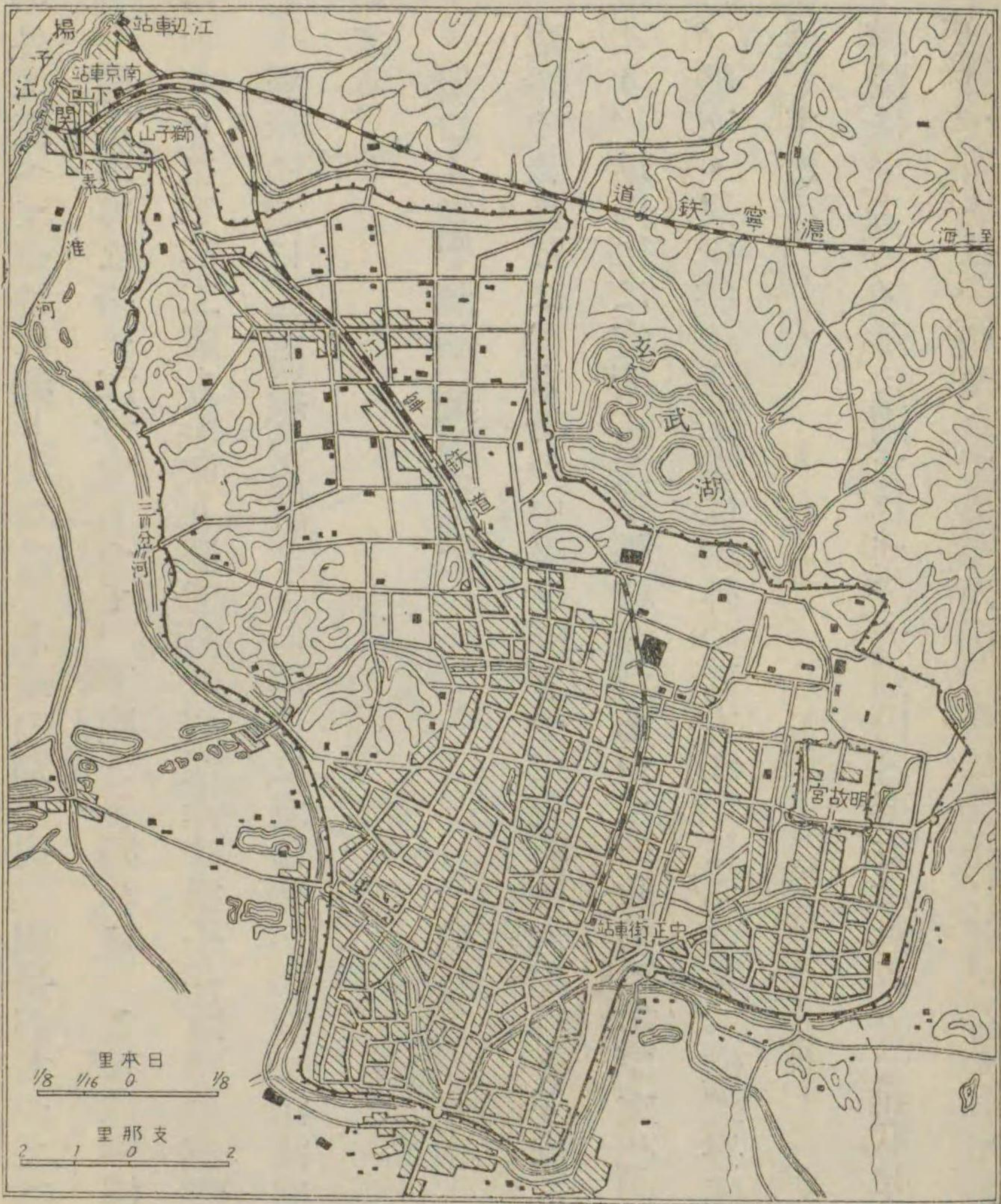
である。

フランス租界はフランスの專管に屬し、共同租界と城内との間の地を占め、東部は商業地であるが、西部は主に住宅地になつてゐるのである。

南京

支那山系の北の一派が揚子江邊に迫る所にあつて、古生層から成る丘陵性の小山が散在してゐる。城壁はこれらの小山をかこみ或は小山に據り或は小山に面して不規則に巡らされてゐて、中々の天險で地の利を得て居る。

現在の城壁は明の時代に成つたのである。南京は中部支那の諸都市中最も古蹟に富んだ所である。楚の金陵邑、秦の秣稜、吳の都として建業、東晋及南朝の都として健康と呼ばれた。明の太祖こゝに都して應天府と稱したが、成祖が燕京に都をうつすに及んで、燕京を北京、こゝを南京とよんだ。清代には江寧府、今は江寧縣とよばれてゐる。



第三十六圖 南京市街地圖 (縮尺六萬分之一)

市街の
 繁華な部
 分は南方
 にありそ
 の東の部
 分には明
 の故宮の
 址が残つ
 てゐる。
 北部は主
 要道路に
 沿ふ部分

都市

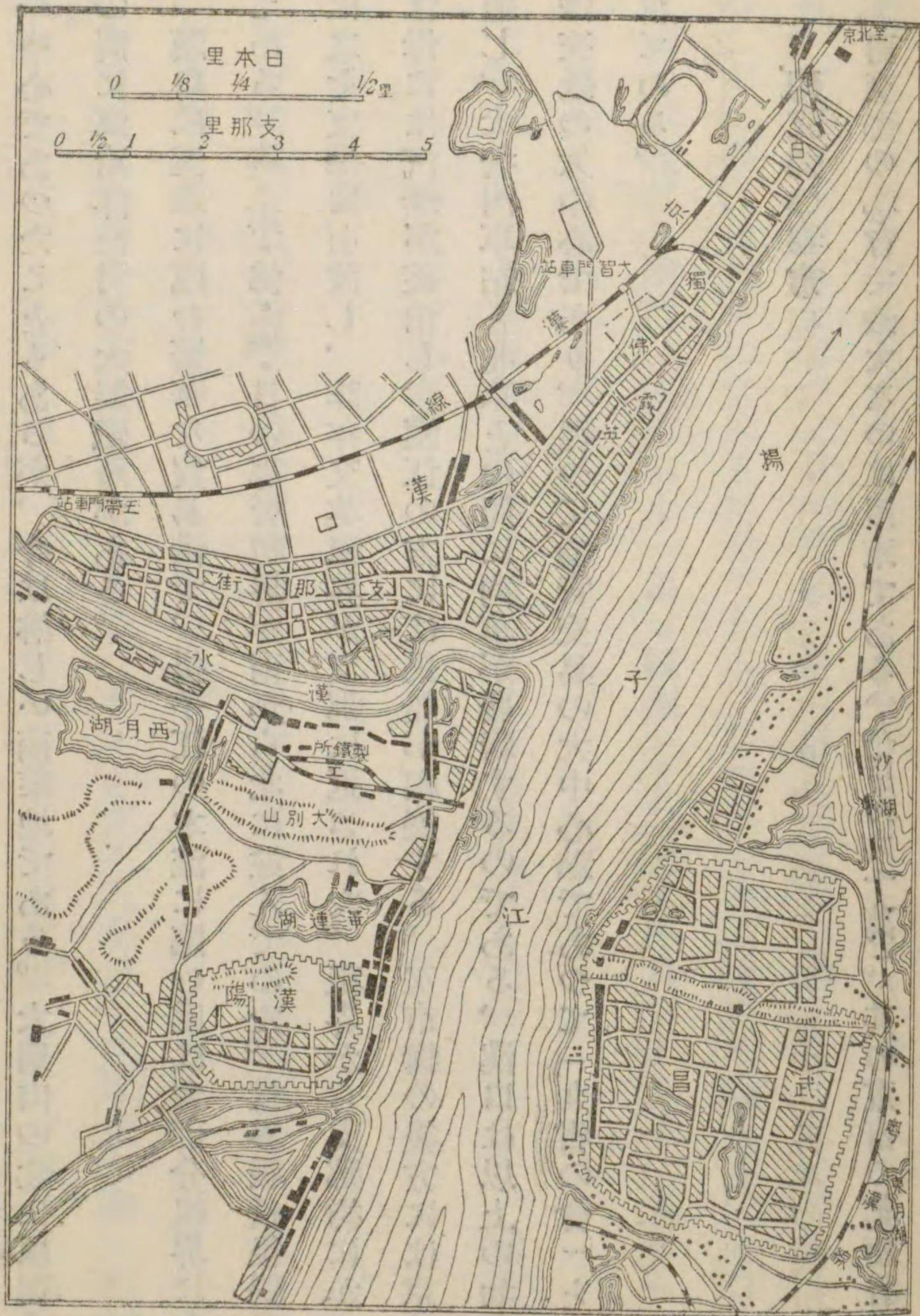
一三三

の外は衰へて畑地に變じてゐる。北端の獅子山（砲臺があつて有名である）の西方、儀鳳門外は揚子江岸であつて、^{シヤカン}下關とよばれる。こゝは開埠地で水陸交通上の中心をなし商工業もかなり盛である。江岸は揚子江通ひの汽船の碇泊所であるし、對岸の浦口（津浦線の起點）との間には連絡船があつて津浦線と滬寧線とを連絡する。

漢口・武昌・漢陽（武漢三鎮）

東岸の武昌には、市街の中央を横ぎつて東西に古生層より成る蛇山といふ小丘列なり、城内には官衙・兵營・學校等があつて、政治・軍事・文化の中心となつてゐる。織布・製紙等の大工場は城外の西方江岸にあるし、鐵道粵漢線は城外の東方に通じてゐる。

漢陽は小さい城壁に圍まれて、大別山の南方にある。大別山は武昌の蛇山と同じ地質でもとは一つゞきであつたが、今は揚子江流で分たれてゐる。元政治上の



第三十七圖 武漢三鎮地圖（縮尺八萬分之一）

一中心であつたこともあるが、今は淋しい商業地である。大別山の北には漢水との間に漢冶萍公司の大製鐵所がある。

漢口は漢水に臨む繁華な貿易港で、揚子江の本流に臨む處は大部分租界になつてゐる。英・露・佛・獨・日の專管租界が南から北に竝んでゐた。世界戦役後獨・露は之を支那に引渡し、昨年又英租界が支那に返された。租界から支那街にかけて江岸には汽船が碇泊し、漢江の方には民船が輻湊する。又市街の後方には京漢線通じ、大智門車站と北京との間に列車が發着するのである、漢口は以上の如く水陸交通の大中心であり、従つて物資交易の大中心點であつて「九省の會」といはれてゐる。

南支那の都市

南支那の都會で最大なのは廣東である(人口約九十萬)。其の東南の英領香港に

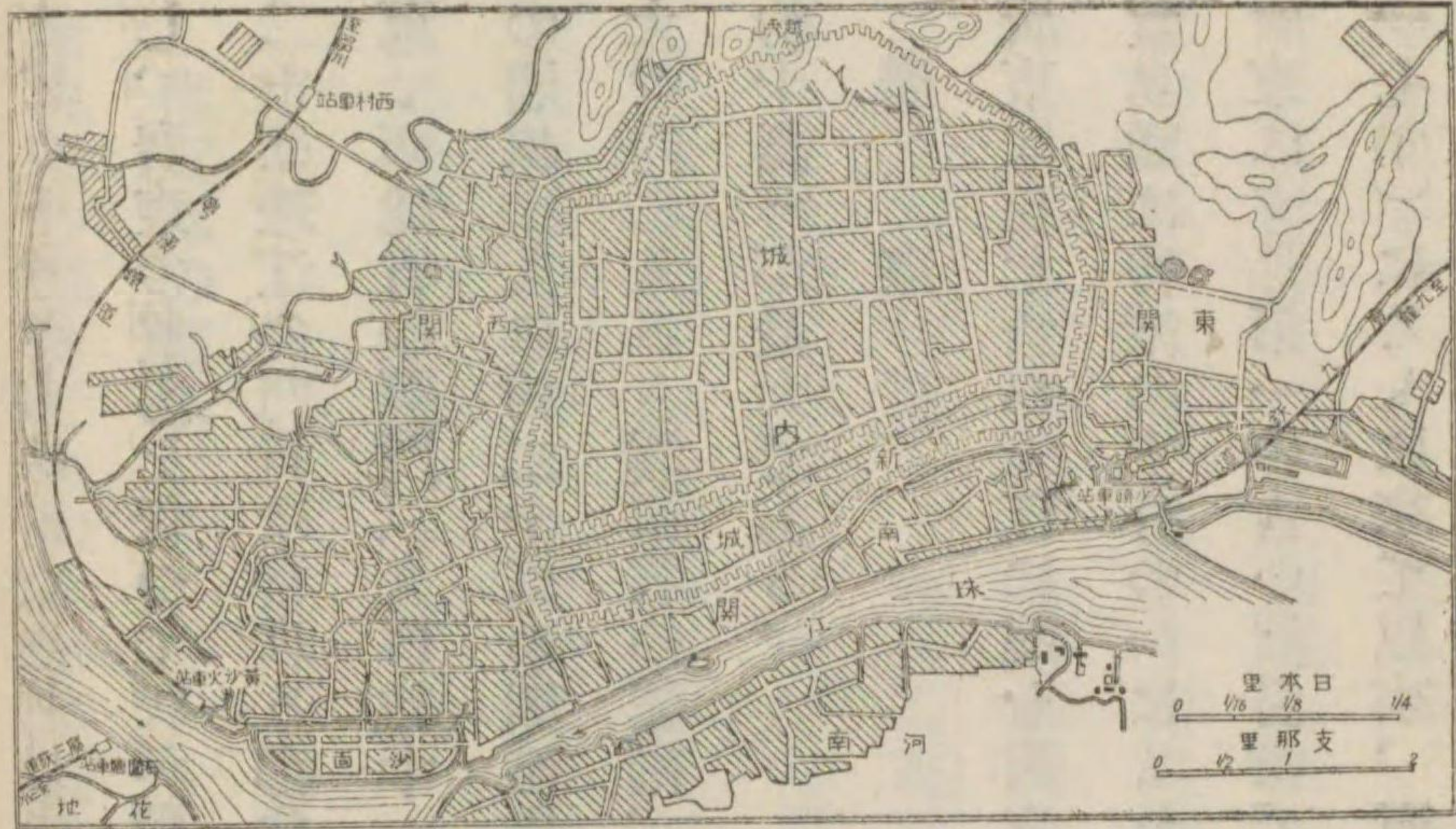
あるピクトリヤ市は南京條約以後八十餘年間に發達したもので、人口三十五萬を有し、廣東の貿易を奪つて我が横濱・神戸以上の大貿易港となつたのである。此の二市は珠江の門戸に當れる都會である。その東方の開港場汕頭・潮州(人口約十五萬)・福建省の廈門(人口約十一萬)・福州(人口約六十萬)がある。更にその東北の温州は人口約二十萬の開港場である。

大陸内に入ると雲南省の雲南、廣西省の桂林は何れも省城であるが、雲南(人口約十萬)が最大である。

廣東

廣東は丘を負ひ珠江に臨む南支那第一の大都會で又大貿易港である。しかしその貿易額は香港の十分の一にも及ばない。

廣東は支那第一の古い貿易港である。ポルトガル人が第十六世紀の初(西紀一五一七年)にこゝに來て以來、南支那沿岸各地で貿易を營んだが、後には澳門に



第三十八圖 廣東市街地圖
(縮尺七萬五千分之一)

追はれた。その後第十七世紀には主にオランダ人、第十八世紀にはイギリス人が貿易をしたが、澳門と廣東のみで貿易を許されたのみであつた。然るに阿片戦争(一八三九—四二年)後は支那は開國を餘儀なくされ、香港を割き五港(廣東・厦門・福州・寧波・上海)を開くこととなつたのである。

廣東の人口は九十萬といはれるが、外國人は僅かに千六百人、日本人は二百五十人位居住するに過ぎない。南支那方面と臺灣とは經濟上の關係が稍、

深いが、日本の内地との關係は割合に少ない。

城内はもと内外の城壁に圍まれて居つた。城は周代からあつたといふが、現在のものは明の初に出來たものである。民國となつて城壁は毀たれその跡は車道になつてゐる。城内は官衙・學校等があつて政治文化地域といふべきである。

東關は病院・造幣局等もあるが、主として住宅地域で、其の南部より廣九線が出て香港の對岸九龍に通じて居る。

南關は上海のバンドに當る所で繁華な支那街が廣路を隔て、船着場の河岸と相對してゐる。

西關は商業繁盛で其の西南端より粵漢線が出て居る。

沙面は英(西方の約五分の四の土地)佛(東方の約五分の一の土地)二國の租界である。一八六一年英佛が埋立ててつくつたところで、この區域内には外國人のみが居住し、支那人は使用人の外は住はせない。榕樹の内に領事館や銀行・郵便

局・商館・教會堂・ホテル等が建てられて、支那街の雑踏不整頓と正に反對の對照をなしてゐる。廣東市街との間には水路を以て隔てられて僅かに一橋を通ずる。この橋には門があつて夜は之を鎖して交通を遮斷する。

尙河南には工場や倉庫があり、花地からは廣三線が出て西方の開港場三水に通じてゐる。

産 業

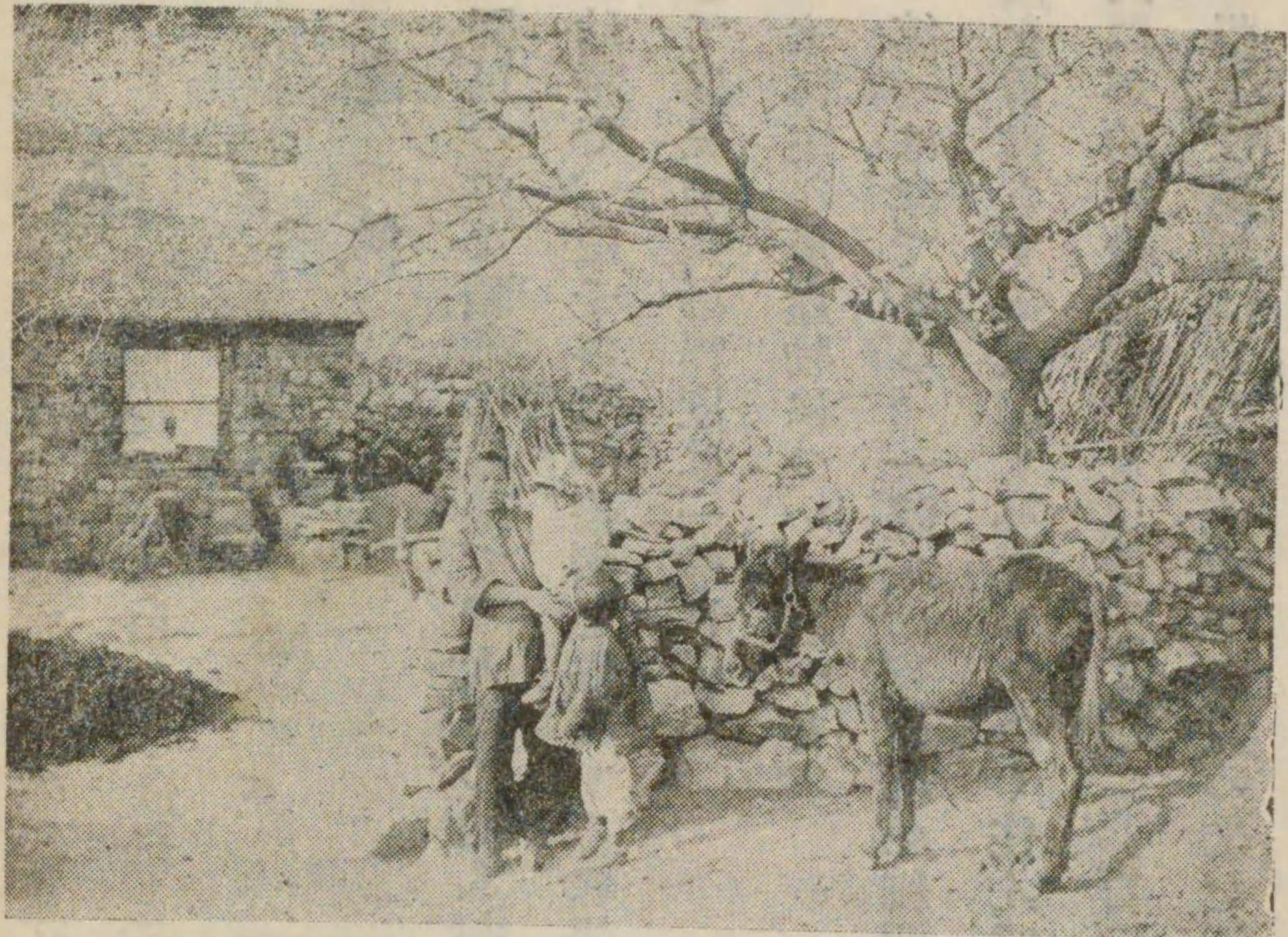
農 業

國民の主な職業は農業で、人口の約八割が之に従事する。併しながら其の方法は幼稚で、數千年來の舊習を墨守するに過ぎないので、その規模は小である。そして農民の生活程度は一般に低い。

次に主な農産物について述べる。

第一は米である。一體米は東南部亞細亞の季節風帶が世界の主産地であつて、米を常食とする人間も亦こゝに多く住んでゐる。世界の人類中、米を常食とする人間が約半分で、麥を常食とする人間が又他の約半分を占めるのである。

揚子江流域は米の主産地で多量の米を産するが、近年は滿洲にも米が作られる



第三十九圖 農 家

關東州内の一農家を示す。石造の家と石垣。満開の杏花の下には婦人と子供と騾とが居る。平和な光景。

やうになつた。これは大陸的な夏季の高温氣候の利用である。米は支那では輸出を禁じてゐる。これ米の産額が支那人全部を養ふには不足を生ずるからである。年々數十萬石を印度支那の方面から供給せられつゝある現状である。其他の穀類も豆類以外は輸出を禁ぜられてゐる。即ち防穀令なるものがあるのである。

茶も亦東南部アジヤの季節風帶の特産物で、支那は世界に於ける大産出國の一である。茶は支那國民の愛用する飲料となり、又主な輸出品となる。やはり揚子江流域が主産地である。緑茶と紅茶の二種を出す。緑茶は七割、紅茶は三割の率である。世界大戰役前までは磚茶も多く製造してロシアに出したが今は衰へた。緑茶は主に米國、紅茶は歐洲へ輸出される。

支那では到る處に茶館がある。汽車中でも一二等車では各々席にとりつけた机の上で乗客は茶を飲みつゝ四方の風景を賞したり、或は快談に耽るといふ風な實に悠々たる有様が見受けられる。

綿もアメリカ合衆國・印度について支那は世界第三の大産出國である。これは揚子江流域と北支那平原とが主産地である。揚子江流域では在來種を植ゑるが、北支那ではアメリカ種の栽培が多くなつた。これも主な輸出品であるが、この原料を用ひて北支那・中部支那の各地に紡織業が勃興してゐるのである。

北支那から滿洲にかけては氣候の關係上雜穀類例へば高粱・粟・豆類・麥等が多い。高粱は穀粒は食用とし又家畜の飼料となり、酒の原料となる。豆類殊に大豆はその製品の豆粕・豆油と共に滿洲の三大輸出品である。

養蠶は農家の副業として盛である。元來養蠶は支那が本家で、我が國は上古に之を傳へたものである。現在は日支共に大養蠶國に數へられるが、生糸の輸出額は近年我が國が世界第一である。以上は家蠶であるが、其の他柞蠶は南滿洲の蓋平附近や、山東半島に盛んである。従つて支那は古來絹織物が立派な工藝品となつて居るのである。

牧畜は蒙古族の本業として居ることは前に述べたが、漢族の間には農家の副業になつてゐる。豚・馬・牛・羊・驢・騾・駱駝・雞・家鴨などを多く飼養する。日本へは雞卵を生卵のまま輸入するけれども、歐洲へは蛋白・蛋黄といふ乾燥粉として輸出する。

一體支那の馬は至つて柔順で、猛獸のやうな日本の馬とはとても比較にならない。夫れ故に乘馬に經驗のないものでも容易に乗ることが出来る。私も支那旅行中に時々試みたが誠に便利で愉快であつた。動物も矢張り大陸といふ環境の影響を受けて居るのであらう。

かく牧畜が盛んであるのに、水産物が少いから、支那料理には鳥獸の肉類を盛んに用ふるのである。雞の丸煮を二三十錢で賣るのを北支那の邊鄙な停車場で見たことも度々であつた。

林業

到る所の森林は濫伐されてゐる。一體森林は人口密な地方では造林を必要とするが、支那の如き財産權の不安定な國では、只伐採するのみで造林をやらなから、林業は發達しない。唯、西南部の人口少い山地（そこから年々來る長江の大筏については前に述べた）や、黒龍江省北部や長白山脈中には立派な森林がある。

随つて木材の不足な北支那では主に土を材料として家を造り、中部支那では藁やアンペラを主材料として家を作つてゐる處も少くない。(第十七・十八圖)

水産業

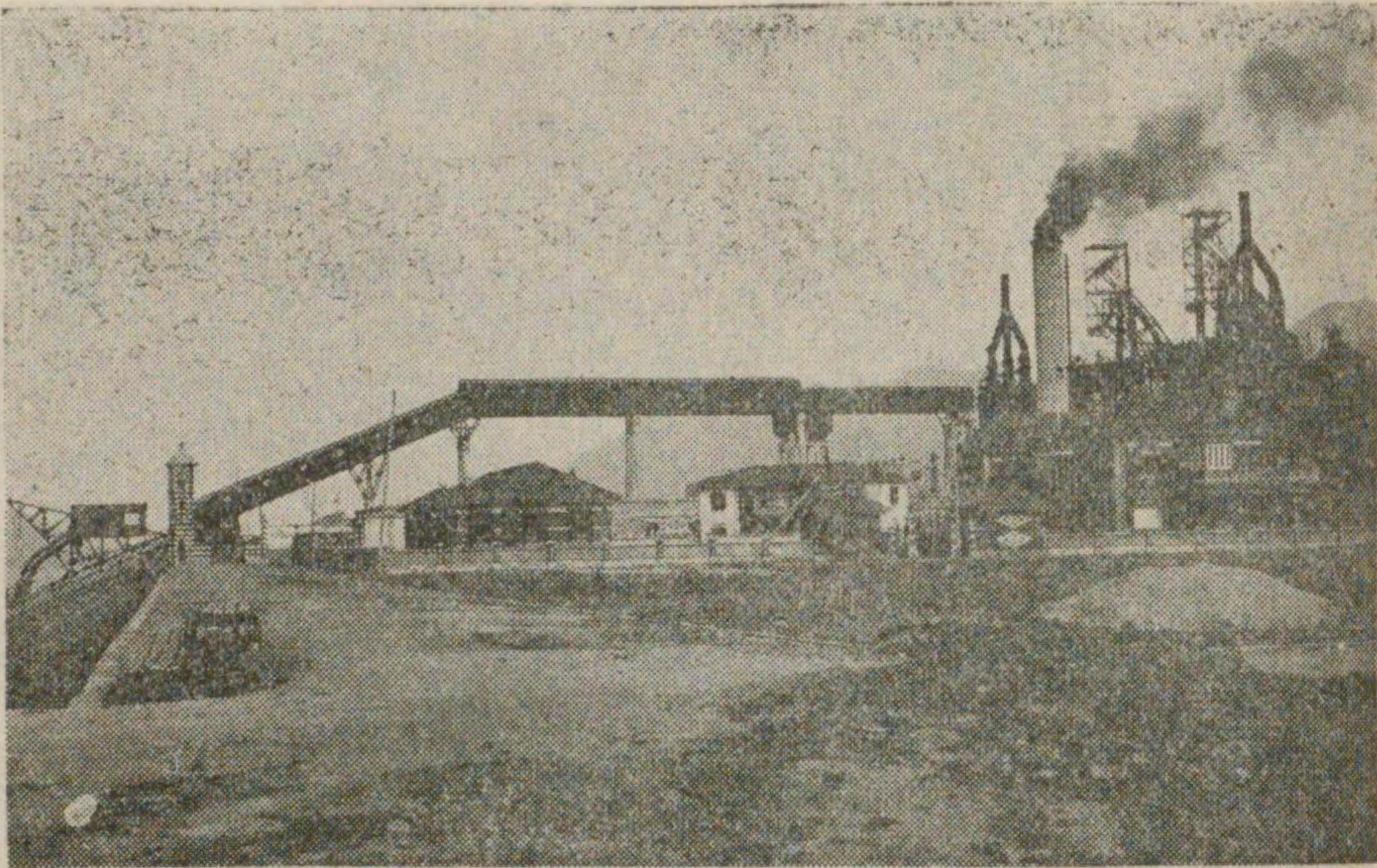
支那では至つて河海の物産に恵まれてゐない。随つて日本等より多額の海産物の輸入を仰ぐのである。

鑛業

鑛物は多く埋藏してゐるが、生産額は未だ少い。

鐵を採掘する主な鑛山は大冶(湖北省)・繁昌(安徽省にあつて桃冲・龍山を含む)・金嶺鎮(山東省)・鞍山(奉天省)・本溪湖(奉天省)等である。

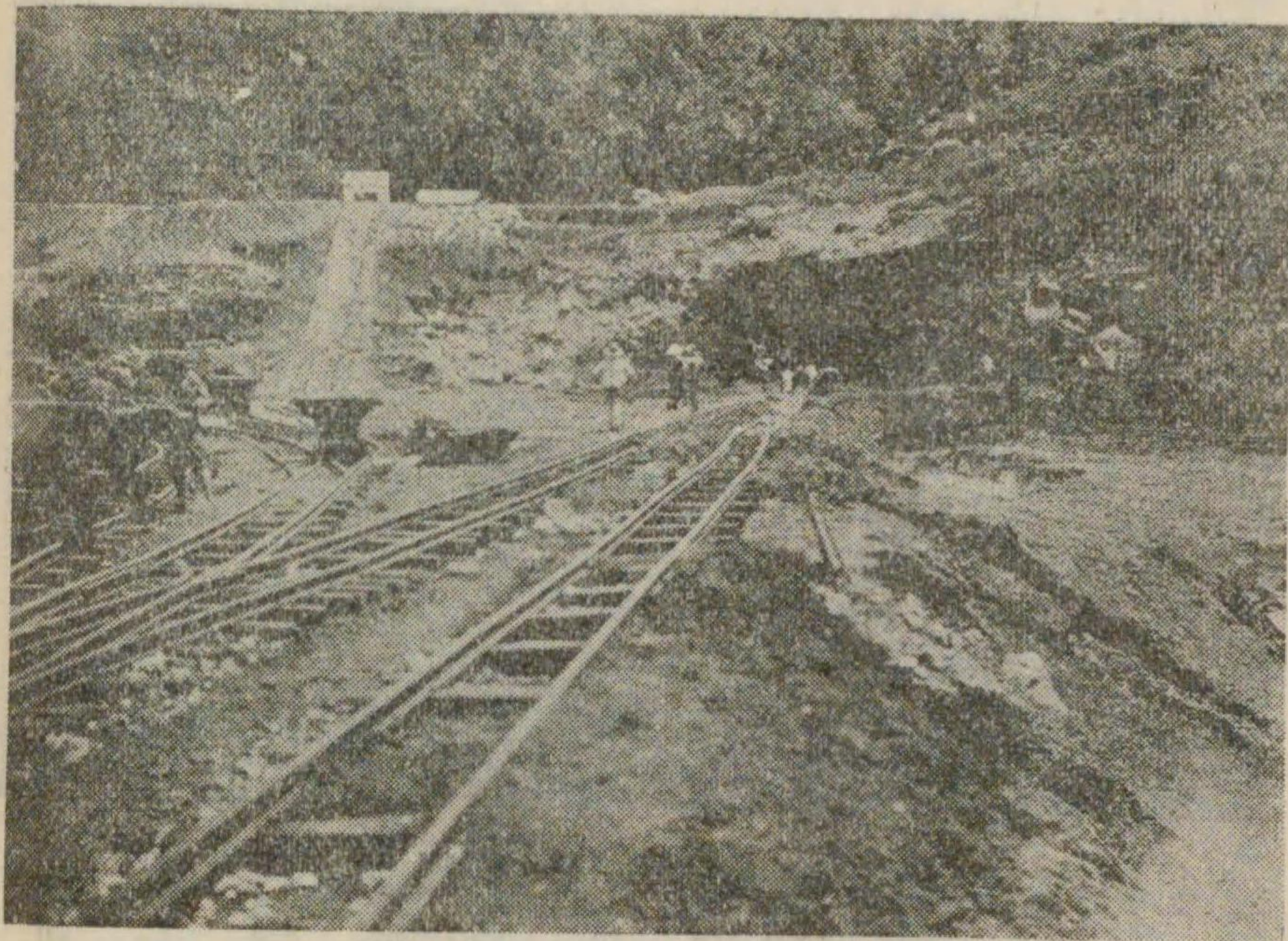
大冶鐵山 鐵山舖・獅子山・象鼻山の總稱で、前二者は我が國から多くの資金を出して居る漢冶萍煤鐵公司に屬し、明治二十三年の頃ドイツ人の發見したもので、我が國の八幡製鐵所へ鑛石を賣り、又自社の石灰窑セキクワイヨウ附近の製鐵所(第四十圖)



第四十圖 石灰窑の製鐵所

と漢陽の製鐵所にもこの鑛石を送る。又、象鼻山は湖北官鑛局の所屬である。

大冶鑛山は揚子江岸の黃石港の下流二哩、石灰窑の西方に位し、鐵山から石灰窑まで十八哩の鐵道により鑛石を運び茲から更に船で運ぶのである。鐵山附近は三四百米の丘陵地が連つて殆んど古生代の二疊石炭紀の石灰岩から成り所々に花崗岩の露出がある。鑛床はこの二岩石の接續部に出來たのである。鑛床は主に塊狀緻密の磁鐵鑛から



第四十一圖 大冶鐵山
獅子山に於ける露天掘の状況

なつて居る。獅子山の鑛床は長さ三〇〇米、幅一四—一〇〇米、鑛量は約七千萬噸と稱せられる。鑛石は鐵分64—65%を含む優秀なもので、露天掘によつて階段狀に採掘して居る。

金嶺鎮鐵山 ドイツ時代には採掘に至らなかつたが、邦領となつてから採掘することとなり、今は日支合辦の魯大会社が經營する。鑛脈は塊狀をなし、厚さ二四—五〇米、鑛量一億噸

といはれて居る。磁鐵鑛が主で褐鐵鑛・泥鐵鑛もある。含鐵量は60%。

鞍山鐵山 日支合辦鞍山鐵鑛振興無限会社が採掘して滿鐵經營の鞍山製鐵所に供給する。同鑛山は製鐵所を中心として半徑約九哩の圓内に散在し、埋藏量約三億噸、現今開鑛するは櫻桃園・王家堡子・大孤山・西鞍山・東鞍山等である。鑛質は大孤山・王家堡子は磁鐵鑛其他は赤鐵鑛で、含鐵量四〇乃至六〇%である。尙鞍山製鐵所の媒鎔劑にする石灰石も振興公司から供給を受ける（安奉線火連寨驛附近から採掘）。運鑛鐵道は前記の開鑛々區と製鐵工場とを連絡して居る。

本溪湖 からは鐵と石炭を産する。これは我が大倉組が日露戰役後（明治三十九年一月）から石炭の採掘に着手し、同四十四年一月支那人と合辦の本溪湖煤鐵公司を組織し、資本金七百萬兩、日支折半出資としたのである。

石炭は古生代石炭紀に屬する亞無煙炭で、製鐵用コークスの製造に適する。層の厚さ八層を併せて四〇尺、炭脈は市街の東北端から鐵道線路を横ぎつて西南に

走り面積約千三百六十四萬坪、その採炭は一半を滿鐵に供給し、一半を八幡製鐵所・德山燃料廠其の他滿鮮一般市場に出す。

此會社の製鐵所は市街の西南端に位し熔鑛爐二基を備へて一日の製鐵高各百三十噸であつたが近頃は一基のみ操業して居る。鐵鑛は南坎驛ナンカン(本溪湖の東南廿哩)の東五哩の廟兒溝より運び來るのである。鑛床は花崗岩質片麻岩又は雲母片岩中に層狀をなして存在する磁鐵鑛床である。

石炭は非常に多く埋藏されて居る。山西の高原は無煙炭高原の稱ある位であるが、今は未だこの高原各所で小規模に採掘してゐるのみである。其の他北支那には天津の東北には開平カイラン炭坑があり、山東省には淄川シセン・坊子の兩炭坑等がある。又滿洲には撫順炭坑等がある。揚子江流域では江西省の萍鄉が最も有名である。

開平炭坑 一八七八年支那人が百萬圓の資本金を以て採掘をはじめたもので、

一八九九年の出炭量は七十五萬噸であつたが、北清事變後イギリス人の手に歸し資本は一千萬圓となり、又一九一二年以來支那人經營の灤州煤煙公司と合併して開灤鑛務局と改め、更に資本金を二千萬圓として一日約一萬噸の出炭がある。其の主な仕向地は上海・香港・シンガポール・日本及び京奉鐵道沿線各地等で、秦皇島經由で輸出せられるもの年百四十萬噸に上る。その内日本へは約六十萬噸來る。炭質は瀝質で價格も比較的安い。

淄川・坊子兩炭坑 もとドイツの經營するところ、其の後日本の手を経て日支合辦となつたことは金嶺鎮鐵山と同様である。

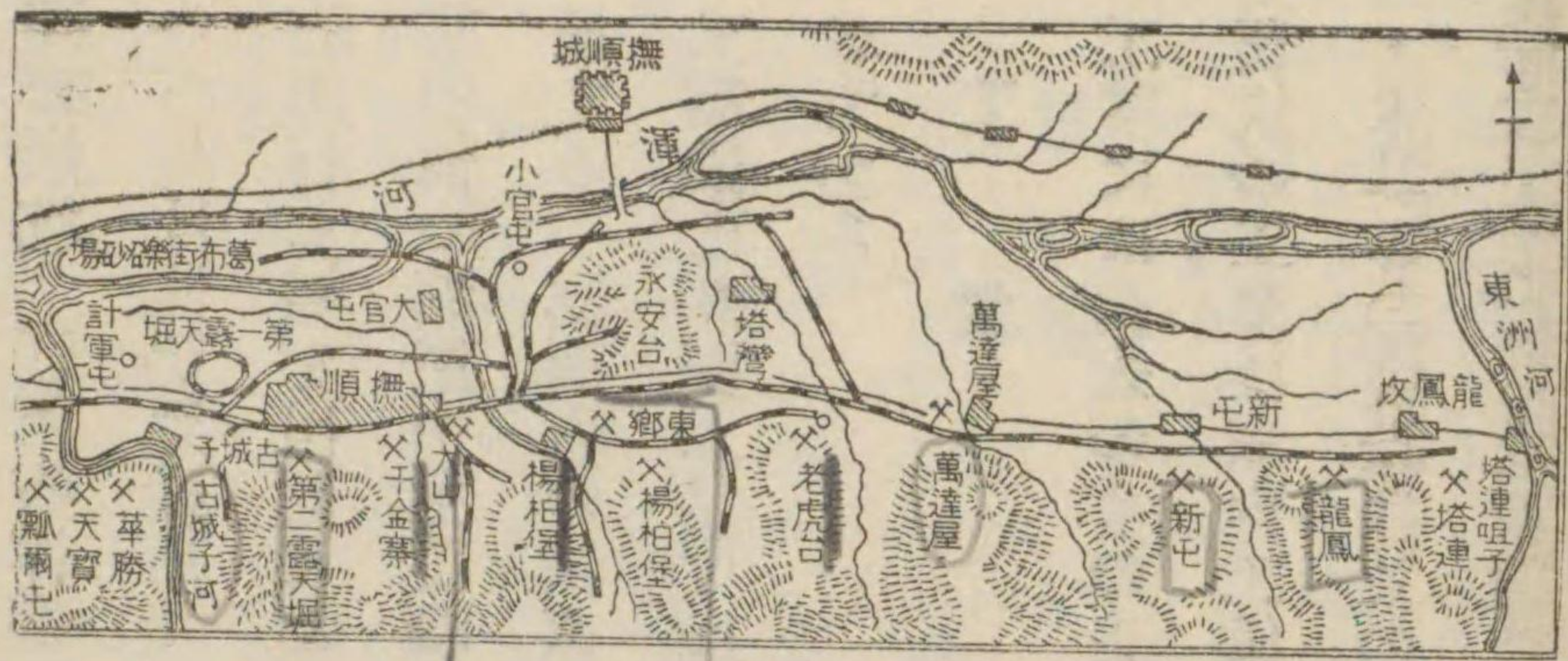
淄川炭坑は古生代石炭紀の石炭で、鑛區は百八十平方料に亙り、炭量六億噸、炭層の厚さ平均六米、上層は有煙炭、中層はコークスに適し、下層は無煙炭である。ドイツの手で新式方法で一九〇六—一四年の間に二百萬噸を出し、日本の手に歸してから合辦となる頃は年々四十萬噸を出して居つた。博山炭坑は前者の南

方に位し同じ地質に屬し、支那式の採掘法で、日本の手では年六十萬噸を出して居つた。

坊子炭坑は前者と大體同じ地質・歴史を有して居る。炭層は延長約二百米、炭量一億噸と計算せられる。一九〇二年ドイツは九千噸の採掘をなし、以後十年間年々約二十萬噸を出したが、坑道の進むにつれ、地層の亂脈、炭質の不純が甚しいので一先づ廢坑として居つたものである。

撫順炭坑 今から約六百年前既に高麗人によつて採掘せられ、其後一時中絶し、清朝末に至り清國人の手によつて再び採掘せられて居つたが、露人の南下と共に明治三十一年東清鐵道會社の經營する處となり、日露戰役後更に滿鐵の經營に移つたのである。

鑛區は東西四里南北一里餘、全面積一八二〇萬坪、渾河々南の連丘（第三紀中新世）の北斜面に露頭を現はし、平均二五—三〇度の傾斜をなして居る。炭層の



第四十二圖 撫順炭坑

厚さは西より東に次第に薄く、平均一三〇尺（最厚四二〇尺、最薄六〇尺）、埋藏量九億噸と推算せられて居る。滿鐵經營の始めには千金寨・楊柏堡・老虎臺の三坑と煙臺炭坑とで一日約三百噸を出すのみであつたが、其後大山・東郷二大鑛坑開かれ、明治四十四年度には一日約四千噸を出すこととなつた。大正四年度から萬達屋・古城子第一露天掘を、七年度から新屯坑・龍鳳坑・古城子第二露天掘を開き、近年は一日平均一萬五千噸を出すに至つた。

近頃はこの地の含油頁岩（Oil Shale）から石油を取出すことが計畫されてゐる。

萍鄉炭坑 江西省萍鄉縣城の東南約五哩、安源山にある。漢冶萍公司の所屬でこの石炭は漢陽製鐵所で製鐵のとき用ひられる。鑛區は延長約七哩、幅三哩、年額約四百萬噸を出してゐる。

其の他の鑛産中主要輸出品となつてゐる錫も世界的に有名であつて、西南地方に産する。雲南省の箇舊錫山は最も有名で石灰岩と花崗岩との接觸部から出る。

又石油は新疆・甘肅・陝西・四川の各省に分布するが、陝西省の延安油田が最も有名である。

工業

工業には舊式のものゝ新式のものゝがある。

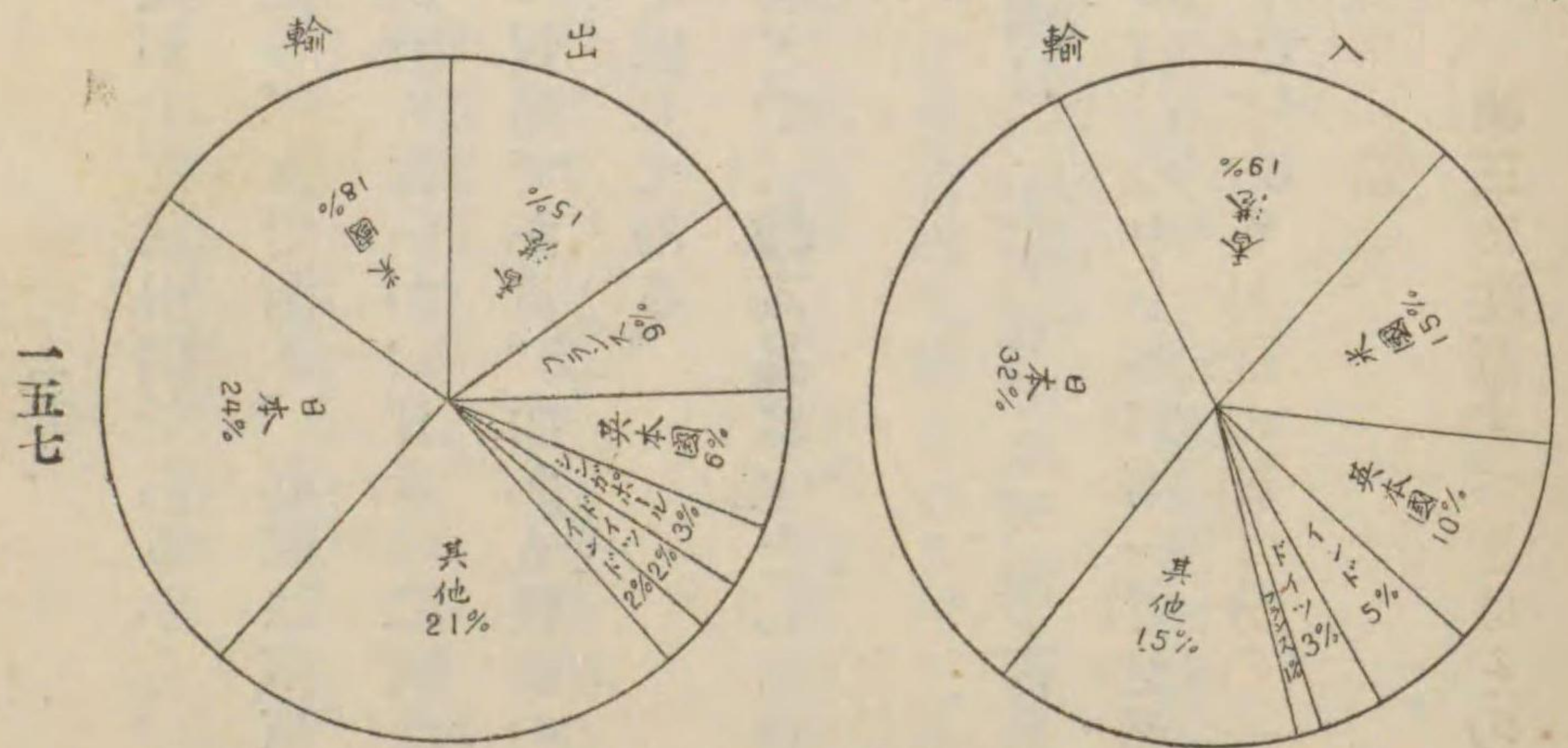
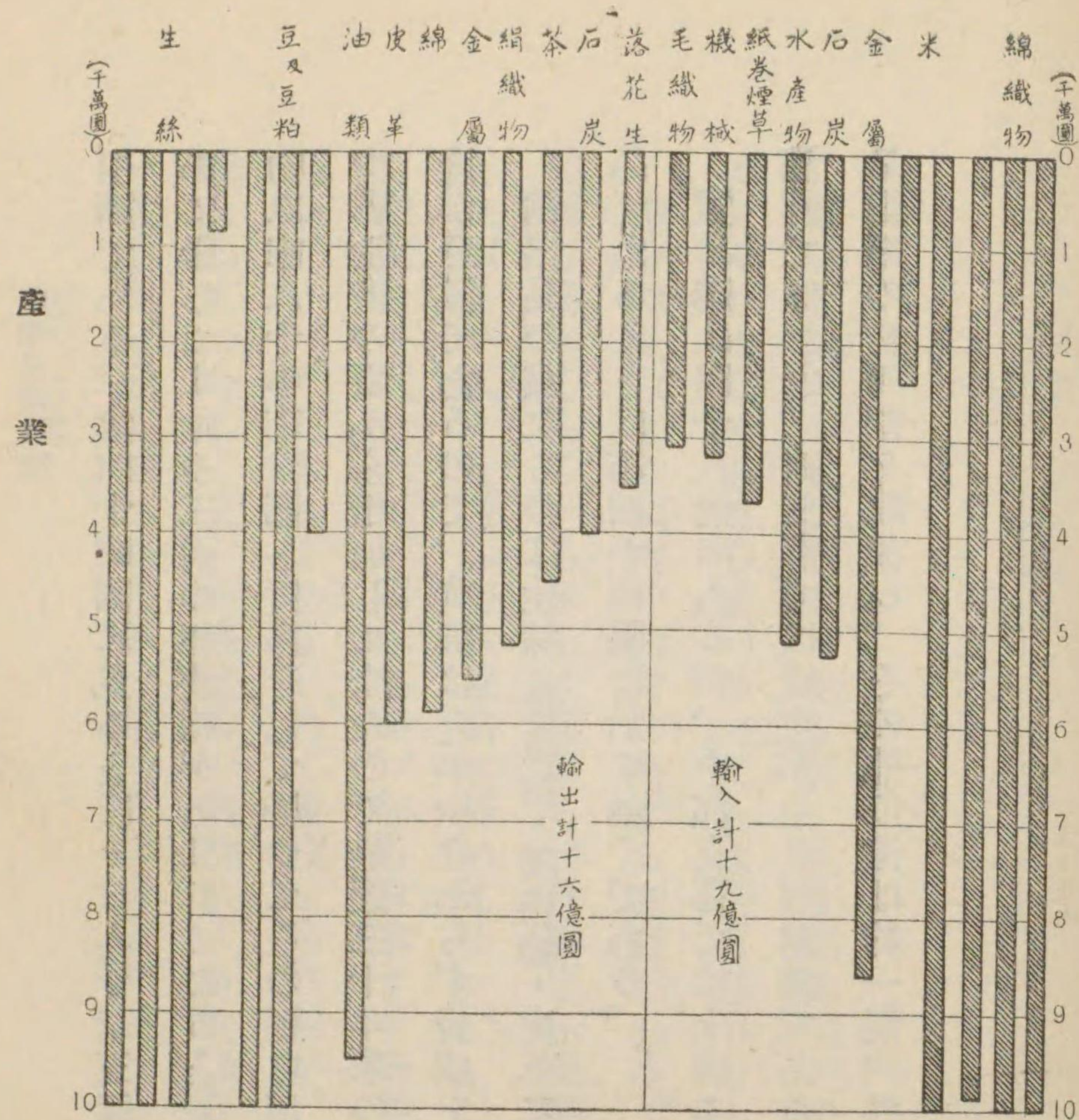
舊式の工業は家内工業で小規模の經營である。絹織物・陶器・玉器・諸種の金屬器・木具等の製造はこの方法による。

新式工業即ち近世的の工場工業は近年大都市に次第に設けられて來た。殊に上

海が最も盛である。こゝには紡織・製絲・製麻・製粉・製革等の諸工場がある。是等の中には日本人その他の外國人の經營又は出資にかゝるものも少くないことは前に述べた通りである。

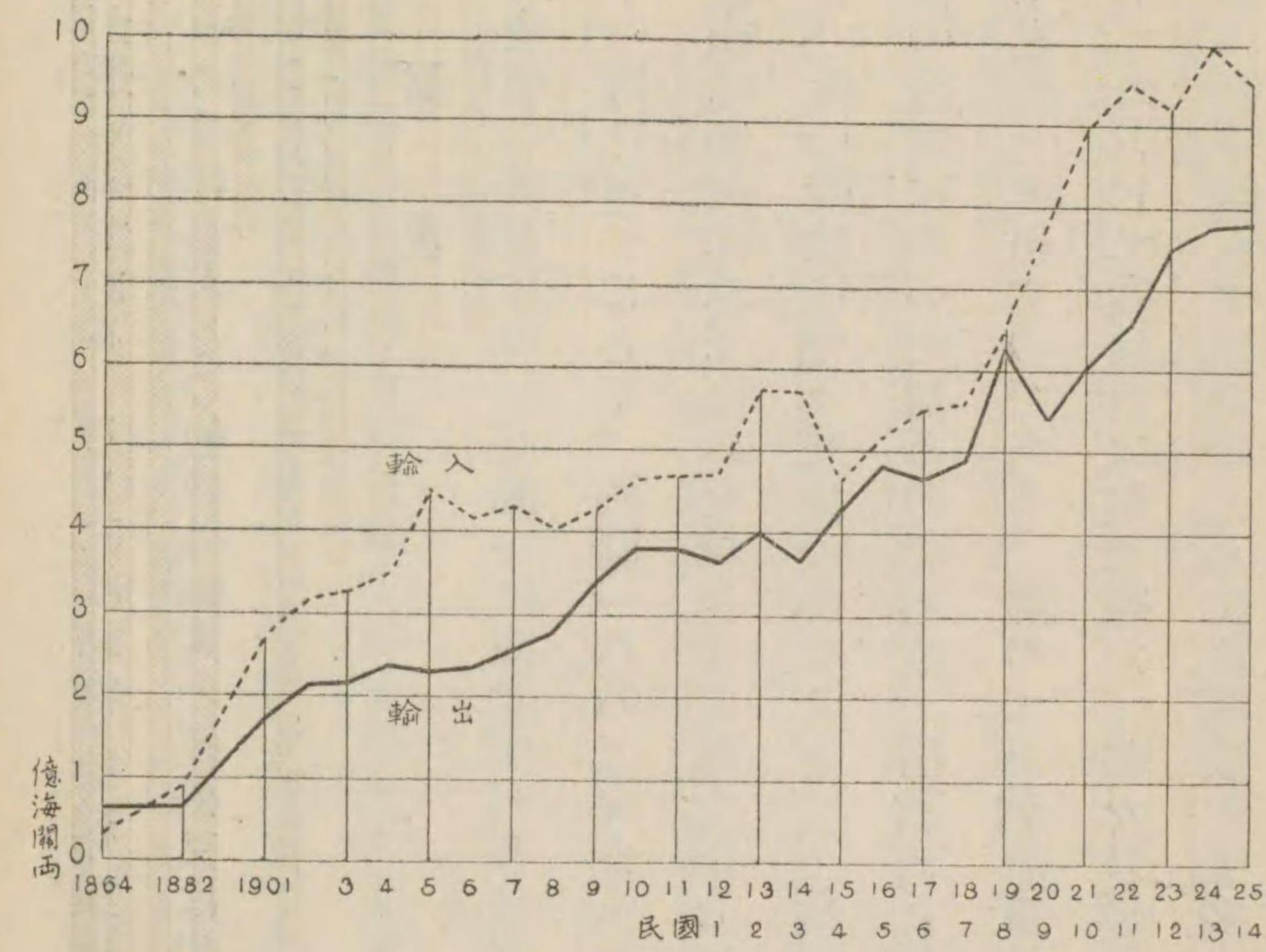
貿易

支那の貿易について**第一**に注意すべきは年々**輸入超過**であることである。第四十三圖に示すごとく、西曆一八八二年から年々數億圓の缺損となる。この連年の缺損は如何にしてこれを埋合せて來たかといふと、主として借款によつたのである。此の借款は中々歴史のあることで、相手國は次第に變つたが、今は日・英・米・佛の四國に仰いで居るのである。借款ある毎に當局者は若干のコンミッションを得て私腹を肥やすのである。随つて借款政策は支那の政治家に取つて最も都合のよいものとして盛に行はれて來た。年々何億圓といふ借款を生じても國家の爲に何等の憂を抱かず自己のためには國家をも顧みないといふ様に見えるのは實に情け



第四十四圖 外國貿易表(一九二五年)

一五七



第四十三圖 貿易發達表

ないことである。

第二に注意すべきは其の貿易額が日本内地の貿易額よりも常に少いといふことである。支那の貿易額は一九二五年には三十五億圓であるが、日本では同年には四十九億圓に上つてゐる。之を人口の割合に充てると支那の貿易額は日本の貿易額の約十分の一の率に當る。

第三に注意すべきはその取

一五六

引國である。第四十四圖に見るとほり日・英・米三國が主な取引國であるから、支那に對しては此の三國の經濟戰が行はれてゐると見るべきである。英國は南京條約以來八十年来支那と貿易をして居つてその歴史が最も古いが、日米の二國は日清戰役後の頃から増加して來たので最近三十年來の貿易である。而かも後者の發達が急激であるので、英國は近年少なからず脅威を感じてゐる。

輸出品の重なるものは生絲・農産物・鑛産物・皮革などで、輸入品は主として日用品であることは第四十四圖に示す如くである。

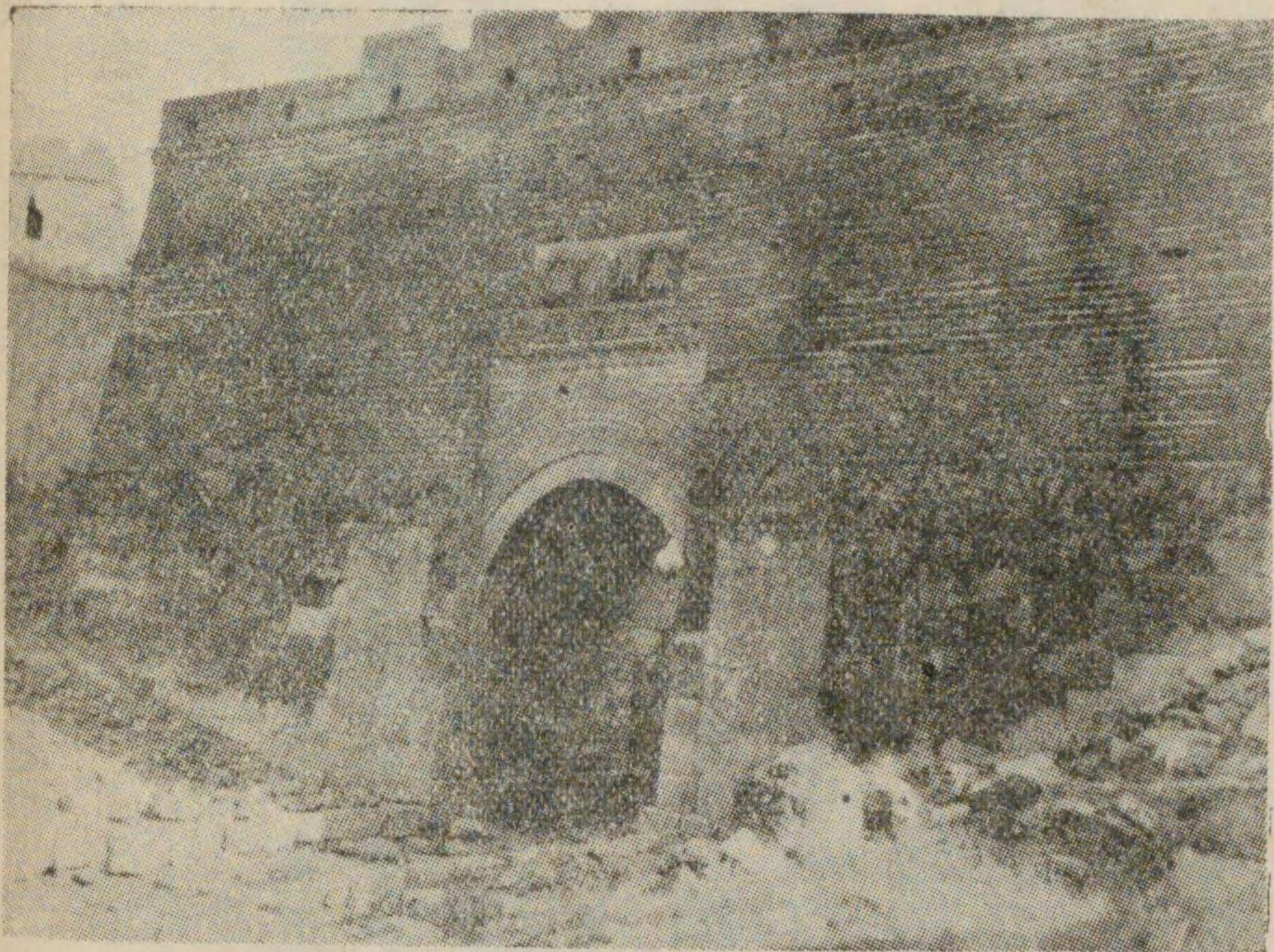
貿易港は四十八箇所あるが、中部支那では上海・漢口、北支那では天津・青島、滿洲では大連、南支那では廣東が主な貿易港である。その中上海が第一で支那貿易總額の約四割を取扱ひ、その他の港は約一割内外である。

交通

南船北馬といふ語があるやうに、北支那は陸上交通が主で、中部支那は揚子江本支流をはじめ水運の便の多いことは既に述べたところである。

道路は北京より國內の諸方に通ずる國道がある。之を官馬大路といふ。しかし修理不完全であるから多くは惡路で、自動車（支那では汽車といひ、汽車のことを火車といふ）を通じ得る道路は極めて少い。

鐵道は一八七六年（明治九年）即ち日本より四年遅れて、上海・吳淞間約十二哩間にイギリス人によりはじめて敷設せられたが、翌年破壊された。これは惡疫流行のあつたことと、外國勢力の内地に入るを恐れたこととによるのである。その後五年を経て再び北支那の開平炭坑附近に設けられてから次第に延長し、日清



第四十五圖 長城の關門

圖は北京の北々西約六十軒にある八達嶺の長城の關門である。門の上には「北門鎖鑰」の四字を刻む。今は京綏線が通じて居るのに、かつては北京から蒙古に通ずる大切な道路で、今も馬や駱駝で貨物を運ぶものゝ往來が絶えない。

一六〇
戦役の頃（一八九四—一九〇五年）には天津と山海關の間に通じた。その後次第に發達して來たのであるが、多くは外國の資本と技術によつたもので、本國の資本と技術による所謂愛國鐵道は、北京・綏遠間の京綏

線（今は綏遠から更に包頭まで延びた）が主なもので、其の他廣東附近に短距離の鐵道がある位である。

全國鐵道の總延長は約七千哩、之を日本に比べると、日本内地の鐵道總延長は一萬哩に達するから、面積の割合から云ふと支那の鐵道は日本の十分の一位の密度に當るのである。

支那の鐵道は主に東部に發達し、その約三分の一は滿洲にある。

鐵道の系統は之を南北系統と東西系統とに二大別することが出来るのである。

南北系統の鐵道

之に二つある。其の一は北京から漢口に至る京漢線と、漢口から廣東に至る粵漢線（途中一部未成）、並に廣東から香港の對岸九龍に至る廣九線とで、北京・九龍間通計約六百里を連ねるものである。

他の一は第一のものの東方にあつて、天津から南京の對岸浦口に至る津浦線と、

南京・上海間の滬寧線と、上海・寧波間の滬杭甬線（一部未成）とで、天津・寧波間約四百里である。

次に是等の鐵道について概説する。

京漢線 本線一二一四杼四九三、支線一〇六杼八二六、軌間四呎八吋半の國有鐵道で、資金は一億一千六百萬圓（一九二〇年末）。一八九七年起工し、一九〇五年全部開通、白耳義シンジケートの資金（露・佛がその背後からの實際の支出者）五百萬ポンド、日本（正金銀行）の資金百萬ポンドで出來た。

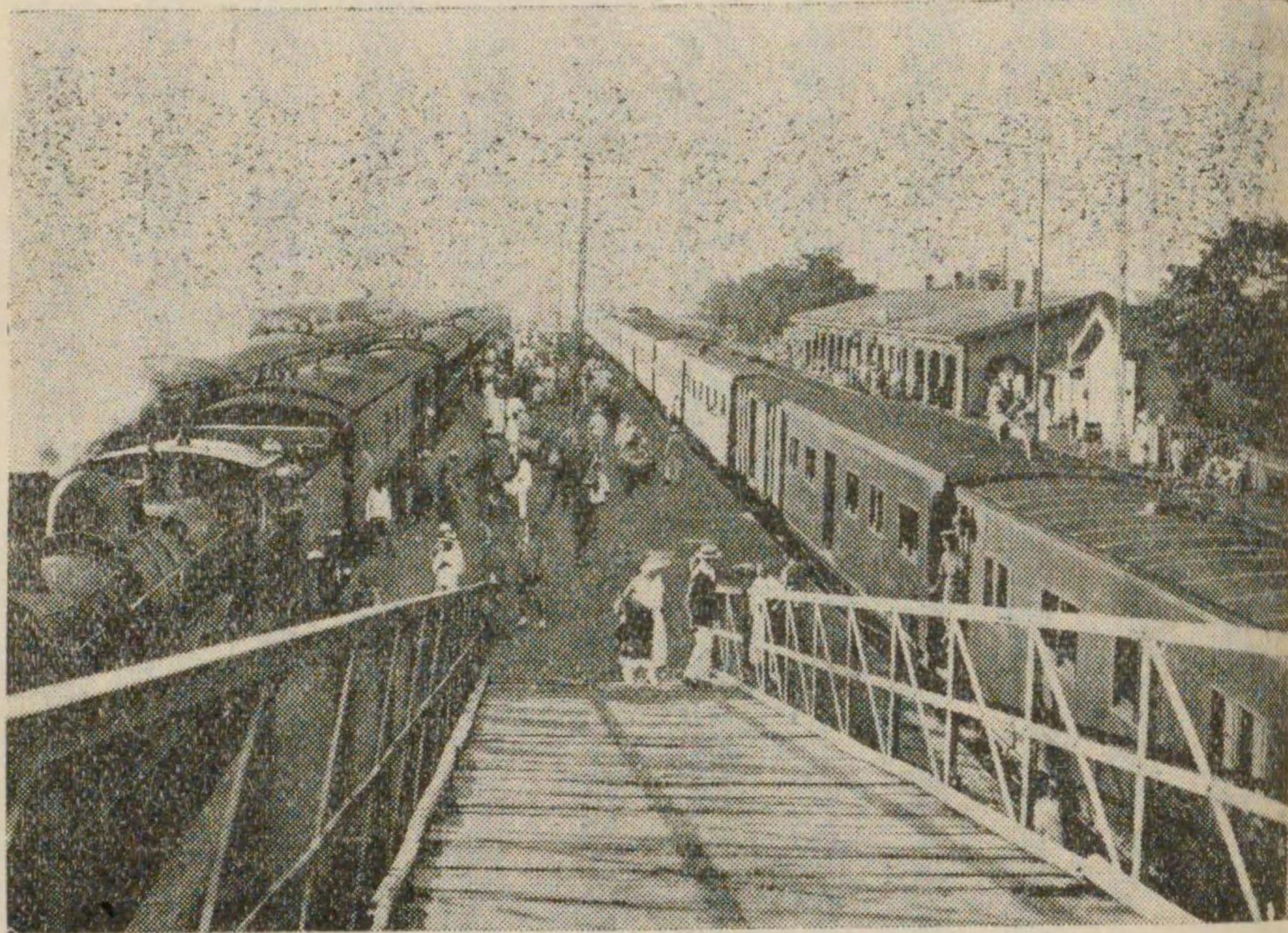
私は此の線の急行で漢口から北京に行つたから、その時のことを少し記して見よう。先づ時間割を見ると、

漢口至北京特別快車頭二三等
每逢星期一四日開行飲食俱備

漢口大智門站 下午十點開

北京前門站 上午九點三十分到

とある。この意味は漢口から北京に至る特別急行一二三等が、毎週月木兩日に出る。食堂車もある。漢口の大智門停車場を午後十時に發し、北京の前門停車場に午前九時三十分到着するといふのである。即ちこの特別急行は漢口を夜十時に發すると主要驛のみに停車し



第四十六圖 鄭州站

鄭州は京漢線と海蘭線との交叉にあたり交通上・軍事上大切なところである。

交通

て翌々日午前九時半に北京に着くのである。列車の編成は機關車・警衛の軍人車・行李車・頭等臥車（一等寢臺車、定員二十八人）二等臥車（定員三十二人）・膳車（食堂車）・三等膳車・乗務員車の八輛から成つて居つた。車や切符には支那語とフランス語とで認めてあつたのを見てもこの鐵道の出資國がすぐ分るのである。上海附近のものは英語を併記してある。

粵漢線 粵（廣東）・漢（漢口）を連ねる豫定、總延長一〇七四杼三八、内開業六三九杼八六、株州（株州から萍郷に至る株萍鐵道の分岐點）・韶州間即ち湖南・廣東二省間未成、軌間四呎八吋半、初め米・白・露・佛・英の資本によつたが、廣東省内のものは之を返済し自省内のものゝ力によつて經營し、湖北・湖南兩省内の部分は國有で、英・米・獨・佛の資本によつて出來た。廣東省の南部は大正四年から湖北・湖南の部は大正六年から開通した。

廣九線 一八九九年英支の合辦で計畫し、一九〇七イギリスから借款して工事に着手し、一九一一年全通した。軌間四呎八吋半。本線一一哩の内、イギリス租借地内の二哩はイギリスに屬する。九龍・深圳間。この間は山が多くて工費が一千五百六十萬元を要した。深圳・廣東間は支那國有で資金百五十萬ポンド、英支合辦會社中英公司の借入金で出來た。この方の部分は平野又は高原で工事はさまで困難でなかつたが、只東江の架橋が困難であつた。この鐵道開通のため香港・九龍の繁榮を助けたことが大で、粵漢線全通の上は廣東の繁榮は更に一層香港に向ふであらうと期待される。

津浦線 本線一〇一三杼八三、支線六二杼九九、軌間四呎八吋半の國有鐵道で、資金一億二百萬元（一九一九年末）、山東省以北はドイツの出資（六五〇萬ポンド）、江蘇省以南はイギリスの出資（五〇〇萬ポンド）一九〇八年起工、一九二二年全通した。

滬寧線 滬（上海）・寧（江寧即ち南京）間を連ねる三二七杼一三、軌間四呎八吋

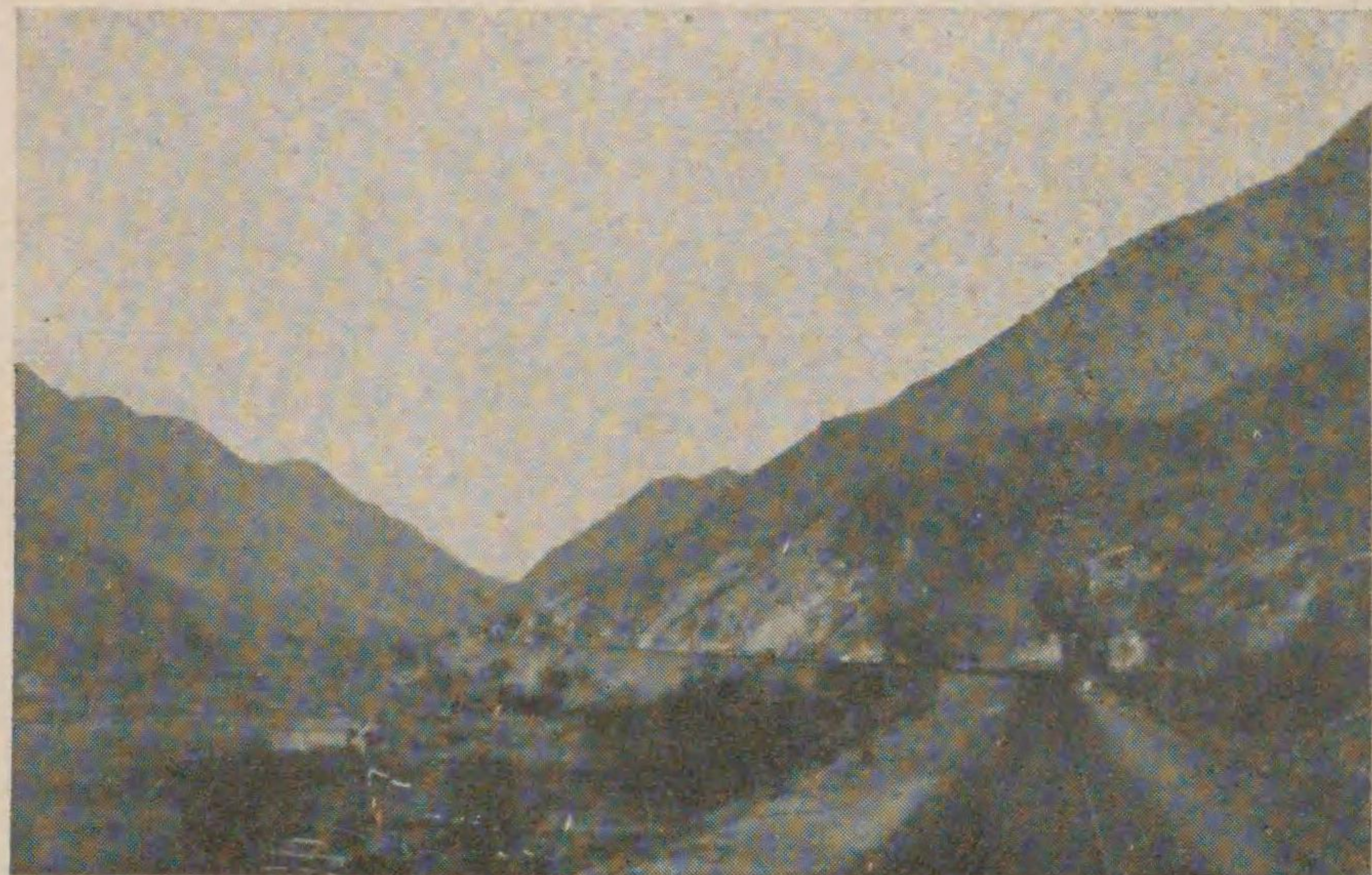
半の國有鐵道で、この内上海・吳淞間(淞滬線一六粁〇九)は一八九八年から開通し、滬寧線三一粁〇四は一九〇八年から開通した。イギリスの資本と技師によつて出來たものである。

滬杭甬線 上海から杭州を経て寧波(甬)に通ずる國有鐵道で、滬杭間一八九粁五七、英米の資本により一九一〇年開通、杭甬間九四粁中一七粁(錢塘江附近)は未成であるが、其の他は一九一五年開通した。

東西系統の鐵道

之にも二大幹線がある。其の一は北京から奉天に至る京奉線及び北京から綏遠を経て包頭に至る京綏線で、奉天・包頭間は約三百五十里である。他のは江蘇省の海州から陝州を経て甘肅省の蘭州に至る海蘭線(隴海線)である。

京奉線 本線八四三粁一二、溝帮子から營口對岸に至る支線九一粁一、北京から通州に至る支線二四粁六九等、前に述べた様に支那最古の鐵道である。國有で



第四十七圖 京綏線の一部



第四十八圖 驕車

第四十七圖

第四十五圖に示す八達嶺の長城に達する少し手前の方の沙河の谷で、この河谷に沿ひ北京から蒙古への道路及び京綏線が通じて居るのである。

第四十八圖

私達四人の支那旅行の際、包頭から南海子へ黄河を調べに行つた歸途の状況である。一行の乗る二臺の轎車は前後に騎馬の巡官と兵士によつて警衛されて居る。支那旅行で少し田舎の方に出やうとすればかくも大げさで不便になるのである。この寫眞は田中啓爾氏の撮映にかゝる。

軌間四呎八吋半、主に英國の資本による。日本も一部分出資した。

京綏線 前に述べた様に支那の愛國鐵道で、國有、軌間四呎八吋半、北京・綏遠間本線四二八紵七八、支線七〇紵一。一九〇九年北京張家口間開通(第四十七圖)、一九二一年綏遠まで開通、但し後者には日・米から一部借款した。又綏遠・包頭間約一五四紵は、一九二二年から開通した。

海蘭線(隴海線) 總延長約一六〇〇紵、四呎八吋半の國有鐵道。この中海州・陝州間約八百紵開通、徐州で津浦線、鄭州で京漢線と連絡して居る。ベルギーの資本で建設したのである。

その他の鐵道中主なものは山東鐵道・正太鐵道・道清鐵道であるが、前者は津浦線、後二者は京漢線の營養線たる性質を帯びてゐる。

山東鐵道 青島・濟南間四九四紵五の鐵道で、もとドイツが一八九八年膠州灣租借後直ちに着手し、一九〇四年完成したもので、一時日本の占有するところと

なつたが、今は支那の國有となつて居る。軌間は四呎八吋半。

正太鐵道 直隸正定府の南方京漢線の石家莊から山西臺地を上つて太原に至る二四三呎の鐵道で、軌間一米の狹軌鐵道である。一九〇七年ロシア・フランスの資本で出來た國有鐵道である。

道清鐵道 河南省の道口鎮から京漢線の新郷を経て西方山西高原の入口の清化に至る九三哩二一の標準軌間鐵道で、イギリスの資本で一九〇五年竣工。この西部清化附近は石炭の産が多いから、之を運ぶのが、この鐵道の主な目的である。又滇越鐵道と南潯鐵道とは此の大幹線とは全く別系統に屬する。

滇越鐵道 滇(雲南)・越(東京地方)間を連ねるフランス所屬の鐵道である。印度支那の安南鐵道が支那領土内に延びたもので、老開・雲南間二九三哩は支那領土内にある。老開・海防間は二四六哩である。全線凡て軌間は一米。日清戦役三國干渉の報酬としてフランスが一八九六年に雲南省内へ延長する權

利を得たものである。この部分は一九〇三年に起工し、始めはフランスの滇越公司の經營であつたが、工事困難のため一旦フランス政府の手に移つて。一九一〇年に全通した。資金二億一千万フラン。全通後は再び其の經營を安南鐵道と共に滇越鐵路公司に一任して居る。但し老開から海防に至るものは佛政府の手で一九〇一—一九〇六年に出來たのである。

海防はトンキン第一の港で首府河内から老開を経て雲南省の蒙自までは紅河の流域平野に沿うて居るが、それからは土地高峻となり、途中一七〇〇—二〇〇〇米の山を横ぎつて雲南に達するので、大雨の後などには土砂崩壊して不通になることが屢々ある。しかし此の鐵道開通のために雲南の東南部が開發されたことは著しいものである。

南潯鐵道 江西省の南昌・九江(潯)間の私設鐵道で、軌間四呎八吋半、僅に七九哩半の鐵道に過ぎないが、その資金の大部分が日本から出て居て、日本技師の

監督の下に敷設せられたもので、揚子江流域に於ける日本人關係の唯一の鐵道である。營業成績は今は不良である。しかしこれは一地方鐵道であるからで、これが臺灣海峽にでも出るか、他の幹線と連絡することゝなれば有望である。

次に滿洲の鐵道は京奉線に連絡する我が南滿洲鐵道とロシアの東支鐵道とが大幹線で、其の他は以上三線の營養線である。その中長春吉林間の吉長鐵道（七九哩）は我が國の資本で出來たもので、將來朝鮮の會寧に出で、日本海岸の清津港に通ずる豫定である。又四洮鐵道（四平街・洮南間一九四哩）と洮昂鐵道（洮南・昂々溪間一四二哩）によつて南滿・東支兩鐵道は連絡されてゐる。

又最近開通した打通鐵道（一五五哩）は京奉線の一驛打虎山から通遼（蒙古名は白音太拉）を結ぶもので、滿鐵の竝行線で條約違反であつて滿鐵の繁榮を奪ふものであると世論のやかましい鐵道である。

次に滿鐵・東支の二鐵道について略述する。

南滿洲鐵道

滿鐵は明治三十九年に創立され、最初資本金は二億圓、内一億圓は政府が現品（鐵道・鑛山等）で出資し、爾餘の一億圓を株式（一株二百圓、其後百圓と改正）に分ち、日支兩國人を株主とした半官半私の日支合辦會社である。資本金は其後の増資により四億四千萬圓となつた。本線はもと軌幅五呎の露國式のものであつたが、日露戰爭中三呎六吋として日本軍は内地の車輛を用ひたが、滿鐵經營後四呎八吋半に改築したのである（四十一年完成）。沿線には一のトンネルなく最急勾配も百分の一である。

安奉線はもと日露戰役中我軍が布設した二呎六吋の輕便線であつたが、支那の承認を経て四呎六吋半に改築し、明治四十四年十一月一日全通したのであるが、沿線は長白山脈を横ぎるため難工事の處が多かつた。安奉線は鴨綠江の架橋の完成（明治四十四年）によつて、その職能を發揮したことは多言の要はあるまい。

奉天——安東——京城——釜山——下關（所要時數約四十時間）

交通